

授 業 概 要

平成25年度

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部

〒371-0023 群馬県前橋市本町2-12-1

TEL 027-210-1294

FAX 027-260-1294

目 次

理学療法専攻

1. 授業計画 (シラバス)

1) 基礎科目

人間哲学	1
心理学	2
物理学	3
法学	4
情報処理	5
医療英語I	7
医療英語II	8
スポーツ体育	9
基礎演習I	11
基礎演習II	12
専門演習I	13
専門演習II	14
ボランティア活動I	15
ボランティア活動II	16

2) 専門基礎科目

解剖学I	17
解剖学II	18
解剖学実習	19
体表解剖・触診	20
生理学I	21
生理学II	22
生理学実習	23
運動生理学演習	24
運動学I	25
運動学II	26
臨床運動学実習	27
人間発達学	28
病理学概論	29
臨床心理学	30
一般臨床医学	31
リハビリテーション医学	32
内科・老年医学I	33
内科・老年医学II	34
整形外科I	35
整形外科II	36
神経内科学I	37
神経内科学II	38
精神医学	39
小児科学	40
リハビリテーション入門	41
保健医療福祉論	42
公衆衛生学	43

3) 専門科目

理学療法概論	45
理学療法セミナーⅠ	46
理学療法セミナーⅡ	47
理学療法評価学Ⅰ	48
理学療法評価学Ⅱ	49
理学療法評価学実習Ⅰ	50
理学療法評価学実習Ⅱ	51
運動療法学Ⅰ	52
運動療法学Ⅱ	53
運動療法学Ⅲ	54
運動療法学実習Ⅰ	55
運動療法学実習Ⅱ	56
運動療法学実習Ⅲ	57
物理療法学	58
物理療法学実習	59
義肢装具学	60
義肢装具学実習	61
理学療法技術論Ⅰ	62
理学療法技術論Ⅱ	63
理学療法技術論Ⅲ	64
理学療法技術論実習Ⅰ	65
理学療法技術論実習Ⅱ	66
理学療法技術論実習Ⅲ	67
地域理学療法Ⅰ	68
地域理学療法Ⅱ	69
地域理学療法学実習	70
臨床実習指導Ⅰ	72
臨床実習指導Ⅱ	73
評価実習	74
総合臨床実習Ⅰ	75
総合臨床実習Ⅱ	76
卒業研究	77

目 次

作業療法専攻

1. 授業計画（シラバス）

1) 基礎科目

人間哲学	79
心理学	80
物理学	81
法学	82
情報処理	83
医療英語Ⅰ	85
医療英語Ⅱ	86
スポーツ体育	87
基礎演習Ⅰ	89
基礎演習Ⅱ	90
専門演習Ⅰ	91
専門演習Ⅱ	92
ボランティア活動Ⅰ	93
ボランティア活動Ⅱ	94

2) 専門基礎科目

解剖学Ⅰ	95
解剖学Ⅱ	96
解剖学実習	97
生理学Ⅰ	98
生理学Ⅱ	99
生理学実習	100
運動学Ⅰ	101
運動学Ⅱ	102
運動学実習	103
人間発達学	104
病理学概論	105
臨床心理学	106
一般臨床医学	107
リハビリテーション医学	108
内科・老年医学Ⅰ	109
内科・老年医学Ⅱ	110
整形外科Ⅰ	111
整形外科Ⅱ	112
神経内科学Ⅰ	113
神経内科学Ⅱ	114
精神医学	115
小児科学	116
リハビリテーション入門	117
保健医療福祉論	118
公衆衛生学	119

3) 専門基礎科目

作業療法入門	121
--------------	-----

作業療法入門実習Ⅰ	122
作業療法管理論	123
ひとと作業	124
ひとと作業活動Ⅰ	125
ひとと作業活動Ⅱ	127
作業療法研究法	129
作業療法セミナーⅠ	130
作業療法セミナーⅡ	131
作業療法評価法Ⅰ	132
作業療法評価法Ⅱ	133
作業療法評価法Ⅲ	134
作業療法評価法特論Ⅰ	135
作業療法評価法特論Ⅱ	136
身体機能作業療法学Ⅰ	137
身体機能作業療法学Ⅱ	138
精神機能作業療法学Ⅰ	139
精神機能作業療法学Ⅱ	140
発達過程作業療法学Ⅰ	141
発達過程作業療法学Ⅱ	142
高齢期作業療法学Ⅰ	143
高齢期作業療法学Ⅱ	144
ひとと暮らしⅠ	145
ひとと暮らしⅡ	146
義肢装具学	147
作業療法治療学Ⅰ	148
作業療法治療学Ⅱ	149
作業療法治療学Ⅲ	150
作業療法技術論Ⅰ	151
作業療法技術論Ⅱ	152
作業療法技術論Ⅲ	153
作業療法特論Ⅰ	154
作業療法特論Ⅱ	155
作業療法特論Ⅲ	156
作業療法特論Ⅳ	157
地域作業療法入門Ⅰ	158
地域作業療法入門Ⅱ	159
地域作業療法実習Ⅰ	160
地域作業療法実習Ⅱ	161
臨床評価実習指導Ⅰ	162
臨床評価実習指導Ⅱ	163
臨床評価実習Ⅰ	164
臨床評価実習Ⅱ	165
臨床総合実習指導Ⅰ	166
臨床総合実習指導Ⅱ	167
臨床総合実習Ⅰ	168
臨床総合実習Ⅱ	169
卒業研究	170

シラバスの目的とその活用について

シラバスとは、皆さんが授業を受ける前に、それぞれの授業科目がどのような目標と内容で、またどのような計画によっておこなわれるかをあらかじめお知らせするものです。具体的には「授業到達目標」「授業概要」「授業計画」「教科書・参考書」「成績評価の方法と基準」「履修上の注意」等が記載されており、スムーズに科目選択ができるようになっています。またシラバスには予習復習欄やテストやレポートの内容が示されているため、計画的に学習を進める指標になります。

リハビリテーション学部では理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則り、カリキュラムが編成されています。そのため必修科目が大半を占めています。つまり、各授業がそのまま国家試験に直結しているといえるでしょう。したがって、国家試験の過去問題や予想問題など、各授業内において、国家試験対策を意識した内容も多く含まれます。本シラバスを予習・復習に積極的に活用し、全員が国家試験に合格できることを強く望みます。

理学療法専攻

理学療法専攻 科目一覧

◎必修科目 △選択科目

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年	2年	3年	4年	備考	
		必修		後期	前期	後期	前期		
人文科学	人間哲学	1	2	◎					
	心理学	1	2	△					
	国際文化論	1	2	△					
	マスメディア論	1	2	△					
自然科学	物理学	1	2	△					
社会科学	法学	1	2	△					
	情報処理	1	2	△					
外国語科目	医療英語Ⅰ	1	2	◎					
	医療英語Ⅱ	1	2	△					
保健体育科目	スポーツ体育	1~4	2		△				
総合科学	基礎演習Ⅰ	1	1	◎					
	基礎演習Ⅱ	2	1		◎				
	専門演習Ⅰ	3	1			◎			
	専門演習Ⅱ	4	1				◎		
	ボランティア活動Ⅰ	1	1	◎					
	ボランティア活動Ⅱ	2	1		◎				
小計		10	14	10	2	1	1		
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	2	◎					
	解剖学Ⅱ	1	2	◎					
	解剖学実習	1	1	◎					
	体表解剖・触診演習	2	1		◎				
	生理学Ⅰ	1	2	◎					
	生理学Ⅱ	1	2	◎					
	生理学実習	1	1	◎					
	運動生理学演習	2	1		◎				
	運動学Ⅰ	1	2	◎					
	運動学Ⅱ	1	2	◎					
	臨床運動学実習	2	1		◎				
	人間発達学	1	1	◎					
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	2	2		◎			
		臨床心理学	1	2		◎			
		一般臨床医学	1	2	◎				
		リハビリテーション医学	1	2		◎			
内科・老年医学Ⅰ		2	2		◎				
内科・老年医学Ⅱ		2	2		◎				
整形外科Ⅰ		2	2		◎				
整形外科Ⅱ		2	2		◎				
神経内科学Ⅰ		2	2		◎				
神経内科学Ⅱ		2	2		◎				
精神医学	2	2		◎					
小児科学	2	2		◎					
の理念	リハビリテーション入門	1	1	◎					
	保健医療福祉論	1	1	△					
	公衆衛生学	1	1	△					
小計		43	2	23	21	0	0		
療法学	理学療法概論	1	2	◎					
	理学療法セミナーⅠ	3	1			◎			
	理学療法セミナーⅡ	4	1				◎		
	理学療法評価Ⅰ	2	2		◎				
	理学療法評価Ⅱ	2	2		◎				
	理学療法評価学実習Ⅰ	2	1		◎				
	理学療法評価学実習Ⅱ	2	1		◎				
	運動療法学Ⅰ	2	2		◎				
運動療法学Ⅱ	2	2		◎					
運動療法学Ⅲ	3	2			◎				
運動療法学実習Ⅰ	2	1		◎					

選択科目から4単位以上履修

必修科目43単位のほか、選択科目から1単位以上履修

必修科目66単位履修

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年	2年	3年	4年	備考
		必修		後期	前期	後期	前期	
理学療法治療学	運動療法学実習Ⅱ	2	1			◎		
	運動療法学実習Ⅲ	3	1			◎		
	物理療法学	2	2			◎		
	物理療法学実習	2	1			◎		
	義肢装具学	2	2			◎		
	義肢装具学実習	3	1			◎		
	理学療法技術論Ⅰ	3	2			◎		
	理学療法技術論Ⅱ	3	2			◎		
	理学療法技術論Ⅲ	3	2				◎	
	理学療法技術論実習Ⅰ	3	1			◎		
地域療法学	地域理学療法Ⅰ	3	2			◎		
	地域理学療法Ⅱ	3	2			◎		
	地域理学療法実習	3	2			◎		
臨床実習	臨床実習指導Ⅰ	3	2			◎		
	臨床実習指導Ⅱ	4	2				◎	
	評価実習	3	4				◎	
	総合臨床実習Ⅰ	4	8				◎	
	総合臨床実習Ⅱ	4	8				◎	
	卒業研究	4	2				◎	
計		66	0	2	17	26	21	
合計		119	14	35	40	27	22	124

必修科目66単位履修

卒業要件

基礎教養科目の必修科目10単位、選択科目から4単位以上、専門基礎科目の必修科目43単位、選択科目から1単位以上、専門科目の必修科目66単位を修得し、124単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：56単位(年間))

1) 基礎科目

科目名	人間哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	人間哲学				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を鑑み、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	発達段階、学習、記憶、知覚、感覚、認知、思考、動機づけ、防衛機制、知能、パーソナリティ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心の成立を支える機能や心に関連する現象などについて幅広く学び、人間を心理学的な観点から捉える基本的知識を得る。

〔到達目標〕

- ①発達という観点から、人を縦断的に捉えられるようになる。
- ②学習のメカニズムを理解し、人の行動と記憶に関する基礎を理解できる。
- ③感覚や知覚の仕組みや特徴を理解できる。
- ④思考と言語の発達や特徴を理解できる。
- ⑤人が自分の心を守る仕組みを理解し、不適応行動などの基礎を理解できる。
- ⑥知能と知能を調べる方法を理解できる。
- ⑦パーソナリティとそれを調べる方法の基礎を理解できる。

■授業の概要

非常に幅広い心理研究の成果を通して、人間心理や行動の基礎となる、発達、学習、記憶、思考、言語、知能、動機、防衛、パーソナリティなどの諸テーマについて学んでいく。後期の臨床心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっているので、積極的に学習に臨んでほしい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション：心理学の歴史
第2回	発達：遺伝、環境、レディネスなど
第3回	エリクソンの発達理論、アイデンティティ論とアイデンティティ・ゲーム
第4回	学習：古典的条件づけ、オペラント条件付け、社会的学習理論
第5回	記憶：記憶のネットワーク理論、記憶の種類
第6回	記憶の障害：健忘など
第7回	感覚・知覚：感覚の種類 視知覚について
第8回	錯視・錯覚・形・奥行き知覚：ゲシュタルト心理学
第9回	聴知覚・触覚・体性感覚について
第10回	思考・言語 ピアジェの認知発達段階論
第11回	非言語的・言語的コミュニケーション
第12回	動機づけと防衛機制
第13回	個人差 知能モデルと知能検査
第14回	パーソナリティ理論とパーソナリティ検査①
第15回	パーソナリティ検査②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・選択科目ではあるが、他の多くの科目に関連する基礎知識を学ぶので、履修することが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・チャトルカードにて出欠を確認する。チャトルカードは授業開始20分以内までは受取可能とする（それ以後の受講は欠席扱いとするので注意）。授業終了後に必ず提出をすること（提出がない場合は欠席扱い）。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は退席を命じる。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教科書を中心にした内容だが、基本的にパワーポイント（スライド）を使用して、重要な部分に説明を加える形で講義を行う。従ってあらかじめ該当の部分をよく予習して授業に臨むことが、理解の上では必要である。また受講に際しては、教科書に紹介されている研究や実験例、錯視図などを、ネット上などで確認することが望ましい。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間とする

■評価方法

- ・総合評価は、授業ごとに提出するチャトルカード10%、受講態度等平常点10%、期末に行う試験80%
- ・チャトルカードについては、1行コメント「おもしろかった」「よく理解できた」など、授業内容に触れられないものは減点対象とする。

■教科書

心理学（第4版）（2011） 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編著 東京大学出版会

■参考書

適宜指示をする

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「自然科学」			
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、物理を理解するための道具とルール
第2回	力学の基本-物体の運動を数式で表す-
第3回	物体の運動と力の関係-力の表し方と力の種類-
第4回	物体の運動と力の関係-運動方程式-
第5回	圧力のはたらきと物を回転させる力
第6回	エネルギーとその保存法則
第7回	運動量と視点の違いにより感じる力
第8回	気体分子の運動と熱エネルギー
第9回	波の性質とその表し方
第10回	波で理解する音と光の現象
第11回	静電気の力とその表し方
第12回	オームの法則から理解する電気回路
第13回	電流と磁場の関係
第14回	電磁誘導と交流
第15回	原子の構造と放射線

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。
- ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。

〔受講のルール〕

- ・分からないところがあれば、いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

時政孝行監修、葉子研著：まるわかり!基礎物理、南山堂、2011

■参考書

授業時に指示する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	法学概論、憲法、民法、理学療法士及び作業療法士法				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となる。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えている。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えている。

【到達目標】

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につける。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、 法学概論1(市民生活と社会規範)
第2回	法学概論2(市民生活の各領域と主な関係法 以下)
第3回	憲法1(総論、基本的人権総論(私人間効力あたりまで))
第4回	憲法2(基本的人権総論(13条、14条)、精神的自由)
第5回	憲法3(経済的自由、社会権)
第6回	憲法4(上記以外の人権、国会、内閣)
第7回	憲法5(裁判所、財政、地方自治)
第8回	民法1(総則)
第9回	民法2(物件)
第10回	民法3(契約総論)
第11回	民法4(契約各論、債権(種類・効力・保全))
第12回	民法5(債権(多数当事者・移転・消滅))
第13回	民法6(親族)
第14回	民法7(相続)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館,2011年、有斐閣「ポケット六法」

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	Word、Excel、レポート作成				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]
レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする
[到達目標]
①パソコンの基本的な操作を理解する
②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる
③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。
他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	(概論) 科目オリエンテーションとキーボード・マウスの操作練習
第2回	(概論) ホームページの利用と情報セキュリティ
第3回	(概論) メールアドレスの取得とメール送受信
第4回	(Word) 基本的な文章の入力とファイル操作
第5回	(Word) 各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
第6回	(Word) 表を含む文書の作成
第7回	(Word) 図形を含む文書の作成
第8回	(Word) 同じ体裁の文書を効率よく作成する(テンプレート、スタイル)
第9回	(Excel) Excelの基本操作
第10回	(Excel) 各種の書式設定と図形等の利用
第11回	(Excel) グラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、複合グラフ)
第12回	(Excel) データベースとしてのExcelの利用(並べ替え、フィルタ、集計)
第13回	(Excel) 数式と関数の利用・基本編
第14回	(Word/Excel 共通) Word/Excel間のコピーと貼り付け、その他補足事項
第15回	レポート作成実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]
・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。
[受講のルール]
・積極的に授業に臨むこと。
・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期: レポート課題による評価(100%)

■教科書

パソコン教科書 Word/Excel/PowerPoint2007: 東京法令出版、2010年

■参考書

なし

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	PowerPoint、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする

[到達目標]

- ①PowerPointの基本的な操作を理解する
- ②PowerPointでプレゼンテーションを作成できる
- ③作成したプレゼンテーションを使って発表できる

■授業の概要

PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。
他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	(PowerPoint) プレゼンテーションの作成とスライドの編集
第17回	(PowerPoint) 文字書式/段落書式の設定
第18回	(PowerPoint) 表/画像/図形を含むプレゼンテーションの作成
第19回	(PowerPoint) ワードアート/クリップアートの操作、Word/Excelからの貼り付け
第20回	(PowerPoint) 画面切り替えとアニメーションの設定
第21回	(PowerPoint) ノートの作成、プレゼンテーションの発表
第22回	(Word) 箇条書き、段落番号、アウトライン
第23回	(Word) 数式、図表番号、自動校正、検索と置換
第24回	(Excel) 数式と関数の利用・応用編
第25回	プレゼンテーション作成実習
第26回	プレゼンテーション作成実習
第27回	プレゼンテーション発表実習
第28回	プレゼンテーション発表実習
第29回	プレゼンテーション発表実習
第30回	プレゼンテーション発表実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

[受講のルール]

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)

■教科書

情報活用プレゼンテーション PowerPoint 2010/2007対応:日経BP社、2011年

■参考書

授業時に指示する。

科目名	医療英語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	日常会話、身体部位、姿勢や動き				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。
- ② リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。

■授業の概要

医療の現場に必要な日常会話や専門的な用語を中心に学ぶ。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、Getting to Know you 活動、クラスルームイングリッシュ
第2回	自己紹介、個人情報を尋ねる①
第3回	個人情報を尋ねる②
第4回	患者との日常会話①
第5回	患者との日常会話②
第6回	患者との日常会話③
第7回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話①
第8回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話②
第9回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話③
第10回	小テスト
第11回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き①
第12回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き②
第13回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き③
第14回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き④
第15回	小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む。100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ①

■参考書

授業時に指示する。

科目名	医療英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	会話、医学英語、事例・症例				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができることと簡単な症例を理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 患者との基本的な会話ができる。
- ② リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③ 簡単な症例を理解できる。

■授業の概要

医療の現場に必要な会話や専門的な用語を学び、その勉強を生かして簡単な症例を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/患者との会話に必要な英語①
第2回	患者との会話に必要な英語②
第3回	患者との会話に必要な英語③
第4回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話①
第5回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話②
第6回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話③
第7回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話④
第8回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話⑤
第9回	小テスト
第10回	医学英語、データーの読み取り方①
第11回	医学英語、データーの読み取り方②
第12回	事例や症例を勉強する①
第13回	事例や症例を勉強する②
第14回	事例や症例を勉強する③
第15回	小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・症例を理解するため授業時間外学習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・客観) 100%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄 高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻1～4年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「保健体育科目」			
キーワード	スポーツ体育				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につけることにより、福祉施設、病院等で理学・作業療法士として活躍する人材の育成を目指すことができる。

【到達目標】

- ①健康で心豊かな生活を営むための一環として、多くのスポーツ・体育を体験することにより、学生生活の充実を図ることができる。
- ②スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につける。

■授業の概要

スポーツ・体育の楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲーム等を通じて、スポーツ・レクリエーション支援の技術を習得することができるようになる。そのための指導理論、実技などの学習を通じ、高齢者、障害者スポーツの体験と理解を深めることにより、支援者（指導者）としての実践力を高めることができるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ゲームの計画づくり
第2回	体ほぐし体操：アイスブレイク、ストレッチ運動
第3回	生涯スポーツ①
第4回	生涯スポーツ②
第5回	生涯スポーツ③
第6回	ノーマライゼーションを考えたスポーツ①
第7回	ノーマライゼーションを考えたスポーツ②
第8回	障害者スポーツ体験①
第9回	障害者スポーツ体験②
第10回	障害者スポーツ体験③
第11回	班の企画と運営①
第12回	班の企画と運営②
第13回	班の企画と運営③
第14回	スポーツ概論
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

集中講義として実施するので、体調管理を整えておく。
運動のおこないやすい服装や運動靴を準備する。
実技が中心になるが、いつでもメモができる用意しておく。
前橋キャンパス体育館にて実施

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他(出席重視)
成績配分: レポート50% 実地試験50%

■教科書

特には指定しないが、リハビリスポーツ関係に目を通しておく。

■参考書

「障害者スポーツ指導教本」日本障害者スポーツ協会 「障害者と楽しいスポーツ」日本身体障害者総合福祉センター

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄 高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法・作業療法専攻1～4年次選択科目。 学園スポーツ大会、県民マラソン参加が履修の必須条件。 1年次集中講義に出席していない者は受講できない。	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目における「保健体育科目」			
キーワード	企画運営 トレーニング リスク管理 マラソン				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

PT／OT業務に活用できるよう、スポーツ大会の企画運営と競技におけるトレーニングについて理解・説明・実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①競技における有効なトレーニング方法を知ることができる。
- ②競技参加における効果的な計画を自ら行うことができる。
- ③競技参加におけるリスク管理を行うことができる。
- ④県民マラソンでの完走を目標とする。
- ⑤①～④を応用しPT／OTの業務に活かすことができる。

■授業の概要

1年後期に学んだスポーツプログラムの企画と運営を活かし、学園スポーツ大会に中心的存在として参加する。また、『群馬県民マラソン』へ出場し完走を目指す。それにあたり、事前にトレーニング方法や計画、リスク管理をグループワーク等を通し学び、準備する。これらの経験をPT・OTの業務に活かせるようになることを最終的な目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	体育大会参加：1年後期の講習を活かして企画運営に携わる
第18回	体育大会参加：1年後期の講習を活かして企画運営に携わる
第19回	体育大会参加：1年後期の講習を活かして企画運営に携わる
第20回	マラソンに有効なトレーニング計画について調べる
第21回	マラソンに有効なトレーニング計画について発表（個別）：レポート提出
第22回	マラソンに有効なストレッチについてグループで調べる
第23回	マラソンに有効なストレッチについてグループ発表：レポート提出
第24回	トレーニング中間報告
第25回	マラソンによくあるケガについてグループで調べる
第26回	マラソンによくあるケガについてグループ発表：レポート提出
第27回	直前報告会
第28回	県民マラソン大会出場：実力によりハーフ（11月3日）
第29回	県民マラソン大会出場：実力によりハーフ（11月3日）
第30回	完走報告会

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

県民マラソンの参加費は自己負担となる。

〔受講のルール〕

- ・企画運営やグループワークの際は、率先して発言や行動をすること。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート50%、実技50%

■教科書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

■参考書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

科目名	基礎演習 I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学園の基本である礼儀・挨拶、環境美化を学びの基礎であるレポート、グループワーク、発表といった手法を学びながら身につけていく。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。

■授業の概要

基礎演習 I では、学びの基礎である「授業の受け方」「レポート」「グループワーク」「発表」を身につけ、これらを駆使して学園の基本である「礼儀・挨拶」「環境美化」について理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	大学での学びとは(4年間を通したキャリアデザイン・授業の受け方)
第3回	図書館の活用法
第4回	グループワーク手法・発表手法
第5回	レポートの書き方(グループワーク)
第6回	レポートの書き方(発表)
第7回	レポートの書き方(講義・レポート)
第8回	キャリアアップ講座(租税教室)
第9回	挨拶・礼儀について(グループワーク)
第10回	挨拶・礼儀について(発表)
第11回	挨拶・礼儀について(講義・レポート)
第12回	環境美化について(グループワーク)
第13回	環境美化について(発表)
第14回	環境美化について(講義・レポート)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

話し合いの準備(資料収集)、発表準備をしておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 ■レポート ■出席

発表20%、レポート60%、出席(グループワーク時、発表時の公欠以外の理由での欠席)20%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

授業時に指示する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、ケア・コミュニケーション検定				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

社会人・医療人としての基本的能力である「コミュニケーション能力」「企画・運営能力」について学び、実践の場で活用できることを目的とする。

【到達目標】

- ① イベントの企画に関わることができる。
- ② イベントの運営に関わることができる。
- ③ コミュニケーションに関する基礎知識を説明することができる。
- ④ 自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ⑤ 医療従事者としての基本的コミュニケーションを実践できる。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、コミュニケーションと企画・運営に関して、グループワークなどの演習を通して社会人・医療人としての基本的能力を身につけていく。また、授業後半にケア・コミュニケーション検定を受験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	企画・運営について(グループワーク・発表)
第3回	企画・運営について(講義)、群馬医療フェスタ企画(実践) レポート
第4回	ひととコミュニケーション
第5回	コミュニケーションにおける身体機能の重要性、身体図式と身体像
第6回	感覚・運動情報とコミュニケーション
第7回	コミュニケーションにおける態勢
第8回	コミュニケーションと人間関係
第9回	非言語的・言語的コミュニケーション
第10回	様々な人との出会いとコミュニケーション
第11回	セルフ・カウンセリング
第12回	医療従事者としての関係づくり
第13回	ひとと接するための心得
第14回	ケア・コミュニケーション検定受験
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケア・コミュニケーション検定受験料 4500円
グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■ケア・コミュニケーション検定 50%、■レポート 50%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

ケア・コミュニケーションへ あなたの心遣いがみんなの支えになります へ. 株式会社ウイネット
http://www.wenet.co.jp/product/html/products/detail.php?product_id=173

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任・阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	質問力、問題発見能力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

社会人・医療人としての基本となる「問題発見能力」「問題解決能力」、それらの基礎となる「質問力」を養い論理的な思考を基に行動できることを目的とする。

■授業の概要

専門演習Ⅰでは、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題発見能力」「問題解決能力」をグループワークを通して身につけていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	論理的思考とは
第3回	質問力とは、質問カトレーニング①
第4回	質問カトレーニング②
第5回	問題とは
第6回	問題発見の4P
第7回	問題解決能力とは
第8回	ゼロベース思考・仮説思考
第9回	MECE
第10回	ロジックツリー
第11回	課題分析シート
第12回	意思決定ツール
第13回	演習
第14回	演習
第15回	発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多いので休まないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■レポート50%、■発表30%、■出席（演習、発表時の公欠以外の出欠）20%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	就職活動、自己分析、将来設計				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

これまで基礎演習・専門演習で身につけてきたことを総合し、専門職として誇りを持って就労できることを目的とする。

【到達目標】

- ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。
- ②社会人としてのマナーを身につける。
- ③将来像を描けるようになる。

■授業の概要

専門演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	就職活動の流れ・卒業生からのアドバイス
第3回	自己分析
第4回	自己分析
第5回	自己分析発表
第6回	就職活動におけるマナー講座メイクアップ(外部講師)
第7回	就職活動におけるマナー講座 身だしなみ・所作
第8回	就職活動を成功させるための情報収集
第9回	将来設計立案
第10回	将来設計発表
第11回	会社の研究方法(会社の見方・選び方)
第12回	自己PR法～履歴書の書き方・面接の受け方・会社訪問法～
第13回	卒業生からのメッセージ(就職編)
第14回	卒業生からのメッセージ(国家試験編)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業時に指示する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート70%、発表30%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ① 本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ② 依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。本学・本学部における位置づけと目的について。グループディスカッション。
第2回	グループディスカッションと発表。
第3回	ボランティア参加に向けたオリエンテーション。
第4回	高齢者体験
第5回	車椅子体験
第6回	講話：ボランティア活動の実践
第7回	前期振り返り：依頼ボランティア参加状況 共有・ディスカッション
第8回	行事ボランティア 参加準備
第9回	後期 依頼ボランティア
第10回	あそか会 参加準備
第11回	地域貢献ボランティア：クリスマス会 企画・準備
第12回	地域貢献ボランティア：クリスマス会 企画・準備・実施
第13回	地域貢献ボランティア：クリスマス会 企画・準備・実施
第14回	1年間のボランティア活動を振り返っての発表
第15回	1年間のボランティア活動を振り返っての発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4クリアファイルを用意

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ70%、ボランティア参加状況・講義参加態度・授業内発表30%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療従事者としての基本的態度を身につけ実践する。自ら企画してボランティアへ参加し、様々な体験を通して自分自身を振り返る。

〔到達目標〕

- ①ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。
- ②2年間のボランティア活動を通して、自分自身の課題を認識し、その具体的な取り組み方法を検討することができる。
- ③各自が興味ある領域でボランティア活動へ参加し、その理解を深めることができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。2年次でのボランティア活動計画について。グループディスカッション。
第2回	2年次、ボランティア参加計画
第3回	群リハフェスタの企画準備
第4回	群リハフェスタの企画準備
第5回	群リハフェスタの企画準備・実施
第6回	群リハフェスタの企画準備・実施・反省
第7回	前期振り返り： ボランティア参加状況の発表 共有・ディスカッション
第8回	行事ボランティア（障害者スポーツ大会など） 参加準備
第9回	後期 ボランティア活動計画
第10回	講話：ボランティア活動
第11回	ボランティア活動報告 まとめ・準備準備
第12回	ボランティア活動報告 まとめ・準備準備
第13回	2年間のボランティア活動を振り返っての発表
第14回	2年間のボランティア活動を振り返っての発表
第15回	2年間のボランティア活動を振り返っての発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4クリアファイルを用意

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ70%、ボランティア参加状況・講義参加態度・授業内発表30%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

2) 專門基礎科目

科目名	解剖学I	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「解剖学」			
キーワード	骨格系の構造と分類、関節の構造と分類				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。
- ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。
- ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。
- ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。
- ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。
- ⑥骨の連結の種類と構造を説明することができる。
- ⑦脊柱と胸郭の連結を説明することができる。
- ⑧四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語、全身骨格
第2回	骨格系-1 上肢の骨について
第3回	骨格系-2 骨盤の構成について
第4回	骨格系-3 下肢の骨について
第5回	骨格系-4 椎骨の基本型と脊柱の構造について
第6回	骨格系-5 胸郭の構造について
第7回	骨格系-6 頭部の各骨について
第8回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結について
第9回	筋系-2 体幹の筋について
第10回	筋系-3 脊柱と胸郭の連結について
第11回	筋系-4 上肢の筋について
第12回	筋系-5 上肢の骨格の連結と運動について
第13回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結と運動について
第14回	筋系-7 下肢の筋について
第15回	筋系-8 下肢の連結と運動について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。
- ・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著）医学教育出版社

■参考書

- ・カラ―人体解剖学-構造と機能：ミクロからマクロまで F.H. マティーニ（著）西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著）南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著）医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen（著）南江堂

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「解剖学」			
キーワード	筋系の構造と分類、関節の構造と分類、神経系の構造と分類				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。
- ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、神経系および筋系との関わりについて
第2回	脳と脊髄-1 中枢神経系の全体的な構造について
第3回	脳と脊髄-2 大脳と間脳の構造について
第4回	脳と脊髄-3 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について
第5回	脳と脊髄-4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について
第6回	脊髄神経-1 脊髄神経の構成とその枝について
第7回	脊髄神経-2 頸神経叢の構成とその枝、支配筋について
第8回	脊髄神経-3 腕神経叢の構成とその枝、支配筋について
第9回	脊髄神経-4 腕神経叢の構成とその枝、支配筋について
第10回	脊髄神経-5 肋間神経の構成とその枝、支配筋について
第11回	脊髄神経-6 腰神経叢の構成とその枝、支配筋について
第12回	脊髄神経-7 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋について
第13回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋について
第14回	脳神経 脳神経の経路と機能・線維構成、支配筋について
第15回	自律神経 交感神経と副交感神経、支配臓器について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。
- ・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著）医学教育出版社

■参考書

- ・カラー人体解剖学-構造と機能：ミクロからマクロまで F.H. マティーニ（著）西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著）南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著）医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen（著）南江堂

科目名	解剖学実習	担当教員 (単位認定者)	多田 真和 栗原 卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「解剖学実習」			
キーワード	脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、平衡聴覚器				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

解剖学は、生理学、生化学および運動学等の基礎専門科目、整形外科や神経内科学等の専門科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり必須のものである。

[到達目標]

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できるようになる。
- ②器官系別に理解した知識を有機的にまとめ上げ、自分のものとしてできるようになる。
- ③人体の構造を、自らの手で描けるようになる。また説明できるようになる。

■授業の概要

「解剖学」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学んでゆく。授業では、パワーポイントやビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮していく。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ有機的に理解を深められるようにしている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/呼吸器系(1)
第2回	循環器系(1)
第3回	脳神経1: 中枢神経の機能、大脳半球基底核の位置関係
第4回	脳神経2: 中枢神経の血管系、脳脊髄液の循環
第5回	脳神経3: 脳神経、末梢神経、自律神経について
第6回	脳神経4: 画像診断(CT、MRI)への応用解剖
第7回	循環器系(2)
第8回	循環器系(3)
第9回	消化器系(1)
第10回	消化器系(2)
第11回	消化器系(3)
第12回	泌尿器系
第13回	内分泌系(1)
第14回	内分泌系(2)
第15回	平衡聴覚器

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

授業に臨むにあたり、該当分野の予習を必ず行うこと。

[受講のルール]

将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院

■参考書

授業中に適宜ご紹介してゆく。

科目名	体表解剖・触診	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	触診、ランドマーク、用手接触(ハンドリング)、ランブリカルグリップ				

■授業の目的・到達目標

解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。

- ①対象者に不快を与えない手技について説明できる。
- ②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。
- ③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。

■授業の概要

身体各部位について解説またはデモンストレーションをした後、学生間で実技練習をする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/触診の意義、心構え、基礎・原則
第2回	肩甲帯
第3回	上肢 肩関節・上肢
第4回	上肢 肘
第5回	上肢 前腕 手関節
第6回	手 手根骨、手部
第7回	体幹 背部、脊柱
第8回	体幹 胸郭
第9回	骨盤帯 腸骨、仙骨
第10回	骨盤帯 股関節
第11回	下肢
第12回	下肢
第13回	下肢 足関節・足部
第14回	下肢 足部
第15回	要点整理

■受講生に関わる情報および受講のルール

半袖、短パンを用意し、授業内で必要な時は速やかに対応できるようにすること。実技で取り扱った内容は教科書を読んで再確認すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技が主体なのである程度器用さに差がある可能性がある。時間外練習が必要な者には個々にアドバイスをするので学生間での積極的な練習を推奨する。授業概要に示された領域の解剖学・運動学は事前に復習して授業に挑むこと。

■オフィスアワー

毎週木曜日16:30～17:30

■評価方法

記述試験(選択)の素点100%を原則とする。ただし、実技練習中の取り組みが悪いものは減点する。実技練習に関する具体的な内容は科目オリエンテーションで説明する。

■教科書

図解 四肢と脊椎の診かた Stanley Hoppenfeeld 著 野島元雄監訳 医歯薬出版

■参考書

解剖学教科書、運動学教科書。その他は適時紹介する。

科目名	生理学I	担当教員 (単位認定者)	牧 陽子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「生理学」			
キーワード	生理学I				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

神経・運動・感覚の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

[到達目標]

- ① 神経・運動・感覚の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります

第1回	科目オリエンテーション
第2回	第2章 血液 A-G : 血液成分・血液細胞の生成と分化、血液凝固と線溶現象について学ぶ。
第3回	第2章 血液・免疫 (H) : 免疫機能について学ぶ。
第4回	第3章 循環 A-C : 循環の調節を学ぶ。
第5回	第3章 循環 D-H : 心臓の拍動の自動性と心拍出量、心臓の刺激伝導系に関して学ぶ。
第6回	第4章 呼吸 : 呼吸運動・ガス交換とガスの運搬・呼吸中枢に関して学ぶ。
第7回	第5章 消化と吸収 A-F : 口腔内消化・嚥下運動と嚥下反射中枢・胃内消化・腸内消化吸収を学ぶ。
第8回	第6章 腎臓と排泄 : 尿の生成に関わる器官の機能、排尿中枢を含む排尿機構を学ぶ。
第9回	第8章 内分泌 A-B : ホルモンの基礎(ビタミンの差異)、視床下部-脳下垂体系に関して学ぶ。
第10回	第8章 内分泌 C-E : 甲状腺・副甲状腺・膵臓に関して学ぶ。
第11回	第8章 内分泌 F-J : 副腎・性腺・松果体に関して学ぶ。
第12回	第9章 生殖 : 性染色体と減数分裂の基本、受精と妊娠に関して学ぶ。
第13回	第15章 代謝と体温 : 糖・蛋白・脂肪代謝、及び代謝率(基礎・エネルギー代謝率)を学ぶ。
第14回	第16章 運動生理 : 運動における生体の生理的変化を学ぶ。
第15回	予備日 : 前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習復習は必ず行うこと。

[受講のルール]

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

わからない部分は授業内に解決するよう努力すること。

質問は授業時間内に随時受け付ける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

関連資料を授業内で配布

科目名	生理学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牧 陽子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「生理学」			
キーワード	生理学Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

神経・運動・感覚の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

[到達目標]

- ① 神経・運動・感覚の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります

第1回	科目オリエンテーション
第2回	第1章 細胞と内部環境 : 分子生物学の基礎を学ぶ。
第3回	第11章 神経系 : 神経・筋接合部の伝達様式、及び受容器・感覚神経伝達様式の相同・差異を学ぶ。
第4回	第12章 抹消神経系 : 脊髄神経・自律神経(交感・副交感神経系)の解剖と機能を学ぶ
第5回	第13章 中枢神経系 A-D : 脊髄・延髄・橋・中脳・脳幹網様体の構造・機能を学ぶ。
第6回	第13章 中枢神経系 J : 大脳の解剖及び機能局在を学ぶ。
第7回	第13章 中枢神経系 F, G : 小脳・大脳基底核の運動調節機能/高次機能・認知機能との関連を学ぶ。
第8回	第13章 中枢神経系 J : 大脳の解剖及び機能局在を学ぶ。
第9回	第13章 中枢神経系 K : 高次機能の記憶・言語に関して学ぶ。
第10回	第13章 中枢神経系 L-N : 大脳半球優位性、睡眠に関して学ぶ。
第11回	第14章 感覚 A-C : 感覚の基本的性質を抑え、体性感覚・内臓感覚を学ぶ。
第12回	第14章 感覚 D : 視覚に関する解剖と中枢における視覚処理・知覚を学ぶ。
第13回	第14章 感覚 E-H : 聴覚に関する解剖と、中枢における聴覚・平衡感覚処理を学ぶ。
第14回	第10章 筋の収縮 : 筋の種類及び、神経筋運動単位、随意運動・筋緊張の機序を学ぶ。
第15回	全体のまとめ 予備日とし、理解の不十分な部分の質問を受け付ける。

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習復習は必ず行うこと。

[受講のルール]

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

わからない部分は授業内に解決するよう努力すること。

質問は授業時間内に随時受け付ける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

関連資料を授業内で配布

科目名	生理学実習	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	心電図、血圧計、呼吸機能、尿検査、体温				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。

【到達目標】

- 1、人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。(知識)
- 2、実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。(技能)
- 3、お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。(態度)

■授業の概要

実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行う。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習する。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/血圧測定の意義と方法について学ぶ。
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。(実習報告書提出)
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動(嚥下、蠕動運動、排便)について学ぶ。
第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
第10回	体組成測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第11回	エネルギー消費について学ぶ。骨、筋肉、関節のネットワークについての基礎を学ぶ
第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。(実習報告書提出)
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。(実習報告書提出)

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書(レポート)を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業提出レポート30% レポート試験70%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第3版

■参考書

その都度指示する。

科目名	運動生理学演習	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格にかかわる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	運動・呼吸・循環・代謝・体力				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

運動療法学は理学療法治療手段の根幹である。運動生理学演習の目的は、運動療法を治療手段として実施または指導するものとして、運動が人体に対し「呼吸」「循環」「代謝」の面でどのような影響を与えるか、演習を通して学ぶことにある。

[到達目標]

- ①運動に対し循環系がどのように変化するのか具体的に述べるができる。
- ②その他循環系に影響を与える因子と、それがどのような変化を起こすのか説明することができる。
- ③運動時の呼吸変化について具体的に述べるができる。
- ④最大酸素摂取量の求め方を述べるができる。
- ⑤体力テストの内容と評価方法について述べるができる。
- ⑥基礎代謝量とMet、消費カロリーの関係について述べるができる。

■授業の概要

演習が中心となるので、その手順について良く理解しておくことが重要である。基礎知識の整理→演習手順説明→演習→まとめ→レポート作成の繰り返しとなる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	運動と循環 血圧とは？ 血圧を規定する因子 水銀柱血圧計測定法 最高血圧・最低血圧・平均血圧
第2回	運動と循環 姿勢変換と血圧変化(測定とグラフの作成) 浴中での変化 気温による変化 レポート①
第3回	運動と循環 脈拍の種々の部位での測定 運動負荷と氷水刺激(測定とグラフの作成) レポート②
第4回	運動と循環 バルサルバ試験および息こらえ中の血圧および心拍数の変化(測定とグラフの作成) レポート③
第5回	運動と循環 上記試験における変化の機序とその要因を考える
第6回	運動と呼吸 安静時呼吸数の測定(背臥位と立位) 運動負荷と呼吸数 レポート④
第7回	運動と呼吸 最大酸素摂取量を求める① レポート⑤
第8回	運動と呼吸 最大酸素摂取量を求める②
第9回	運動と呼吸 酸素負債とは何か レポート⑥
第10回	敏捷性の測定(全身反応時間と反復反応回数の関係) ① レポート⑦
第11回	敏捷性の測定(全身反応時間と反復反応回数の関係) ②
第12回	体力テストと測定値間相関 筋力・筋持久力と最大酸素摂取量・柔軟性・平衡性の測定 レポート⑧
第13回	体力テストと測定値間相関 筋力・筋持久力と最大酸素摂取量・柔軟性・平衡性 各相関を知る レポート⑨
第14回	基礎代謝量を求める Metsと消費カロリー① レポート⑩
第15回	基礎代謝量を求める Metsと消費カロリー②

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・各回で実施するミニテストで一定水準以上(60%以上)のレベルに達しない場合、時間外学習に参加し再テストを受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中は演習中心となるので、課題レポートは授業時間外で作成すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)50%、課題レポート(レポート①～⑩各5%)50% ※なお他者の丸写しと思われるレポートは評価しない。

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法概論 奈良 勲編 医歯薬出版
理学療法学概論 監修 千住 秀明

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	関節の形状、運動の名称、筋収縮、上肢の関節運動の主動筋、重心				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる骨関節障害の知識を得ることを目的とする。

[到達目標]

- ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。
- ②重心の定義を理解し、重心線が通る指標を列挙できる。
- ③運動時の筋収縮様態を答えることができる。
- ④上肢の各関節の形状分類を理解し関節運動を述べることも、主動筋を列挙することができる。
- ⑤上肢の関節の主な運動障害を列挙することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、運動の特徴を学ぶ。そのうえで、上肢の各関節における運動障害を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/身体各部・各関節の名称、運動面、運動軸について
第2回	運動方向の名称、姿勢、人体における重心について
第3回	関節の構造と運動について
第4回	期の構造と機能、筋の収縮のメカニズムについて
第5回	肩複合体の運動
第6回	肩甲骨周囲の筋とその作用
第7回	肩甲上腕関節の筋とその作用①
第8回	肩甲上腕関節の筋とその作用②
第9回	肩複合体の運動障害
第10回	肘関節の運動
第11回	前腕の運動
第12回	肘・前腕の運動障害
第13回	手関節の構造と運動特徴について
第14回	手指の関節の構造と運動特徴について
第15回	手根・手の運動障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

[受講のルール]

・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを行うので、前回の講義内容を復習して臨むこと。また、小テストで正答率60%未満の学生に対しては補講を行うので、小テスト内容を復習したうえで出席すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験（客観）90%、レポート（10%）総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト. 南江堂. 2010

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院
中村隆一：基礎運動学第6版 医学書院

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目 解剖学、生理学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	関節の形状、運動の名称、体幹・下肢の関節運動の主動作筋、呼吸、歩行				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、理学療法の対象となる骨関節障害の知識を得ることを目的とする。

[到達目標]

- ①下肢帯・体幹・頭部の関節運動とその主動作筋を答えることができる。
- ②下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。
- ③呼吸運動における胸郭の動きを説明することができる。
- ④歩行周期を説明することができる。
- ⑤歩行時の下肢関節の運動や重心の移動を説明することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各関節や体の動きを理解し、運動の特徴を学ぶ。そのうえで、体幹・下肢の各関節における運動障害を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/骨盤・股関節の運動について
第2回	股関節の運動に作用する筋
第3回	股関節のバイオメカニクス
第4回	骨盤・股関節の運動障害
第5回	膝関節の運動
第6回	膝関節の運動障害
第7回	下腿・足根・足部の運動
第8回	下腿・足根・足部の運動障害
第9回	頭部と頸部の運動
第10回	胸椎・腰椎の運動
第11回	頭部と頸部・胸椎・腰椎の運動障害
第12回	胸郭と呼吸運動について
第13回	正常歩行：歩行周期
第14回	正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動
第15回	正常歩行：歩行時の下肢の筋活動について

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。

[受講のルール]

- ・授業計画を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを行うので、前回の講義内容を復習して臨むこと。また、小テストで正答率60%未満の学生に対しては補講を行うので、小テスト内容を復習したうえで出席すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験（客観）100%

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト 南江堂 2010

■参考書

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学第3版 医学書院
中村隆一：基礎運動学第6版 医学書院

科目名	臨床運動学実習	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目 解剖学、生理学、運動学、力学の知識を必要とする。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	臨床運動学実習				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

身体の構造を理解しながら、健全なヒトの動作を運動学的に説明できることを目的とする。また、理学療法の場面で使用される機器について知識を得ることを目的とする。

[到達目標]

- ①姿勢を体位や構えで説明することができる。
- ②立ち上がり動作を運動学的に説明することができる。
- ③腕立て伏せ動作を運動学的に説明し、運動時の筋収縮様態を答えることができる。
- ④起き上がり動作を運動学的に説明することができる。
- ⑤寝返り動作を運動学的に説明することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体のしくみについて興味を持つことが重要である。自らの体を使って各動作を理解し、運動の特徴を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/上肢の運動障害	
第2回	下肢・体幹の運動障害	
第3回	姿勢・立位バランス：重心動揺計	レポート
第4回	立ち上がり動作①	
第5回	立ち上がり動作②	レポート
第6回	腕立て伏せ動作①：筋電図	
第7回	腕立て伏せ動作②：筋電図	レポート
第8回	起き上がり動作①	
第9回	起き上がり動作②	レポート
第10回	寝返り動作①	
第11回	寝返り動作②	レポート
第12回	歩行：三次元動作解析演習①	
第13回	歩行：三次元動作解析演習②	
第14回	歩行：三次元動作解析演習③	レポート
第15回	階段と踏み台昇降について	

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。
- ・実習については学校指定ジャージを着用のこと

[受講のルール]

- ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・類似したレポートは受け付けない。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

重心動揺計や筋電図、三次元動作解析装置を用いて実習を行うが、授業内で終わることができない場合、授業時間外で行うこととする。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験（客観）70%、レポート（30%）総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

藤縄理編：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト. 南江堂. 2010

■参考書

河元岩男編：シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 南江堂
高橋正明：臨床動作分析 医学書院

科目名	人間発達学	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	人間発達学				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能および社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の年齢や状況に応じた対応が出来るようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。
- ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することが出来る。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することが出来る。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することが出来る。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を正しく入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟していく。発達を理解することはリハビリテーション専門職を目指すものとして重要であり、対象者のおかれている状況や目標を適切に把握するために応用されなければならない。本講義では発達過程および発達課題について神経系の発達を軸に学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、ヒトの成長と発達、発達を支える脳神経と感覚器について
第2回	胎児期から誕生、原始反射について
第3回	乳幼児期の運動発達
第4回	乳幼児期の認知、社会性の発達
第5回	学童期の発達
第6回	青年期～成人期の発達
第7回	高齢期の発達
第8回	育ちを支える社会機構

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・毎回、講義開始時に小テスト(確認テスト)を実施する。小テストは評価の対象となるため欠席しないこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーすること。

[受講のルール]

- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを実施する。前回講義を受けた内容を復習しておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 70%、小テスト 30%
総合評価は筆記試験 60%を超えていることが前提となる。

■教科書

福田恵美子: コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 2版. 中外医学社, 2009

■参考書

中村隆一 他: 基礎運動学 第6版. 医歯薬出版, 2003

科目名	病理学概論	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞障害、循環障害、先天異常、炎症・免疫・感染症、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション
第2回	病理学と解剖学
第3回	病因
第4回	細胞障害
第5回	循環障害
第6回	循環障害
第7回	先天異常
第8回	炎症
第9回	免疫異常・アレルギー
第10回	感染症
第11回	腫瘍
第12回	腫瘍
第13回	腫瘍
第14回	代謝異常
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。
- ・机の隣同士2人で相談し、病理学と解剖学の教科書を1冊ずつ用意すること。
- ・授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りと相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

特に予習の必要はないが、授業で扱った内容について、必ずその週のうちに教科書を読み復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 80%、レポート20%

■教科書

新クイックマスター 病理学(堤 寛 監修、医学芸術社)

■参考書

解剖学の教科書(病理学概論の講義でも使用する)

科目名	臨床心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻・作業療法専攻 1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法・作業療法国家試験 受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち」			
キーワード	アセスメント、精神障害、クライエント中心療法、精神分析、行動・認知行動療法、集団精神療法など				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

支援を必要とする人にかかわる職業を目指す者として、人が生きていく上で出会う心理的問題への見方、対処法を、臨床心理学各派の知見から学んでいく。

〔到達目標〕

- ①様々なパーソナリティ理論を通して、人を多様な視点から理解する基礎知識を得る。
- ②代表的な心理検査について背景にある考え方を含めて説明できる。
- ③臨床心理学各派の理論・技法の特徴について、具体的に説明できる。
- ④学んだ理論をもとにして、臨床事例を多角的に見る視点を獲得する。
- ⑤リハビリ現場で出会う可能性がある患者の心理についてイメージを広げて理解することができる。

■授業の概要

様々な考え方に基づく臨床心理学各派の歴史、理論、技法の解説を中心に学習する。国家試験問題に対処できる基礎知識を習得するとともに、臨床心理学を通して、患者の心理面の理解やコミュニケーションの重要性について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション：臨床心理学とは何か
第2回	心の問題を理解する アセスメントの目的と方法 面接法・観察法
第3回	検査法① 質問紙法と投影法
第4回	検査法② 作業検査法、知能検査
第5回	問題を理解する 異常心理学とは何か DSMと臨床心理各理論モデル 精神障害の診断分類
第6回	問題に介入する 統合的視点 ロジャーズとクライエント中心療法
第7回	フロイト理論と精神分析 フロイト以後（ウィニコット等）
第8回	ユング理論と分析心理学
第9回	行動療法
第10回	認知行動療法
第11回	家族療法・コミュニティ心理学
第12回	ナラティブ・セラピー
第13回	森田療法、内観療法
第14回	遊戯療法、箱庭療法
第15回	自律訓練法、SST 他

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・授業理解のために前期の心理学を履修していることが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・シャトルカードにて出欠を確認する。シャトルカードは授業開始20分以内までは受取可能とする（それ以後の受講は欠席扱いとするので注意）。授業終了後に必ず提出をすること（提出がない場合は欠席扱い）。
- ・演習も取り入れた授業を行う。無気力な態度やいい加減な取組は、事例を扱う授業として許容できない。実際に心に問題を抱えた人と向き合う気持ちで臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教科書を中心にした内容だが、演習もできるだけ取り入れるので、積極的な受講態度で臨むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする

■評価方法

・総合評価は、授業ごとに提出するシャトルカード10%、受講態度等平常点10%、期末に行う試験80%

・シャトルカードについては、1行コメント「おもしろかった」「よく理解できた」など、授業内容に触れられないものは減点対象とする。

■教科書

よくわかる臨床心理学（改訂新版）（2009）下山晴彦編著 ミネルヴァ書房

■参考書

やさしく学べる心理療法の基礎（2011）鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編著 東京大学出版会 他適宜指示をする

科目名	一般臨床医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	生活習慣病、がん、感染症、生殖、移植				

■授業の目的・到達目標

到達目標: その病気がなぜ起こり、体の中ではどのような異常が起こっているのか、そしてそれを解決するためには、どのような方法をとればよいのか、簡潔にかつ的確に述べられることを目標とする。
期待される学習効果: 過去に出題された、臨床医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達する。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する、病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	医学とは? 医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)、生命の基本構造(細胞、組織、血液)
第2回	生命維持のしくみ1: 循環器(心臓、血管)
第3回	生活習慣病1: 動脈硬化のメカニズム(高血圧症、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)
第4回	生活習慣病2: 動脈硬化の末路(脳血管障害)
第5回	生活習慣病3: 動脈硬化の末路(狭心症、心筋梗塞)
第6回	生活習慣病4: 生活習慣病のまとめ、小テスト①
第7回	生命維持のしくみ2: 呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)
第8回	呼吸器の障害: 炎症、閉塞性肺疾患、たばこの問題
第9回	細胞の暴走=がん: がんとは? がんの問題点、がんの治療法
第10回	生命維持のしくみ3: 消化器(消化管、腹腔内臓器)
第11回	消化器の障害: 消化管の疾患、肝炎、
第12回	生命維持のしくみ4: 生体防御、免疫、
第13回	感染症: 微生物学の基礎知識、日和見感染症、MRSA、結核、性行為感染症、AIDS
第14回	次世代につなぐ命1: 生殖(妊娠、出産、不妊症)、小テスト②
第15回	次世代につなぐ命2: 臓器移植、幹細胞移植、ES細胞、iPS細胞

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。このため、KeyWord集に基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集できないであろう。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の大前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者は、不合格となる。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業中に適宜推薦、指定する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	廃用症候群、運動器リハ、脳神経リハ、心臓リハ、呼吸器リハ				

■授業の目的・到達目標

第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられることを目的とする。
到達目標は、過去に出題された、リハビリテーション医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達することである。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的なところから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、総論1:リハビリテーション医学の歴史、理念、位置付け、急性期、回復期、維持期、ADL評価
第2回	総論2:リハビリテーション医療経済(健康保険制度、介護保険制度、身体障害者手帳)
第3回	総論3:廃用症候群(概念、病態、防止方法)
第4回	運動器リハビリテーション1:骨折の病態、治癒機序、後療法(リハビリテーション)
第5回	運動器リハビリテーション2:関節疾患(変形性関節症、関節リウマチ)の病態と治療
第6回	運動器リハビリテーション3:痛みに対するリハビリテーション(腰痛、頸肩腕痛、CRPS)
第7回	運動器リハビリテーション4:外傷、スポーツ障害、手術後のリハビリテーションの注意点と実際。
第8回	脳神経リハビリテーション1:脳血管障害の病態、小テスト①
第9回	脳神経リハビリテーション2:脳血管障害の急性期治療
第10回	脳神経リハビリテーション3:脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション
第11回	脳神経リハビリテーション4:頭部外傷の病態とリハビリテーション
第12回	脳神経リハビリテーション5:高次脳機能障害の病態とリハビリテーション、摂食嚥下障害の病態とリハビリテーション
第13回	脳神経リハビリテーション6:神経変性疾患の病態とそのリハビリテーション(パーキンソン病を中心に)、小テスト②
第14回	内科領域のリハビリテーション1(呼吸器リハビリテーション、心臓リハビリテーション)
第15回	内科領域のリハビリテーション2(生活習慣病に対するリハビリテーション)、精神科領域のリハビリテーション(うつ病)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	内科・老年医学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	内科診断学、症候学、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患				

■授業の目的・到達目標

目的は、目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、内科学領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、内科学の概念、リハビリテーションとの関わり、症候学I
第2回	症候学II
第3回	症候学III
第4回	循環器疾患 I
第5回	循環器疾患 II
第6回	循環器疾患 III
第7回	循環器疾患 IV、小テスト ①
第8回	呼吸器疾患 I
第9回	呼吸器疾患 II
第10回	呼吸器疾患 III
第11回	呼吸器疾患 IV、小テスト②
第12回	消化管疾患 I
第13回	消化管疾患 II
第14回	肝胆膵疾患 I
第15回	肝胆膵疾患 II、小テスト ③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、合格の前提条件である。その上で、学期中に3回行なう小テストの点数を20% X3=60%、期末テストを40%に換算した点数をもって、合格の評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第2版 大成 浄志 執筆 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	内科・老年医学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	血液疾患、内分泌代謝疾患、腎泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患、感染症、皮膚科学、老年病				

■授業の目的・到達目標

目的は、目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、内科学領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	血液、造血管器疾患
第2回	代謝性疾患 I
第3回	代謝性疾患 II
第4回	内分泌疾患 I
第5回	内分泌疾患 II
第6回	腎、泌尿器疾患 I
第7回	腎、泌尿器疾患 II、小テスト①
第8回	膠原病、アレルギー疾患、免疫不全 I
第9回	膠原病、アレルギー疾患、免疫不全 II
第10回	感染症疾患 I
第11回	感染症疾患 II
第12回	中毒および環境要因による疾患
第13回	皮膚疾患、小テスト②
第14回	加齢と老化、高齢者疾患 I
第15回	高齢者疾患 II、高齢者をとりまく環境

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、合格の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20% X2=40%、期末テストを60%に換算した点数をもって、合格の評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第2版 大成 浄志 執筆 医学書院
標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 大内 尉義 編集 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	整形外科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	骨疾患、骨折、関節疾患、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、脊髄損傷				

■授業の目的・到達目標

目的は、筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常(痛みや機能障害)を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。到達目標は、整形外科領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、骨疾患Ⅰ：骨の発生、成長、構造、骨粗鬆症
第2回	骨疾患Ⅱ：骨折総論(分類、症状、診断、治癒過程、治療)
第3回	骨疾患Ⅲ：骨折各論1(体幹、上肢の骨折の病態、治療、合併症)
第4回	骨疾患Ⅳ：骨折各論2(下肢の骨折の病態、治療、合併症)
第5回	骨疾患、骨折の総復習、小テスト①
第6回	関節疾患Ⅰ：関節の構造、関節の先天性疾患
第7回	関節疾患Ⅱ：変形性関節症
第8回	関節疾患Ⅲ：関節リウマチ、痛風、関節炎
第9回	関節疾患Ⅳ：関節の外傷性疾患(捻挫、脱臼、関節内損傷)
第10回	関節疾患の総復習、小テスト②
第11回	脊椎脊髄疾患Ⅰ：頸椎疾患
第12回	脊椎脊髄疾患Ⅱ：腰椎疾患
第13回	脊椎脊髄疾患Ⅲ：脊髄損傷1
第14回	脊椎脊髄疾患Ⅳ：脊髄損傷2
第15回	脊椎脊髄疾患の総復習、小テスト③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、合格の前提条件である。その上で、学期中に3回行なう小テストの点数を20% X3=60%、期末テストを40%に換算した点数をもって、合格の評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第11版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	整形外科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	末梢神経疾患、神経、筋疾患、骨軟部腫瘍、四肢切断、義肢装具、スポーツ外傷、熱傷				

■授業の目的・到達目標

目的は、筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常(痛みや機能障害)を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。到達目標は、整形外科領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	末梢神経損傷 I
第2回	末梢神経損傷 II
第3回	神経、筋疾患(解剖、生理、脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィー)
第4回	骨軟部腫瘍(転移性骨腫瘍、骨肉腫)
第5回	四肢の循環障害と壊死性疾患
第6回	切断および離断 I(四肢切断の原因、部位、手術の留意点)、小テスト1
第7回	切断および離断 II(義肢、装具の実際、留意点)
第8回	スポーツ外傷 I(総論)
第9回	スポーツ外傷 II(各論)
第10回	熱傷(診断、治療、後療法)
第11回	上肢疾患の総復習(肩、肘関節)、問題演習、小テスト2
第12回	手の外科、問題演習
第13回	下肢疾患の総復習(股、膝、足関節)、問題演習
第14回	脊椎脊髄疾患の総復習、問題演習
第15回	徒手検査の実習(横文字キーワードの確認)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、合格の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20% X2=40%、期末テストを60%に換算した点数をもって、評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第11版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	神経内科学I	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	神経学的診断と評価				

■授業の目的・到達目標

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	障害とリハビリテーションプログラム
第2回	中枢神経系の解剖
第3回	中枢神経系の機能
第4回	神経学的診断と評価I
第5回	神経学的診断と評価II、神経学的検査法I
第6回	神経学的検査法II
第7回	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第8回	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮
第9回	錐体外路徴候、不随意運動、運動失調
第10回	感覚障害、失語症I
第11回	失語症II
第12回	失認
第13回	失行
第14回	記憶障害、認知症
第15回	注意障害、遂行機能障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されているので、教科書を忘れないようにすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は、進歩する。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第3版 編集 川平和美 医学書院

■参考書

なし

科目名	神経内科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	脳血管障害、脊髄疾患				

■授業の目的・到達目標

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	構音障害、嚥下障害
第2回	脳神経外科領域の疾患、脳血管障害Ⅰ
第3回	脳血管障害Ⅱ
第4回	脳血管障害Ⅲ
第5回	脳血管障害Ⅳ
第6回	脳血管障害Ⅴ
第7回	認知症
第8回	脳腫瘍、外傷性脳損傷
第9回	脊髄疾患Ⅰ
第10回	脊髄疾患Ⅱ、変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患Ⅰ
第11回	錐体外路の変性疾患Ⅱ、末梢神経障害
第12回	筋疾患
第13回	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患
第14回	小児疾患
第15回	神経疾患に多い合併症

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されているので、教科書を忘れないようにすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は、進歩する。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第3版 編集 川平和美 医学書院

■参考書

なし

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	武田 滋利	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神障害 ライフサイクル メンタルヘルス 自殺 脆弱性-ストレスモデル ICD-10 DSM-IV-TR インフォームド・コンセント 薬物療法 精神療法 リエゾン精神医学 多職種連携 リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。
- ②現代社会とストレス・メンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。
- ③“脆弱性-ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。
- ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。
- ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療法の一般的枠組みについて理解・説明することができる。
- ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。
- ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。
- ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。

■授業の概要

理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、患者様が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類
第2回	精神機能の障害と精神症状
第3回	精神障害の診断と評価
第4回	脳器質性精神障害
第5回	症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害
第6回	てんかん
第7回	統合失調症およびその関連障害
第8回	気分(感情)障害
第9回	神経症性障害/生理的障害及び身体的要因に関連した障害
第10回	成人の人格(パーソナリティ)・行動・性の障害
第11回	精神遅滞/心理的発達の障害
第12回	リエゾン精神医学/心身医学/ライフサイクルにおける精神医学
第13回	精神機能の治療とリハビリテーション
第14回	精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション/社会・文化とメンタルヘルス
第15回	授業の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。

〔受講のルール〕

携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100%で判断。

■教科書

上野武治 編：標準理学療法・作業療法学 精神医学. 医学書院, 2010

■参考書

上島国利 立山万里 編：精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012

科目名	小児科学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	成長、発育、発達、新生児、未熟児、先天異常、小児の神経筋疾患				

■授業の目的・到達目標

- 1: 成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。
- 2: 先天異常と遺伝病の概要と各疾患の特徴が説明できること。
- 3: 神経、筋、骨格系、精神科領域の小児疾患の概要、特徴が説明できること。
- 4: 小児の内科的疾患の概要が説明できること。

■授業の概要

物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前の子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供として親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、小児科学概論 I: 小児の成長、発育、発達
第2回	小児科学概論 II: 栄養、摂食、小児保健
第3回	診断と治療の概要: 小児に対する、診断、検査、治療の概要
第4回	新生児、未熟児疾患 I: 新生児の評価と問題の把握、未熟児の病態
第5回	新生児、未熟児疾患 II: 新生児、周産期異常、新生児の中樞神経疾患
第6回	先天異常と遺伝 I: 先天異常と遺伝のメカニズム
第7回	先天異常と遺伝 II: 染色体異常、先天奇形、先天代謝異常、各疾患の特徴
第8回	神経、筋、骨格系疾患 I: 中枢神経疾患、てんかん、の病態と特徴、発達遅滞を伴う疾患の特徴、小テスト1
第9回	神経、筋、骨格系疾患 II: 脊髄、末梢神経疾患、筋疾患、骨関節疾患の病態と特徴
第10回	呼吸器疾患: 心血管系の発生と出生前後の循環動態、先天性及び後天性心疾患の病態、循環器疾患: 呼吸器の発生と機能発達、呼吸器疾患の病態と症状、検査、治療
第11回	感染症: 小児感染症の症状、特徴、診断と治療、予防接種、ワクチン
第12回	消化器疾患: 消化器の発生、機能発達と消化器疾患の病態、内分泌疾患: 内分泌疾患、糖代謝異常の病態
第13回	血液疾患: 造血組織の発生、血液成分とその利用、血液疾患各論、免疫、アレルギー疾患: 免疫の仕組みとその異常、アレルギー疾患の病態、自己免疫疾患の特徴
第14回	腎、泌尿器、生殖器疾患: 腎機能の発達と疾患の病態、生殖器疾患の病態、小テスト2 腫瘍、感覚器疾患: 小児に発生する悪性腫瘍、眼科、耳鼻科的疾患の症状と捉え方
第15回	心身症、神経症: 心身症、神経症の症状、疾患の背景にあるもの 重度心身障害児: 重度心身障害児とは? 障害の問題、療育の体制

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中!

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験による、期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を40%、期末テストの点数に60%の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第2版 編集 富田 豊 医学書院
(第9講 神経、筋、骨格系疾患IIにおいては、1年次で使用したリハビリテーション医学のテキストも使用する。)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	リハビリテーションの定義 障害モデル				

■授業の目的・到達目標

リハビリテーション領域の概要を理解し、基礎的な専門用語がつかえるようになる事を目指す。

到達目標

- ①リハビリテーションとは何かについて基本的な事から説明できる。
- ②各回の講義で学ぶキーワードについて説明でき、実際に使用して論じることができる。
- ③医療従事者としての自分の心構えを述べるができる。
- ④社会人としての常識ある行動をとることができる。

■授業の概要

教科書と必要に応じた教材を用いて医療やリハビリテーション領域の土台となる知識を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/ 専門職としての心構え、リハビリテーションの概要
第2回	病気、障害、障害モデル (ICIDH、ICF)
第3回	ノーマライゼーション
第4回	リハビリテーションの心理 (防衛機制、障害受容)
第5回	リハビリテーションの諸段階
第6回	リハビリテーションの過程 (職域、チームアプローチ、理学療法治療モデル)
第7回	インフォームドコンセント
第8回	リハビリテーションの定義

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業で取り扱った内容やそこに出てきたキーワードは漏らさず理解し、今後他の科目で引用する際にわからないことが無いように心がけること。ルールを守るといった社会人としての常識的な考え方も合わせて修得する。

■授業時間外学習にかかわる情報

理解に至らなかった部分だけでなく、興味を持った部分は自主的に調べるなどして知識を深めるよう心がけること。

■オフィスアワー

木曜日16:30～17:30

■評価方法

客観試験 素点100%で総合評価とする。

■教科書

入門リハビリテーション概論 中村隆一 編 医歯薬出版

■参考書

リハビリテーション 砂原茂一 岩波新書

科目名	保健医療福祉論	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	対人援助技術				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。
- ②援助技術の原理原則について理解する。
- ③基本的な援助技法を身につける。

■授業の概要

講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう(プロフィール票の作成・提出)
第2回	障害者と自立・ビデオ視聴(感想文を提出)
第3回	対人援助技術の原則
第4回	コミュニケーションスキルを磨く・演習とビデオ視聴
第5回	コンセンサスについて
第6回	社会福祉制度(身近な問題から)①
第7回	社会福祉制度(身近な問題から)②
第8回	まとめ 対人援助技術の原則

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。

8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。

演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中に配付された資料を必ず見直し、残しておくこと。後日それについてのレポートを課すこともある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

100%筆記試験(レポート試験)による。ただし、宿題や授業中に課すレポートやミニテストの提出状況で加点・減点することがある。

■教科書

授業中に指示する

■参考書

授業中に指示する

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	理学療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る選択 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	健康 予防 人口動態 セルフケア ヘルスプロモーション 環境				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になる個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれる。

【到達目標】

- ①人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習するとともに、最新データを自ら読み解き、日本が抱える課題・問題等を発見することができる。
- ②専門医療職に従事することを念頭に、クライアントに対して公衆衛生学の領域に関して適切なアドバイスをすることができる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口動態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業時に指示する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

みるみる公衆衛生学最新版 医学評論社

■参考書

授業時に指示する。

3) 專門科目

科目名	理学療法概論	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。

[到達目標]

- ①リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。
- ②理学療法士及び作業療法士法について説明できる。
- ③理学療法士の活動分野と概略について説明できる。
- ④理学療法の対象者と疾患について説明できる。
- ⑤理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。
- ⑥リハビリテーションチームと理学療法部門の管理について説明できる。

■授業の概要

15回に及ぶ講義中心の授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律
第2回	リハビリテーションと理学療法
第3回	理学療法の対象
第4回	理学療法の方法
第5回	リハビリテーションチームと理学療法部門
第6回	理学療法士の活動分野
第7回	医療事故
第8回	医療保険法・介護保険法・障害者自立支援法
第9回	ICFとICIDH
第10回	理学療法と評価
第11回	運動療法と運動療法機器
第12回	物理療法と物理療法機器
第13回	義肢と装具
第14回	日常生活活動と理学療法
第15回	ヒポクラテスの誓いから現代まで

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

・各回で実施するミニテストで一定水準以上(60%以上)のレベルに達しない場合、時間外学習に参加し再テストを受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭に前回の授業内容に関するミニテストを行う。毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法概論 奈良 勲編 医歯薬出版
理学療法学概論 監修 千住 秀明

科目名	理学療法セミナーⅠ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

臨床実習開始にあたり、ケーススタディーを中心としたクリニカルリーズニングについて学ぶ。

[到達目標]

各ケースにおける必要な理学療法評価項目を選択することができる。

評価結果より障害の構造を明らかにし問題点をICFの基準に従い抽出できる。

問題点に対するプログラムを設定することができる。

各期におけるゴールが設定できる。

■授業の概要

グループワークやケーススタディーを通して各疾患における理学療法全般の流れについて理解を深める授業となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	グループ学習
第2回	グループ学習
第3回	グループ学習
第4回	グループ学習
第5回	グループ学習
第6回	グループ学習
第7回	グループ学習
第8回	グループ学習
第9回	グループ学習
第10回	グループ学習
第11回	グループ学習
第12回	グループ学習
第13回	グループ学習
第14回	グループ学習
第15回	グループ学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・実技を行うときは白衣着用のこと。

[受講のルール]

・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート 100%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	理学療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎理学療法学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

臨床実習開始にあたり、ケーススタディーを中心としたクリニカルリーズニングについて学ぶ。

[到達目標]

各ケースにおける必要な理学療法評価項目を選択することができる。

評価結果より障害の構造を明らかにし問題点をICFの基準に従い抽出できる。

問題点に対するプログラムを設定することができる。

各期におけるゴールが設定できる。

■授業の概要

グループワークやケーススタディーを通して各疾患における理学療法全般の流れについて理解を深める授業となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	グループ学習
第2回	グループ学習
第3回	グループ学習
第4回	グループ学習
第5回	グループ学習
第6回	グループ学習
第7回	グループ学習
第8回	グループ学習
第9回	グループ学習
第10回	グループ学習
第11回	グループ学習
第12回	グループ学習
第13回	グループ学習
第14回	グループ学習
第15回	グループ学習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・実技を行うときは白衣着用のこと。

[受講のルール]

・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えううえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート 100%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	理学療法評価学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	(理学療法専攻2年次必修科目) 解剖学、運動学、理学療法入門、リハビリテーション入門の知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法における評価のプロセス(トップダウンアプローチ、ボトムアップアプローチ)を学び、ついで各検査項目について説明していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、理学療法評価総論(評価の目的、意義、方法、流れ)
第2回	情報収集、面接技法について
第3回	全身状態のみかた(観察で何をみるのか、検査で何をみるのか、意識、脈拍、血圧、呼吸)
第4回	形態計測:四肢長、周径
第5回	関節可動域検査①
第6回	関節可動域検査②
第7回	関節可動域検査③
第8回	関節可動域検査④
第9回	反射:腱反射、表在反射、病的反射①
第10回	反射:腱反射、表在反射、病的反射②
第11回	感覚検査①
第12回	感覚検査②
第13回	協調性検査
第14回	筋緊張検査①
第15回	筋緊張検査②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、実技試験30%(詳細な評価基準は別紙参照)
総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

細田多穂監修:理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ. 南江堂, 2010

■参考書

随時紹介する

科目名	理学療法評価学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	(理学療法専攻2年次必修科目) 解剖学、運動学、理学療法入門、リハビリテーション入門、理学療法評価学Ⅰの知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れ)を基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、理学療法評価の組み立て、進め方
第2回	徒手筋力検査 (MMT) 上肢
第3回	徒手筋力検査 (MMT) 下肢
第4回	徒手筋力検査 (MMT) その他の部位
第5回	疾患別理学療法評価
第6回	ADL・QOL評価
第7回	運動失調症の検査方法
第8回	高次脳機能・精神機能検査・脳神経検査
第9回	片麻痺機能検査①
第10回	片麻痺機能検査②
第11回	バランス検査①
第12回	バランス検査②
第13回	内部疾患の評価①
第14回	内部疾患の評価②
第15回	身体運動能

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や迷惑を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 70%、実技試験 30% (詳細な評価基準は別紙参照)
総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

細田多穂監修:理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ. 南江堂, 2010

■参考書

随時紹介する

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	(理学療法専攻2年次必修科目) 解剖学、運動学、理学療法入門、リハビリテーション入門の知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法における評価のプロセス(トップダウンアプローチ、ボトムアップアプローチ)を学び、ついで各検査項目について説明していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	理学療法評価総論(評価の目的、意義、方法、流れに関する演習)
第2回	情報収集、面接技法について
第3回	全身状態のみかた(観察で何をみるのか、検査で何をみるのか、意識、脈拍、血圧、呼吸)実習
第4回	形態計測:四肢長、周径の実習
第5回	関節可動域検査① 実習
第6回	関節可動域検査② 実習
第7回	関節可動域検査③ 実習
第8回	関節可動域検査④ 実習
第9回	反射:腱反射、表在反射、病的反射① 実習
第10回	反射:腱反射、表在反射、病的反射② 実習
第11回	感覚検査① 実習
第12回	感覚検査② 実習
第13回	協調性検査 実習
第14回	筋緊張検査① 実習
第15回	筋緊張検査② 実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 70%、実技試験 30%(詳細な評価基準は別紙参照)
総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

細田多穂監修:理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ. 南江堂, 2010

■参考書

随時紹介する

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	(理学療法専攻2年次必修科目) 解剖学、運動学、理学療法入門、リハビリテーション入門、理学療法評価学Ⅰの知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、観察技法、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味、評価の対象、評価の手段を理解できる。
- ②基本的な面接・観察技法を身につける。
- ③基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ④それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価学Ⅰで学んだ評価の目的、意義、方法、流れ)を基軸としつつ、各種検査方法について学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、理学療法評価の組み立て、進め方
第2回	徒手筋力検査(MMT) 上肢 実習
第3回	徒手筋力検査(MMT) 下肢 実習
第4回	徒手筋力検査(MMT) その他の部位 実習
第5回	疾患別理学療法評価
第6回	ADL・QOL 評価
第7回	運動失調症の検査方法 実習
第8回	高次脳機能・精神機能検査・脳神経検査
第9回	片麻痺機能検査① 実習
第10回	片麻痺機能検査② 実習
第11回	バランス検査① 実習
第12回	バランス検査② 実習
第13回	内部疾患の評価① 実習
第14回	内部疾患の評価② 実習
第15回	身体運動能 実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①白衣着用
- ②予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

実技の見極めテストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 70%、実技試験 30%(詳細な評価基準は別紙参照)
総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

細田多穂監修:理学療法評価学テキスト シンプル理学療法学シリーズ. 南江堂, 2010

■参考書

随時紹介する

科目名	運動療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法2年次必修科目 運動学の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	関節運動、筋運動、持久力、協調運動				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

運動療法の基本的な考え方、様々な手段についての方法を学び、運動療法学実習につながる知識を学ぶことを目的とする。

[到達目標]

- ①運動療法の意味を説明できる。
- ②運動療法の種類について説明できる。
- ③運動療法の効果について説明できる。

■授業の概要

理学療法を実施するにあたり、治療手段の一つに運動療法がある。臨床の場面では、使用頻度が高く、実践的な治療を行う上で基礎となるものである。運動療法Ⅰでは、基本的な考え方を理解する必要があり、Ⅱ・Ⅲまたは運動療法実習の土台となるものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	運動療法とは(定義・歴史・目的・対象)
第2回	関節可動域運動(関節の機能と障害)
第3回	関節可動域運動とは(維持を目的としたものと改善を目的としたもの)
第4回	筋力増強運動(筋の機能と障害)
第5回	筋力増強運動(目的・効果・基本原則・影響を及ぼす因子・各種方法論)
第6回	ストレッチング(種類と方法)
第7回	筋再教育(神経筋再教育とは・神経生理学的アプローチ)
第8回	筋持久力(筋持久力とは・決定要因・影響を与える因子)
第9回	全身持久力(運動療法による持久力の維持と改善:トレッドミルとエルゴメーター)
第10回	感覚・知覚再教育
第11回	協調運動・バランス練習(神経系の機能と障害)
第12回	全身調節訓練(運動と循環)
第13回	日常生活活動学:日常生活活動の概念
第14回	日常生活活動学:各ADL動作の構成要素
第15回	日常生活活動学:立ち上がり・移乗動作

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

授業中携帯電話の電源は切り、使用しないこと。携帯電話が必要な場合は申し出ること。

[受講ルール]

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観) 100%

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト:南江堂,2010 日常生活活動学テキスト:南江堂

■参考書

授業時に指示する。

科目名	運動療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	疼痛のメカニズム、クリニカルリーズニング、姿勢調節、学習理論、KR/KP、反射階層理論、システム理論、スキーマ、課題志向型アプローチ				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

運動療法に必要な専門的な理論の概要を学び、理学療法の進行全般に応用させる能力を養う。

[到達目標]

- ①各理論の概要を説明できる。
- ②各理論に基づいた運動療法の例を複数挙げる。
- ③各理論が理学療法進行のどの部分に活用できるか論じることができる。

■授業の概要

理学療法における治療手段を行う上で理解が不可欠な領域について解説する。専門性の高い治療を行うための基礎となるものである。やや難易度は高いが、専門技術職として要求されるものである。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション 疼痛に対する理学療法(疼痛の概論、メカニズム)
第2回	疼痛に対する理学療法(クリニカルリーズニング)
第3回	疼痛に対する理学療法(マネジメント)
第4回	疼痛に対する理学療法(特殊テクニックの概要)
第5回	姿勢調節(平衡機能、バランス)
第6回	姿勢調節(評価と解釈)
第7回	姿勢調節(治療)
第8回	姿勢調節(治療)
第9回	運動学習(記憶の概要)
第10回	運動学習(運動学習のプロセス)
第11回	運動制御(反射階層理論、スキーマ理論)
第12回	運動制御(ダイナミカルシステムズ理論)
第13回	神経発達学的治療(PNF、ボバースコンセプト)
第14回	課題志向型アプローチ
第15回	要点整理

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

難易度の高い理論を解説するので眠くなりやすい。専門を目指す者として興味を持って受講すること。一度では理解できないことも多いと予想されるので、何度も知識に触れる工夫が望まれる。

[受講ルール]

・授業シラバスを必ず確認し、示されたキーワードについて事前に学習して授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

理学療法領域でホットな話題も多い。清書だけでなく学術誌などから情報を探るとより興味深い学習ができる。

■オフィスアワー

木曜日16:30～17:30

■評価方法

筆記試験(客観)100%

■教科書

教科書は指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

■参考書

必要な資料をその都度紹介する。

科目名	運動療法学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	多田 菊代	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	〈理学療法専攻3年次必修科目〉解剖学、運動学、生理学、理学療法入門の知識が必要となる。	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	運動療法、内部障害、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患、腎機能障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

内部障害に対し有効な理学療法介入をするためには、問診、身体所見、臨床検査、画像所見などを病態生理学的に解釈する必要がある。また、各種内部障害に対する運動療法・ADL指導・包括的リハビリテーションのあり方について学び安全に理学療法を実践できる方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①呼吸・循環・代謝疾患について、病態に関する基本的知識を得る。
- ②理学療法士が行う検査・測定について学習する。
- ③呼吸・循環・代謝疾患に対する一般的な運動療法について学ぶ。
- ④内部障害への運動療法実施時のリスク管理について学ぶ。

■授業の概要

呼吸・循環・代謝疾患について、病態に関する知識の確認を行うと共に理学療法士が行う検査・測定について学習する。また呼吸・循環・代謝疾患に対する一般的な運動療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、呼吸器疾患の病態
第2回	呼吸器疾患の検査データの見方
第3回	呼吸器疾患のフィジカルアセスメント
第4回	呼吸器疾患への理学療法プログラム
第5回	呼吸器疾患の運動療法・ADL指導・包括的リハビリテーション
第6回	呼吸理学療法の実際
第7回	循環器疾患に対する運動療法 概論
第8回	心筋梗塞・狭心症・心不全の病態
第9回	循環器疾患の評価
第10回	循環器疾患に対する理学療法の目的・評価項目・治療プログラム
第11回	循環器疾患に対する運動療法
第12回	循環器疾患の運動療法・ADL指導・包括的リハビリテーション
第13回	糖尿病の病態・理学療法の目的・評価項目・治療プログラム
第14回	糖尿病に対する理学療法（運動療法を中心に）
第15回	腎機能障害の病態・理学療法の目的・評価項目・治療プログラム

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ①予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。
- ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。
- ③授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

小テストを実施することがある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

奈良勲著：標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学。医学書院，2013

■参考書

随時紹介する

科目名	運動療法学実習 I	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法2年次必修科目 運動療法学Iの知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	関節運動、筋運動、持久力、協調運動				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]
運動療法Iを理解した上で、実習を進める。

[到達目標]

- ①運動療法を理解した上で実施することができる。
- ②運動療法を実施する上で注意点を説明できる。
- ③安全に運動療法を実施することができる。

■授業の概要

運動療法学Iで学んだ内容を基に授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	リラクゼーションテクニック①(ストレスとリラクゼーション、リラクゼーション評価)
第2回	リラクゼーションテクニック②(呼吸法、漸増的弛緩法、自律訓練法、ストレッチング、身体運動)
第3回	①実技試験(リラクゼーションテクニックについて)
第4回	運動療法による関節可動域の維持と改善①(上肢)
第5回	運動療法による関節可動域の維持と改善②(下肢)
第6回	②実技試験(関節可動域について)
第7回	運動療法による筋力の維持と増強①(等尺性・等張性・等速性による筋力増強運動)
第8回	運動療法による筋力の維持と増強②(等尺性・等張性・等速性による筋力増強運動)
第9回	③実技試験(筋力増強について)
第10回	筋持久力増強運動
第11回	感覚・知覚再教育
第12回	④実技試験(筋力増強について)
第13回	協調運動・バランス練習①(神経系の機能と障害)
第14回	協調運動・バランス練習②(神経系の機能と障害)
第15回	⑤実技試験(筋力増強について)

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・白衣着用

[受講ルール]

・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

実技試験(客観) ①20%、②20%、③20%、④20%、⑤20%の合計100%(合格基準は各実技試験60%とする)とする。

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 運動療法学テキスト:南江堂,2010

■参考書

授業時に指示する。

科目名	運動療法学実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	動作観察、動作の記録、解釈、動作分析、階層性、課題(タスク)				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

評価から治療を展開するに先だって、動作の観察・分析能力を学ぶ。

[到達目標]

- ①動作を観察し、要点を述べることができる。
- ②観察によって抽出した点について、運動学的な解説を述べるができる。
- ③観察によって抽出した点について神経学的な解説を述べるができる。

■授業の概要

健常者の動作、症例の動作の画像や動画を観察し、神経学・運動学的解釈を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/動作分析-観察の基本、分析の意義
第2回	動作観察(起き上がり)
第3回	動作観察(立ち上がり)
第4回	動作観察(歩行)
第5回	実地テスト -動作の観察-
第6回	動作の解釈(起き上がり)
第7回	動作の解釈(立ち上がり)
第8回	動作の解釈(歩行)
第9回	実地テスト -動作の観察から解釈まで-
第10回	ADL動作分析(起居動作)
第11回	ADL動作分析(排泄行為)
第12回	ADL動作分析(排泄行為)
第13回	下肢荷重関節障害の動作
第14回	脳血管障害の動作
第15回	脳血管障害の動作

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・動作分析に正解はない。妥当かの外れかが判断の基準となる。数多く経験することで能力が芽生えるので積極的に取り組むこと。

[受講ルール]

- ・自主的に観察力、分析思考を養うことを推奨する。
- ・白紙での提出は実習では最も好ましくないの、間違っている気がしても何かを記入して提出すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

実地試験がクリアできない場合はこの先の学習に支障を来たすので、時間外学習を課すことがある。

■オフィスアワー

木曜日16:30～17:30

■評価方法

客観試験素点100%を総合評価とする。ただし、客観試験は実地試験得点を合算補正する。回答欄に実地試験得点を記入することで得点とする。未記入や記入ミスは誤答扱いとするので注意すること。詳細は科目オリエンテーションで説明する。

■教科書

高橋正明編集：標準理学療法学専門分野「臨床動作分析」，医学書院

■参考書

授業時に指示する。

科目名	運動療法学実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格にかかわる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

運動療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびそれぞれの実習より学んだ各種運動療法の知識と技術を応用し、また人間発達学、老年学などから学んだ高齢者の特徴を考慮しながら、高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）について学んでいく。

[到達目標]

- ①高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べるができる。
- ②高齢者の身体機能の特性について述べるができる。
- ③高齢者の運動促進の方法について、対象に応じた運動療法を選択し実施できる。
- ④生活習慣病について、対象に応じた運動療法を選択し実施できる。
- ⑤産業保健分野の理学療法について、具体的な運動療法を説明できる。

■授業の概要

15回に及ぶ授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	高齢者の特性～精神機能・心理の特性
第2回	高齢者の特性～身体機能の特性①
第3回	高齢者の特性～身体機能の特性②
第4回	高齢者の特性～高齢者に接する際の注意点
第5回	高齢者の特性～特有の障害と理学療法
第6回	身体活動・運動の促進～高齢者の活動性を高める
第7回	身体活動・運動の促進～高齢者のリスク管理
第8回	身体活動・運動の促進～高齢者の体力測定
第9回	身体活動・運動の促進～高齢者の筋力増強
第10回	身体活動・運動の促進～高齢者の健康増進
第11回	生活習慣病と運動療法～生活習慣病とは
第12回	生活習慣病と運動療法～動脈硬化・高血圧と運動療法
第13回	生活習慣病と運動療法～高脂血症・肥満と運動療法
第14回	生活習慣病と運動療法～癌と運動療法
第15回	産業保健分野と運動療法

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・各回で実施するミニテストで一定水準以上(60%以上)のレベルに達しない場合、時間外学習に参加し再テストを受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭に前回の授業内容に関するミニテストを行う。毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

理学療法MOOK 高齢者の理学療法 シリーズ編集 黒川幸雄・他 三輪書店

科目名	物理療法学	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法2年次必修科目 解剖学と生理学の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「物理療法学」			
キーワード	温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・光線療法				

■授業の目的・到達目標

- ①理学療法における物理療法の位置づけが説明できる。
- ②物理療法に用いられる各種エネルギーの特性を説明することができる。
- ③各種物理療法の適応と禁忌が説明できる。
- ④各種物理療法機器の安全な取扱いができる。

■授業の概要

物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は理学療法における物理療法の位置づけを理解することから始まり、物理療法に用いられる各種エネルギーの特性と生体反応の物理的機序を学ぶ。また、実際に物理療法を経験することにより、各種機器の正しく安全な操作方法を習得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	物理療法総論 ①物理療法の臨床への応用と今後の展開
第2回	物理療法総論 ②長期外来通院患者に物理療法は貢献しているか
第3回	表在性温熱①筋スパズム・痙性麻痺に対して
第4回	表在性温熱②スポーツ外傷・慢性関節リウマチに対して
第5回	寒冷療法①筋スパズム・痙性麻痺に対して
第6回	寒冷療法②スポーツ外傷・慢性関節リウマチに対して
第7回	超音波療法①物理的性質と理学療法への応用
第8回	超音波療法②骨折治癒と創傷治癒に対して
第9回	電気刺激療法①筋力低下・筋萎縮・脳卒中片麻痺に対して
第10回	電気刺激療法②RSDの痛み、幻肢痛、骨癒合に対して
第11回	光線療法①紫外線療法と赤外線療法
第12回	光線療法②創傷治癒と痛みに対して
第13回	機械的療法①スポーツ外傷に対するストレッチ、腰椎および頸椎牽引、乳がん後の慢性浮腫に対して
第14回	機械的療法②筋病変、筋疲労、人工膝関節置換術後のCPM療法、触覚刺激法
第15回	水治療法①整形外科疾患、創傷・熱傷に対して

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習復習は必ず行うこと。

[受講ルール]

・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 物理療法学テキスト：南江堂2008

■参考書

授業時に指示する。

科目名	物理療法学実習	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法2年次必修科目 解剖学と生理学の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「物理療法学」			
キーワード	温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・光線療法				

■授業の目的・到達目標

- ①各種機器の安全な取扱い及び操作ができる。
- ②対象となる疾患の症状に応じた物理療法機器の選択ができる。
- ③対象となる疾患のリスク管理を行い機器を使用することができる。

■授業の概要

物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は各種疾患に対する物理療法の適応を理解し、物理療法に用いられる各種エネルギー特性と疾患特有の症状への生理的機序を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	物理療法総論①物理療法の臨床への応用と今後の展開
第2回	物理療法総論②長期外来通院患者に物理療法は貢献しているか
第3回	表在性温熱①筋スパズム・痙性麻痺に対する実際
第4回	表在性温熱②スポーツ外傷・慢性関節リウマチに対する実際
第5回	寒冷療法①筋スパズム・痙性麻痺に対する実際
第6回	寒冷療法②スポーツ外傷・慢性関節リウマチに対する実際
第7回	超音波療法①物理的性質と理学療法への応用の実際
第8回	超音波療法②骨折治癒と創傷治癒に対する実際
第9回	電気刺激療法①筋力低下・筋萎縮・脳卒中片麻痺に対する実際
第10回	電気刺激療法②RSDの痛み、幻肢痛、骨癒合に対する実際
第11回	光線療法①紫外線療法と赤外線療法に対する実際
第12回	光線療法②創傷治癒と痛みに対する実際
第13回	機械的療法①スポーツ外傷に対するストレッチ、腰椎および頸椎牽引、乳がん後の慢性浮腫に対する実際
第14回	機械的療法②筋病変、筋疲労、人工膝関節置換術後のCPM療法、触圧覚刺激法に対する実際
第15回	水治療法①整形外科疾患、創傷・熱傷に対する実際

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・予習復習は必ず行うこと。

[受講ルール]

・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 物理療法学テキスト：南江堂2008

■参考書

授業時に指示する。

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	切断、麻痺(中枢性・末梢性)、義足、装具、車椅子、歩行補助具				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

車椅子や歩行補助具、義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた車椅子や歩行補助具、義肢、装具を選択できるようにすることを目的とする。

[到達目標]

- ①リハビリテーション医学における義肢・装具の意義を説明できる。
- ②車椅子や歩行補助具、義肢装具の種類と機能を述べるができる。また、義肢装具の構造を説明することができる。
- ③疾患や障害に合った車椅子、歩行補助具、装具を選択することができる。

■授業の概要

臨床で使用されている車椅子、歩行補助具、義肢・装具を、理学療法との結び付きの中で学習し、これまで習った疾患や障害に照らし合わせながら車椅子、歩行補助具、義肢・装具の種類、適応、用法、禁忌、起こりやすいトラブルなどの基礎知識を身に付ける。義肢については、切断部位、ソケットの構造、継手の種類・適応などを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/歩行補助具について
第2回	車椅子の名称、各種機能、操作方法について
第3回	車椅子の採寸、チェックポイント
第4回	義肢装具の概念、切断部位と切断術について
第5回	切断の分類・原因、切断手段の概略、切断部位と切断術について
第6回	大腿義足ソケット(四辺形ソケットとIRCソケットの機能的役割)について
第7回	下腿義足ソケット(PTB、PTS、KBM、TSB式下腿義足)について
第8回	股義足、膝義足について
第9回	サイム義足、足部義足について
第10回	義手について
第11回	装具学総論、短下肢装具
第12回	長下肢装具
第13回	靴型装具について
第14回	頸部体幹装具について
第15回	上肢装具について

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に車椅子や歩行補助具、義肢、装具などに触れること。

[受講のルール]

- ・授業概要を必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観)100%

■教科書

細田多穂監:義肢装具学テキスト 南江堂

■参考書

日本義肢装具学会監修:義肢学 医歯薬出版
日本義肢装具学会監修:装具学 第3版 医歯薬出版

科目名	義肢装具学実習	担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	切断、麻痺(中枢性・末梢性)、義足、装具				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①切断者に対する術直後の断端管理、ADL動作指導について述べるができる。
- ②切断者に対する義肢適合のチェックポイントを述べるができる。
- ③下肢切断者の異常歩行についてその原因を列挙することができる。
- ④プラスチック製短下肢装具の製作工程を説明することができる。

■授業の概要

「義肢装具学」で学んだことを実際の義肢・装具などを扱いながら知識を深めることを目的とする。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、フィッティングの確認方法、義足着用時の動作分析などを学習する。また、短下肢装具の型どりを体験するとともに下肢装具のチェックポイントや歩行への影響を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/切断者の評価 全身及び断端の評価
第2回	断端管理法 立位歩行練習 ADL指導①
第3回	断端管理法 立位歩行練習 ADL指導②
第4回	大腿義足、下腿義足のベンチアライメントと静的アライメント
第5回	大腿切断者の歩行分析 異常歩行とダイナミックアライメント①
第6回	大腿切断者の歩行分析 異常歩行とダイナミックアライメント②
第7回	下腿切断者の歩行分析 異常歩行とダイナミックアライメント
第8回	下腿装具のチェックポイントと歩行への影響①
第9回	下腿装具のチェックポイントと歩行への影響②
第10回	プラスチック装具の採型①
第11回	プラスチック装具の採型②
第12回	プラスチック装具の採型③
第13回	上肢装具・体幹装具の実際
第14回	義肢製作所の見学①
第15回	義肢製作所の見学②

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・整形外科学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に義肢、装具などに触れること。

[受講のルール]

- ・授業シラバスを必ず確認し理解を深めるよう積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(携帯電話の使用、私語)は厳禁。
- ・採型実習や見学は出席を前提とするため休まないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するように努力すること。

■オフィスアワー

木曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する) その他の曜日については要予約

■評価方法

筆記試験(客観)80%、レポート20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

細田多穂監:義肢装具学テキスト 南江堂

■参考書

日本義肢装具学会監修:義肢学 医歯薬出版
日本義肢装具学会監修:装具学 第3版 医歯薬出版

科目名	理学療法技術論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目 「整形外科学」、「理学療法評価法」、「運動療法学」の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	骨折・変形・脱臼・靭帯損傷				

■授業の目的・到達目標

- ①運動器疾患の評価項目を挙げることができる。
- ②運動器疾患のリスク管理を理解する。
- ③運動器疾患に対して実際の理学療法プログラムを立案することができる。

■授業の概要

「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対しての治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	変形性関節症①（股関節・膝関節）
第2回	変形性関節症②（股関節・膝関節）
第3回	変形性関節症③（股関節・膝関節）
第4回	骨折
第5回	関節リウマチ
第6回	スポーツ外傷・障害①（上肢：肩、肘）
第7回	スポーツ外傷・障害②（下肢：膝・足部）
第8回	脊椎疾患
第9回	腰痛症①（腰椎椎間板ヘルニア）
第10回	腰痛症②（腰椎分離症・すべり症）
第11回	靭帯損傷（肘、膝、足部）
第12回	肩関節周囲炎・腱板損傷
第13回	胸郭出口症候群
第14回	慢性疼痛疾患
第15回	骨壊死性疾患

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講ルール]
 ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観）100%とする。

■教科書

標準理学療法学 骨関節理学療法学 2013

■参考書

授業時に指示する。

科目名	理学療法技術論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格にかかわる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

前半は脊髄損傷、後半は大腿骨頸部骨折について解説する。この授業において各疾患の概要から理学療法評価、プログラム立案、理学療法の実施に至る過程について理解し、実施できるようにする。

[到達目標]

- ①脊髄損傷における評価の意義と必要な評価項目を知り、評価内容を統合解釈し、どのように理学療法プログラムを立案すべきか理解する。
- ②大腿骨頸部骨折における障害と術前・術後のリスクを理解し整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。

■授業の概要

15回に及ぶ講義中心の授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション 脊髄損傷の病態を確認する
第2回	脊髄損傷の病態を確認する
第3回	脊髄損傷に対する理学療法評価
第4回	〃
第5回	脊髄損傷の理学療法におけるリスク管理
第6回	脊髄損傷に対する理学療法
第7回	〃
第8回	大腿骨頸部骨折の病態を確認する
第9回	〃
第10回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法評価
第11回	〃
第12回	大腿骨頸部骨折の理学療法におけるリスク管理
第13回	〃
第14回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法
第15回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・各回で実施するミニテストで一定水準以上(60%以上)のレベルに達しない場合、時間外学習に参加し再テストを受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭に前回の授業内容に関するミニテストを行う。毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%

■教科書

細田多穂/監修 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂
細田多穂/監修 中枢神経障害理学療法学テキスト 南江堂

■参考書

授業内に随時紹介する

科目名	理学療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	評価項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法記録				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。

[到達目標]

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を論じることができる。
- ②ケースに応じたリスク管理について述べるができる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーを記録できる。

■授業の概要

疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを中枢神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ケーススタディの基礎、理学療法のプロセス
第2回	脳血管障害の特徴を踏まえたケースマネジメント
第3回	評価プラン
第4回	統合と解釈、問題点抽出
第5回	プログラム立案
第6回	リスク管理、記録
第7回	カルテ、ケースレポート、サマリー、レジユメの書き方
第8回	パーキンソン病の特徴を踏まえたケースマネジメント
第9回	評価プラン
第10回	統合と解釈、問題点抽出
第11回	プログラム立案
第12回	リスク管理、記録
第13回	頭部外傷
第14回	脳腫瘍
第15回	要点整理

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

高い思考力が要求される。自力で思考展開ができるように努力すること。

[受講ルール]

- ・講義で大枠の流れを学ぶ。後のケース演習に対応できるようにしっかりと学ぶこと。
- ・他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。

■授業時間外学習にかかわる情報

難易度は高めであっても臨床では平均的に要求される内容である。理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと。レポートの出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある。

■オフィスアワー

木曜日16:30～17:30

■評価方法

客観試験素点100%で総合評価とする。素点はレポート課題で補正する。Bランクを±0として、Aを+5、Cを-5、Dを-10で補正する。レポート評価の詳細は科目オリエンテーションで説明する。

■教科書

教科書は指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

■参考書

必要な資料をその都度紹介する。

科目名	理学療法技術論実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	新谷 益巳	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目 整形外科、理学療法評価法、運動療法学の知識が必要	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	治療・評価・プログラム				

■授業の目的・到達目標

- ①運動器疾患の評価項目を挙げるができる。
- ②運動器疾患のリスク管理を理解する。
- ③運動器疾患に対して実際の理学療法プログラムを立案することができる。
- ④①～③を理解して実際に実施することができる。

■授業の概要

理学療法技術論Ⅰを基に実習を進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	変形性関節症状①(股関節・膝関節) の実際
第2回	変形性関節症状②(股関節・膝関節) の実際
第3回	変形性関節症状③(股関節・膝関節) の実際
第4回	骨折の実際
第5回	関節リウマチの実際
第6回	スポーツ外傷・障害①(上肢:肩、肘) の実際
第7回	スポーツ外傷・障害②(下肢:膝・足部) の実際
第8回	脊椎疾患の実際
第9回	腰痛症①(腰椎椎間板ヘルニア) の実際
第10回	腰痛症②(腰椎分離症・すべり症) の実際
第11回	靭帯損傷(肘、膝、足部) の実際
第12回	肩関節周囲炎・腱板損傷の実際
第13回	胸郭出口症候群の実際
第14回	慢性疼痛疾患の実際
第15回	骨壊死性疾患の実際

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・白衣着用

[受講ルール]

・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観) 100%とする。

■教科書

標準理学療法学 骨関節理学療法学 2013

■参考書

授業時に指示する。

科目名	理学療法技術論実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格にかかわる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士法、運動療法、物理療法				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

この授業において各疾患の概要から理学療法評価、プログラム立案、理学療法の実施に至る過程について理解し、実施できるようにする。

[到達目標]

変形性膝関節症、関節リウマチの概要を説明する事ができる。

各疾患の評価項目を列挙する事ができる。

評価結果を統合と解釈し問題点を抽出し、それに合わせたプログラムを立案できる。

■授業の概要

15回に及ぶ授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。第2回以降、授業冒頭にミニテストを行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 保存 概要
第2回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 保存 評価と統合と解釈
第3回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 保存 マネジメント
第4回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 保存 マネジメント
第5回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 術後 概要
第6回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 術後 評価と統合と解釈
第7回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 術後 マネジメント
第8回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 術後 マネジメント
第9回	各疾患ごとの理学療法 変形性膝関節症 術後 マネジメント
第10回	各疾患ごとの理学療法 関節リウマチ 術後 概要
第11回	各疾患ごとの理学療法 関節リウマチ 術後 評価
第12回	各疾患ごとの理学療法 関節リウマチ 術後 統合と解釈、問題点
第13回	各疾患ごとの理学療法 関節リウマチ 術後 マネジメント
第14回	各疾患ごとの理学療法 関節リウマチ 術後 マネジメント
第15回	各疾患ごとの理学療法 関節リウマチ 術後 マネジメント

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

・各回で実施するミニテストで一定水準以上(60%以上)のレベルに達しない場合、時間外学習に参加し再テストを受けること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭に前回の授業内容に関するミニテストを行う。毎回の復習を怠らないこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%

■教科書

細田多穂/監修 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂

■参考書

授業内に随時紹介する

科目名	理学療法技術論実習Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「理学療法治療学」			
キーワード	評価項目の抽出、統合と解釈、問題点抽出、プログラム立案、理学療法記録、ケースレポート				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。

[到達目標]

- ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。
- ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。
- ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーを記録できる。

■授業の概要

疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを中枢神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを実践する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ケーススタディ(脳血管障害A) 症例提示
第2回	ケーススタディ口頭試問1
第3回	ケーススタディ口頭試問2
第4回	レポート提出、口頭試問3
第5回	ケーススタディ(脳血管障害B) 症例提示
第6回	ケーススタディ口頭試問1
第7回	ケーススタディ口頭試問2
第8回	レポート提出、口頭試問3
第9回	ケーススタディ(パーキンソン病) 症例提示
第10回	ケーススタディ口頭試問1
第11回	レポート提出、口頭試問2
第12回	ケーススタディ(頭部外傷、脳腫瘍) 症例提示
第13回	ケーススタディ口頭試問1
第14回	レポート提出、口頭試問2
第15回	要点整理

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

高い思考力と実技能力が要求される。自力で思考展開ができ、かつ実践できるように学習を進めること。

[受講ルール]

- ・グループワークを基本とするが、個々の学習進捗が評価に影響するので、他者任せにしないよう注意すること。
- ・他者に依存することで実習に対応できる能力が身に付かないので、主体的に関わること。

■授業時間外学習にかかわる情報

口頭試問の難易度は実習で要求されるレベルを基準としている。時間外でも質問は随時受け付ける。

■オフィスアワー

木曜日16:30～17:30

■評価方法

評価はレポート得点を100%とするが、口頭試問の得点で補正する。口頭試問の問題は事前提示し、毎回ほぼ同一内容となる。ただし、解答はケースのコンディションで変わるため、十分考察の上で解答すること。配点などの詳細はオリエンで説明する。

■教科書

教科書は指定しない。必要な資料はその都度紹介する。

■参考書

必要な資料をその都度紹介する。

科目名	地域理学療法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	浅川 裕子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	介護保険、ケアマネージャー、地域リハビリテーション、関連職種				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの概念、社会背景、関連制度、施設についての知識を学ぶとともに、地域で生活する対象者を把握するうえで必要な知識を身につける。

〔到達目標〕

- ①介護保険制度の概要について述べるができる。
- ②関連職種について役割が説明できる
- ③保健、予防分野における理学療法士の関わりを説明できる。

■授業の概要

法学やリハビリテーション入門、理学療法概論が基礎となり、地域で生活する対象者を取り巻く環境について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション 介護保険制度の目的・理念・仕組みについて①
第2回	介護保険制度の目的・理念・仕組みについて②
第3回	介護給付サービス
第4回	ケアマネージャーの役割とケアマネジメントとは
第5回	高齢者の医療確保に関する法律と健康増進法
第6回	地域リハビリテーションにおける関連職種との連携
第7回	介護保険での理学療法① 地域包括ケア
第8回	介護保険での理学療法② 介護予防事業と予防給付
第9回	介護保険での理学療法③ 介護給付
第10回	介護老人保健施設について①
第11回	介護老人保健施設について②
第12回	介護老人福祉施設について
第13回	訪問リハビリについて
第14回	通所リハビリについて
第15回	行政で働く理学療法士の仕事について

■受講生に関わる情報および受講のルール

事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること

出席時間を守ること

授業の流れや雰囲気乱したり、他の学生の迷惑になるような行為（私語・携帯電話の使用など）は厳禁

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で前回の内容についてミニテストを実施するので、しっかりと復習をして授業に望むこと

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 日常生活活動学テキスト 細田多穂監修 南江堂

■参考書

授業時に指示する。

科目名	地域理学療法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	浅川 裕子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	廃用症候群、自立支援法、体験学習				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が大きいこと、その中でPTに何ができるかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。また体験学習を通して再現性のある検査測定の手技を習得する。

〔到達目標〕

- ①地域理学療法を実施する上で必要なリスク管理について列挙することができる。
- ②廃用症候群の成り立ち、症状、予防について述べるができる。
- ③障害者自立支援法の概要について説明ができる。
- ④地域リハビリテーションの対象者に対し、面談から理学療法の一連の流れが安全・効率的に実施できる。

■授業の概要

廃用症候群のリスクやその予防法、在宅酸素について学び、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する他職種の役割などを学ぶ。また体験学習では検査測定の実技を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション 地域理学療法場面で起こりうるリスクに対する対応について
第2回	運動を行わないことに対するリスク 廃用症候群について①
第3回	運動を行わないことに対するリスク 廃用症候群について②
第4回	廃用症候群の予防①
第5回	廃用症候群の予防②
第6回	自立支援法について
第7回	自立支援施設で生活するとは
第8回	体験学習①
第9回	体験学習②
第10回	在宅酸素について①
第11回	在宅酸素について②
第12回	体験学習③
第13回	体験学習④
第14回	体験学習⑤
第15回	体験学習⑥

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。
体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。
内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

体験学習にあたって事前に準備（情報収集や実技練習）をすること

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（論述・記述）80% レポート20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	地域理学療法学実習	担当教員 (単位認定者)	浅川 裕子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻3年必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	住環境、福祉用具、疾患別ADL、体験学習				

■授業の目的・到達目標

目的:各疾患の病態・症状を理解し、それぞれに適したADL指導が行えるようになる

- 目標:①各福祉用具について説明ができ、処方ができる
 ②疾患別のADL、住環境について説明ができる
 ③自分が体験した理学療法の対象者について説明ができる
 ④連携する他職種から情報を得ることができる
 ⑤情報収集や動作観察から対象者の問題点を列挙することができる

■授業の概要

各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住環境について学習する。また、体験学習を通して、理学療法士の役割・連携する他職種の役割や実際の対象者の住環境・ADLについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション ADL指導・住環境整備の考え方
第2回	福祉用具について
第3回	疾患別ADL・住環境①(脳血管障害)
第4回	疾患別ADL・住環境②(脳血管障害)
第5回	疾患別ADL・住環境③(脳血管障害)
第6回	疾患別ADL・住環境④(脳血管障害)
第7回	疾患別ADL・住環境⑤(脳血管障害)
第8回	疾患別ADL・住環境⑥(人工股関節術後)
第9回	疾患別ADL・住環境⑦(人工股関節術後)
第10回	疾患別ADL・住環境⑧(人工股関節術後)
第11回	疾患別ADL・住環境⑨(人工股関節術後)
第12回	疾患別ADL・住環境⑩(関節リウマチ)
第13回	疾患別ADL・住環境⑪(関節リウマチ)
第14回	疾患別ADL・住環境⑫(関節リウマチ)
第15回	疾患別ADL・住環境⑬(難病疾患)

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。
 体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。
 内容が類似した実習記録やレポートは受け付けられないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

体験学習にあたって事前に準備(情報収集や実技練習)をすること

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・記述)50% レポート50% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト/日常生活活動学テキスト 第2版 細田多穂監修 南江堂

■参考書

授業時に指示する。

科目名	地域理学療法学実習	担当教員 (単位認定者)	浅川 裕子	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法士国家試験受験に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域理学療法学」			
キーワード	住環境、福祉用具、疾患別ADL、体験学習				

■授業の目的・到達目標

目的:各疾患の病態・症状を理解し、それぞれに適したADL指導が行えるようになる
 目標:①各福祉用具について説明ができ、処方ができる
 ②疾患別のADL、住環境について説明ができる
 ③自分が体験した理学療法の対象者について説明ができる
 ④連携する他職種から情報を得ることができる
 ⑤情報収集や動作観察から対象者の問題点を列挙することができる

■授業の概要

各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住宅環境について学習する。また、体験学習を通して、理学療法士の役割・連携する他職種の役割や実際の対象者の住宅環境・ADLについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	疾患別ADL・住宅環境⑬(難病疾患)
第17回	疾患別ADL・住宅環境⑭(難病疾患)
第18回	疾患別ADL・住宅環境⑮(高齢者/認知症・腰痛・嚥下障害含む)
第19回	疾患別ADL・住宅環境⑯(高齢者/認知症・腰痛・嚥下障害含む)
第20回	疾患別ADL・住宅環境⑰(高齢者/認知症・腰痛・嚥下障害含む)
第21回	体験学習・事前学習
第22回	体験学習①
第23回	体験学習②
第24回	体験学習・振り返り
第25回	体験学習・事前学習
第26回	体験学習③
第27回	体験学習④
第28回	体験学習・振り返り
第29回	まとめ
第30回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。
 体験学習の実習記録は、翌日の9:00までに提出すること。
 内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

体験学習にあたって事前に準備(情報収集や実技練習)をすること

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・記述)50% レポート50% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

シンプル理学療法シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト/日常生活活動学テキスト 第2版 細田多穂監修 南江堂

■参考書

授業時に指示する。

科目名	臨床実習指導Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

理学療法評価の基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①臨床で必要とされるマナー・技術・判断力を身に付けることができる。
- ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。

■授業の概要

これまで学んできたことを整理し、臨床評価実習に向けた準備とする。事前準備の中で、OSCE (Objective Structured Clinical Examination = 客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得することを目的とする。実習後は担当した症例について整理し、レジュメを作成後に発表・報告会を行い、理学療法評価に対する理解を深めることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	OSCE①
第2回	OSCE②
第3回	OSCE③
第4回	OSCE④
第5回	臨床実習の基本的な流れ、臨床実習のてびき
第6回	安全管理・感染症対策、守秘義務と個人情報保護
第7回	記録・報告・レポートの書き方、対人関係、ハラスメント
第8回	ケース発表①
第9回	ケース発表②
第10回	ケース発表③
第11回	ケース発表④
第12回	ケース発表⑤
第13回	ケース発表⑥
第14回	ケース発表⑦
第15回	ケース発表⑧

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・実技を行うときは白衣着用のこと。

[受講のルール]

・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

OSCEの結果、レジュメ、セミナー発表 100%

■教科書

PT臨床実習ルートマップ 編集 柳澤健 メジカルビュー

■参考書

授業時に指示する。

科目名	臨床実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

理学療法評価からプログラム実施までの基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①臨床で必要とされるマナー・知識・技術・判断力を身に付けることができる。
- ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。

■授業の概要

これまで学んできたことを整理し、臨床総合実習に向けた準備とする。実習後は担当した症例について整理し、レジュメを作成後に発表・報告会を行い、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。また、実習を終えた時点で4年間の学習理解度を図る試験を実施する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	臨床実習ガイダンス①
第2回	臨床実習ガイダンス②
第3回	レジュメ作成
第4回	ケース発表①
第5回	ケース発表②
第6回	ケース発表③
第7回	ケース発表④
第8回	ケース発表⑤
第9回	ケース発表⑥
第10回	ケース発表⑦
第11回	ケース発表⑧
第12回	ケース発表⑨
第13回	ケース発表⑩
第14回	ケース発表⑪
第15回	ケース発表⑫

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

・実技を行うときは白衣着用のこと。

[受講のルール]

・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えううえで受講すること。また、時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

既に履修した各検査測定項目の意義を復習し、各自で技術のレベルアップを図るために練習するよう努力すること。また、理学療法関連の文献を積極的に読み、まとめること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験、レジュメ、セミナー発表 100% 総合評価は筆記試験60%以上が前提となる。

■教科書

PT臨床実習ルートマップ 編集 柳澤健 メジカルビュー社

■参考書

授業時に指示する。

科目名	評価実習	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	4 (180)
履修要件	理学療法専攻3年次後期	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的と概要]

臨床の場で各対象者に応じた評価項目を選択、実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出を行えるようになることを目的とする。臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

[到達目標]

- ①理学療法の位置づけや役割を説明することができる。
- ②関連職種の仕事について説明することができる。
- ③各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ④評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定を行うことができる。
- ⑤実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

3年次評価実習開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

レポート、臨床評価実習結果 100%

科目名	総合臨床実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的と概要]

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目(選択科目は選択の範囲において)の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

レポート、総合臨床実習結果 100%

科目名	総合臨床実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	専門科目「臨床実習」			
キーワード	評価プロセス、面接技法、検査技法、観察技法、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的と概要]

臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。

- ①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。
- ②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。
- ③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。
- ④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目(選択科目は選択の範囲において)の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。

■実習上の注意

- ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたうえで実習に臨むこと。
- ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。
- ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。

臨床実習の手引きを熟読すること。

■評価方法

レポート、総合臨床実習結果 100%

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦・ 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士、運動療法、物理療法、研究				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。

[到達目標]

臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。

■授業の概要

研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	研究計画の立案
第3回	〃
第4回	〃
第5回	研究テーマの決定
第6回	調査(調査及び資料の収集)
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	倫理的配慮について(倫理審査書類の作成)
第11回	研究計画書作成及び発表
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]

・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。

・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

・適宜、担当教員と連絡を取り合い、研究を進めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業時に指示する。

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

はじめての研究法 著者:千住秀明・他 SHINRYOUBUNKO

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	小島・柴・三浦・ 多田・新谷・浅川	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	理学療法、リハビリテーション、理学療法士、運動療法、物理療法、研究				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。

[到達目標]

臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。

■授業の概要

研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	研究活動
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	口頭試問
第24回	卒業研究発表会
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	〃

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生にかかわる情報]および[受講のルール]

- ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。
- ・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・適宜、担当教員と連絡を取り合い、研究を進めること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。

■教科書

教科書の設定なし

■参考書

はじめての研究法 著者：千住秀明・他 SHINRYOUBUNKO

作業療法専攻

作業療法専攻 科目一覧

◎必修科目 △選択科目

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人文科学	人間哲学	1	2	◎								必修科目10単位のほか、 選択科目から4単位以上履修
	心理学	1	2	△								
	国際文化論	1	2	△								
	マスメディア論	1	2	△								
自然科学	物理学	1	2	△								
社会科学	法学	1	2	△								
	情報処理	1	2	△								
外国語科目	医療英語I	1	2	◎								
	医療英語II	1	2	△								
保健体育科目	スポーツ体育	1~4	2			△						
総合科学	基礎演習I	1	1	◎								
	基礎演習II	2	1		◎							
	専門演習I	3	1			◎						
	専門演習II	4	1				◎					
	ボランティア活動I	1	1	◎								
	ボランティア活動II	2	1		◎							
小計		1	10	10	10	2	1	1				
人間の構造と機能及び 心身の発達	解剖学I	1	2	◎								必修科目41単位のほか、 選択科目から1単位以上履修
	解剖学II	1	2	◎								
	解剖学実習	1	1	◎								
	生理学I	1	2	◎								
	生理学II	1	2	◎								
	生理学実習	1	1	◎								
	運動学I	1	2	◎								
	運動学II	1	2	◎								
	運動学実習	2	1	◎								
	人間発達学	1	1	◎								
	病理学概論	2	2	◎								
	臨床心理学	1	2	◎								
	一般臨床医学	1	2	◎								
	リハビリテーション医学	1	2	◎								
疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	内科・老年医学I	2	2		◎							
	内科・老年医学II	2	2		◎							
	整形外科I	2	2		◎							
	整形外科II	2	2		◎							
	神経内科学I	2	2		◎							
	神経内科学II	2	2		◎							
精神医学	2	2		◎								
小児科学	2	2		◎								
リハビリテーションの 理念	リハビリテーション入門	1	1	◎								
	保健医療福祉論	1	1	△								
	公衆衛生学	1	1	△								
小計		1	41	23	19	0	0					
基礎作業療法学	作業療法入門	1	1	◎								必修科目66単位のほか、 選択科目から2単位以上履修
	作業療法入門実習	2	1		◎							
	作業療法管理論	4	1					◎				
	ひとと作業	1	1	◎								
	ひとと作業活動I	1	2	◎								
	ひとと作業活動II	2	2		◎							
	作業療法研究法	3	1			◎						
	作業療法セミナーI	3	1			◎						
	作業療法セミナーII	4	1					◎				
	作業療法評価法I	2	2		◎							
作業療法 評価学	作業療法評価法II	2	2			◎						
	作業療法評価法III	3	1				◎					
	作業療法評価法特論I	3	1					△				
作業療法治療学	作業療法評価法特論II	3	1					△				
	身体機能作業療法学I	2	1		◎							
	身体機能作業療法学II	2	2			◎						
	精神機能作業療法学I	2	1		◎							
	精神機能作業療法学II	2	2			◎						
	発達過程作業療法学I	3	2				◎					
	発達過程作業療法学II	3	1					◎				
小計		1	66	9	4	22	22	20				
合計		1	117	11	37	43	23	21			124	

授業科目の名称		配当年次	単位数	1年		2年		3年		4年		備考
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
作業療法治療学	高齢期作業療法学I	3	2					◎				必修科目66単位のほか、 選択科目から2単位を履修
	高齢期作業療法学II	3	1						◎			
	ひとと暮らしI	2	2			◎						
	ひとと暮らしII	2	2				◎					
	義肢装具学	3	1					◎				
	作業療法治療学I	2	1			◎						
	作業療法治療学II	3	1					◎				
	作業療法治療学III	3	1						◎			
	作業療法技術論I	3	1						△			
	作業療法技術論II	3	1							△		
	作業療法技術論III	3	1								△	
	作業療法特論I	3	1								△	
	作業療法特論II	3	1								△	
	作業療法特論III	4	1								△	
作業療法特論IV	4	1								△		
地域作業 療法学	地域作業療法入門I	2	1			◎						
	地域作業療法入門II	2	1				◎					
	地域作業療法実習I	2	1					◎				
	地域作業療法実習II	2	1						◎			
臨床実習	臨床評価実習指導I	3	1						◎			
	臨床評価実習指導II	3	1							◎		
	臨床評価実習I	3	3							◎		
	臨床評価実習II	3	3								◎	
	臨床総合実習指導I	4	1								◎	
	臨床総合実習指導II	4	1								◎	
	臨床総合実習I	4	8								◎	
	臨床総合実習II	4	6								◎	
卒業研究	4	2								◎		
小計		1	66	9	4	22	22	20				
合計		1	117	11	37	43	23	21			124	

卒業要件
基礎教養科目の必修科目10単位、選択科目から4単位以上、専門基礎科目の必修科目41単位、選択科目から1単位以上、専門科目の必修科目66単位、選択科目から2単位を修得し、124単位以上修得すること。
(履修科目の登録の上限：56単位(年間))

1) 基礎科目

科目名	人間哲学	担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	人間哲学				

■授業の目的・到達目標

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。

■授業の概要

孔子は人間にいかによく生きべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)
第6回	家を斉て国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)
第9回	国に道あると無きとに聞えず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■授業時間外学習にかかわる情報

テキストの予習・復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

鈴木利定著「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 咸有一徳(中央法規)

■参考書

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「人文科学」			
キーワード	発達段階、学習、記憶、知覚、感覚、認知、思考、動機づけ、防衛機制、知能、パーソナリティ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

心の成立を支える機能や心に関連する現象などについて幅広く学び、人間を心理学的な観点から捉える基本的知識を得る。

〔到達目標〕

- ①発達という観点から、人を縦断的に捉えられるようになる。
- ②学習のメカニズムを理解し、人の行動と記憶に関する基礎を理解できる。
- ③感覚や知覚の仕組みや特徴を理解できる。
- ④思考と言語の発達や特徴を理解できる。
- ⑤人が自分の心を守る仕組みを理解し、不適応行動などの基礎を理解できる。
- ⑥知能と知能を調べる方法を理解できる。
- ⑦パーソナリティとそれを調べる方法の基礎を理解できる。

■授業の概要

非常に幅広い心理研究の成果を通して、人間心理や行動の基礎となる、発達、学習、記憶、思考、言語、知能、動機、防衛、パーソナリティなどの諸テーマについて学んでいく。後期の臨床心理学の基礎となる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっているので、積極的に学習に臨んでほしい。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション：心理学の歴史
第2回	発達：遺伝、環境、レディネスなど
第3回	エリクソンの発達理論、アイデンティティ論とアイデンティティ・ゲーム
第4回	学習：古典的条件づけ、オペラント条件付け、社会的学習理論
第5回	記憶：記憶のネットワーク理論、記憶の種類
第6回	記憶の障害：健忘など
第7回	感覚・知覚：感覚の種類 視知覚について
第8回	錯視・錯覚・形・奥行き知覚：ゲシュタルト心理学
第9回	聴知覚・触覚・体性感覚について
第10回	思考・言語 ピアジェの認知発達段階論
第11回	非言語的・言語的コミュニケーション
第12回	動機づけと防衛機制
第13回	個人差 知能モデルと知能検査
第14回	パーソナリティ理論とパーソナリティ検査①
第15回	パーソナリティ検査②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・選択科目ではあるが、他の多くの科目に関連する基礎知識を学ぶので、履修することが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・チャトルカードにて出欠を確認する。チャトルカードは授業開始20分以内までは受取可能とする（それ以後の受講は欠席扱いとするので注意）。授業終了後に必ず提出をすること（提出がない場合は欠席扱い）。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は退席を命じる。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教科書を中心にした内容だが、基本的にパワーポイント（スライド）を使用して、重要な部分に説明を加える形で講義を行う。従ってあらかじめ該当の部分をよく予習して授業に臨むことが、理解の上では必要である。また受講に際しては、教科書に紹介されている研究や実験例、錯視図などを、ネット上などで確認をすることが望ましい。

■オフィスアワー

基本的に授業後の休憩時間とする

■評価方法

- ・総合評価は、授業ごとに提出するチャトルカード10%、受講態度等平常点10%、期末に行う試験80%
- ・チャトルカードについては、1行コメント「おもしろかった」「よく理解できた」など、授業内容に触れられないものは減点対象とする。

■教科書

心理学（第4版）（2011） 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編著 東京大学出版会

■参考書

適宜指示をする

科目名	物理学	担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「自然科学」			
キーワード	運動、力、エネルギー、波動、電磁気、原子				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
- ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。
- ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。

■授業の概要

物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、物理を理解するための道具とルール
第2回	力学の基本-物体の運動を数式で表す-
第3回	物体の運動と力の関係-力の表し方と力の種類-
第4回	物体の運動と力の関係-運動方程式-
第5回	圧力のはたらきと物を回転させる力
第6回	エネルギーとその保存法則
第7回	運動量と視点の違いにより感じる力
第8回	気体分子の運動と熱エネルギー
第9回	波の性質とその表し方
第10回	波で理解する音と光の現象
第11回	静電気の力とその表し方
第12回	オームの法則から理解する電気回路
第13回	電流と磁場の関係
第14回	電磁誘導と交流
第15回	原子の構造と放射線

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・コメントカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。
- ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。

〔受講のルール〕

- ・分からないところがあれば、いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。
- ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。

■授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書を読み、分からないところを明確にしておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

時政孝行監修、菓子研著：まるわかり!基礎物理、南山堂、2011

■参考書

授業時に指示する。

科目名	法学	担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	法学概論、憲法、民法、理学療法士及び作業療法士法				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となる。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えている。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えている。

【到達目標】

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につける。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を体験してもらう。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、法学概論1(市民生活と社会規範)
第2回	法学概論2(市民生活の各領域と主な関係法 以下)
第3回	憲法1(総論、基本的人権総論(私人間効力あたりまで))
第4回	憲法2(基本的人権総論(13条、14条)、精神的自由)
第5回	憲法3(経済的自由、社会権)
第6回	憲法4(上記以外の人権、国会、内閣)
第7回	憲法5(裁判所、財政、地方自治)
第8回	民法1(総則)
第9回	民法2(物件)
第10回	民法3(契約総論)
第11回	民法4(契約各論、債権(種類・効力・保全))
第12回	民法5(債権(多数当事者・移転・消滅))
第13回	民法6(親族)
第14回	民法7(相続)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。
- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・社会福祉を志す者として、出席時間を厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁する。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

定期試験(60%)、授業時間に行う小テスト(40%)を総合して評価する。

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館,2011年、有斐閣「ポケット六法」

■参考書

授業中に随時紹介する。

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	Word、Excel、レポート作成				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]
レポート作成等で必要なパソコンの基本操作を身につけることを目的とする

[到達目標]
①パソコンの基本的な操作を理解する
②Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる
③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる

■授業の概要

授業を通し、パソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようになることを目標とする。
他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordやExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多い。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	(概論) 科目オリエンテーションとキーボード・マウスの操作練習
第2回	(概論) ホームページの利用と情報セキュリティ
第3回	(概論) メールアドレスの取得とメール送受信
第4回	(Word) 基本的な文章の入力とファイル操作
第5回	(Word) 各種の書式設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
第6回	(Word) 表を含む文書の作成
第7回	(Word) 図形を含む文書の作成
第8回	(Word) 同じ体裁の文書を効率よく作成する(テンプレート、スタイル)
第9回	(Excel) Excelの基本操作
第10回	(Excel) 各種の書式設定と図形等の利用
第11回	(Excel) グラフの作成(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、複合グラフ)
第12回	(Excel) データベースとしてのExcelの利用(並べ替え、フィルタ、集計)
第13回	(Excel) 数式と関数の利用・基本編
第14回	(Word/Excel共通) Word/Excel間のコピーと貼り付け、その他補足事項
第15回	レポート作成実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]
・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

[受講のルール]
・積極的に授業に臨むこと。
・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

前期: レポート課題による評価(100%)

■教科書

パソコン教科書 Word/Excel/PowerPoint2007: 東京法令出版、2010年

■参考書

なし

科目名	情報処理	担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「社会科学」			
キーワード	PowerPoint、プレゼンテーション				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

各種発表のためのパソコンでの資料作りの方法や、よりよい発表の方法を身につけることを目的とする

[到達目標]

- ① PowerPointの基本的な操作を理解する
- ② PowerPointでプレゼンテーションを作成できる
- ③ 作成したプレゼンテーションを使って発表できる

■授業の概要

PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成することをマスターし、またその資料を使って人前で発表することができるようになることを目標とする。

他の科目での各種発表の際にも、PowerPointを活用できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	(PowerPoint) プレゼンテーションの作成とスライドの編集
第17回	(PowerPoint) 文字書式/段落書式の設定
第18回	(PowerPoint) 表/画像/図形を含むプレゼンテーションの作成
第19回	(PowerPoint) ワードアート/クリップアートの操作、Word/Excelからの貼り付け
第20回	(PowerPoint) 画面切り替えとアニメーションの設定
第21回	(PowerPoint) ノートの作成、プレゼンテーションの発表
第22回	(Word) 箇条書き、段落番号、アウトライン
第23回	(Word) 数式、図表番号、自動校正、検索と置換
第24回	(Excel) 数式と関数の利用・応用編
第25回	プレゼンテーション作成実習
第26回	プレゼンテーション作成実習
第27回	プレゼンテーション発表実習
第28回	プレゼンテーション発表実習
第29回	プレゼンテーション発表実習
第30回	プレゼンテーション発表実習

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。
- ・配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。

[受講のルール]

- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
- ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の練習問題等を利用して復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

後期:レポート課題(70%)、レポート発表(30%)

■教科書

情報利活用プレゼンテーション PowerPoint 2010/2007対応:日経BP社、2011年

■参考書

授業時に指示する。

科目名	医療英語Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	日常会話、身体部位、姿勢や動き				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。
- ② リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。

■授業の概要

医療の現場に必要な日常会話や専門的な用語を中心に学ぶ。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、Getting to Know you 活動、クラスルームイングリッシュ
第2回	自己紹介、個人情報を探る①
第3回	個人情報を探る②
第4回	患者との日常会話①
第5回	患者との日常会話②
第6回	患者との日常会話③
第7回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話①
第8回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話②
第9回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内で使われる会話③
第10回	小テスト
第11回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き①
第12回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き②
第13回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き③
第14回	身体部位、リハビリテーションの姿勢や動き④
第15回	小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

- ・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。
- ・分からない単語があれば、調べておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・客観)、聞き取りを含む。100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ①

■参考書

授業時に指示する。

科目名	医療英語Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「外国語科目」			
キーワード	会話、医学英語、事例・症例				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

リハビリテーションの場面の中に基本的なコミュニケーションができることと簡単な症例を理解できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 患者との基本的な会話ができる。
- ② リハビリテーションの専門用語を理解できる。
- ③ 簡単な症例を理解できる。

■授業の概要

医療の現場に必要な会話や専門的な用語を学び、その勉強を生かして簡単な症例を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/患者との会話に必要な英語①
第2回	患者との会話に必要な英語②
第3回	患者との会話に必要な英語③
第4回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話①
第5回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話②
第6回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話③
第7回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話④
第8回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話⑤
第9回	小テスト
第10回	医学英語、データーの読み取り方①
第11回	医学英語、データーの読み取り方②
第12回	事例や症例を勉強する①
第13回	事例や症例を勉強する②
第14回	事例や症例を勉強する③
第15回	小テスト

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・英和・和英辞書があると授業に役立つ。

〔受講のルール〕

- ・授業をよく聞いて、メモをとる。
- ・ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。
- ・英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

・小テストの時は、指示された範囲を必ず学習すること。 ・症例を理解するため授業時間外学習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(論述・客観) 100%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄 高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1～4年次選択科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「保健体育科目」			
キーワード	スポーツ体育				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につけることにより、福祉施設、病院等で理学・作業療法士として活躍する人材の育成を目指すことができる。

【到達目標】

- ①健康で心豊かな生活を営むための一環として、多くのスポーツ・体育を体験することにより、学生生活の充実を図ることができる。
- ②スポーツ等のプログラム能力の習得や企画・運営、指導技術を身につける。

■授業の概要

スポーツ・体育の楽しさを知り、ニュースポーツやコミュニケーションゲーム等を通じて、スポーツ・レクリエーション支援の技術を習得することができるようになる。そのための指導理論、実技などの学習を通じ、高齢者、障害者スポーツの体験と理解を深めることにより、支援者（指導者）としての実践力を高めることができるようになる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ゲームの計画づくり
第2回	体ほぐし体操：アイスブレイク、ストレッチ運動
第3回	生涯スポーツ①
第4回	生涯スポーツ②
第5回	生涯スポーツ③
第6回	ノーマライゼーションを考えたスポーツ①
第7回	ノーマライゼーションを考えたスポーツ②
第8回	障害者スポーツ体験①
第9回	障害者スポーツ体験②
第10回	障害者スポーツ体験③
第11回	班の企画と運営①
第12回	班の企画と運営②
第13回	班の企画と運営③
第14回	スポーツ概論
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

集中講義として実施するので、体調管理を整えておく。
運動のおこないやすい服装や運動靴を準備する。
実技が中心になるが、いつでもメモができる用意しておく。
前橋キャンパス体育館にて実施

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他(出席重視)
成績配分: レポート50% 実地試験50%

■教科書

特には指定しないが、リハビリスポーツ関係に目を通しておく。

■参考書

「障害者スポーツ指導教本」日本障害者スポーツ協会 「障害者と楽しいスポーツ」日本身体障害者総合福祉センター

科目名	スポーツ体育	担当教員 (単位認定者)	櫻井 秀雄 高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	理学療法・作業療法専攻1～4年次選択科目。 学園スポーツ大会、県民マラソン参加が履修の必須条件。 1年次集中講義に出席していない者は受講できない。	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目における「保健体育科目」			
キーワード	企画運営 トレーニング リスク管理 マラソン				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

PT / OT業務に活用できるよう、スポーツ大会の企画運営と競技におけるトレーニングについて理解・説明・実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①競技における有効なトレーニング方法を知ることができる。
- ②競技参加における効果的な計画を自ら行うことができる。
- ③競技参加におけるリスク管理を行うことができる。
- ④県民マラソンでの完走を目標とする。
- ⑤①～④を応用しPT / OTの業務に活かすことができる。

■授業の概要

1年後期に学んだスポーツプログラムの企画と運営を活かし、学園スポーツ大会に中心的存在として参加する。また、『群馬県民マラソン』へ出場し完走を目指す。それにあたり、事前にトレーニング方法や計画、リスク管理をグループワーク等を通し学び、準備する。これらの経験をPT・OTの業務に活かせるようになることを最終的な目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	科目オリエンテーション
第17回	体育大会参加：1年後期の講習を活かして企画運営に携わる
第18回	体育大会参加：1年後期の講習を活かして企画運営に携わる
第19回	体育大会参加：1年後期の講習を活かして企画運営に携わる
第20回	マラソンに有効なトレーニング計画について調べる
第21回	マラソンに有効なトレーニング計画について発表（個別）：レポート提出
第22回	マラソンに有効なストレッチについてグループで調べる
第23回	マラソンに有効なストレッチについてグループ発表：レポート提出
第24回	トレーニング中間報告
第25回	マラソンによくあるケガについてグループで調べる
第26回	マラソンによくあるケガについてグループ発表：レポート提出
第27回	直前報告会
第28回	県民マラソン大会出場：実力によりハーフ（11月3日）
第29回	県民マラソン大会出場：実力によりハーフ（11月3日）
第30回	完走報告会

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

県民マラソンの参加費は自己負担となる。

〔受講のルール〕

- ・企画運営やグループワークの際は、率先して発言や行動をすること。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート50%、実技50%

■教科書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

■参考書

特に指定はしないが、自ら情報収集をすること。

科目名	基礎演習 I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	授業の受け方、図書館利用、レポート、グループワーク、発表、礼儀挨拶、環境美化				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

学園の基本である礼儀・挨拶、環境美化を学びの基礎であるレポート、グループワーク、発表といった手法を学びながら身につけていく。

〔到達目標〕

- ①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。
- ③レポートを形式に則って作成できる。
- ④グループワークを円滑に実施できる。
- ⑤発表を簡潔にわかりやすく行えるようになる。

■授業の概要

基礎演習 I では、学びの基礎である「授業の受け方」「レポート」「グループワーク」「発表」を身につけ、これらを駆使して学園の基本である「礼儀・挨拶」「環境美化」について理解を深めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	大学での学びとは(4年間を通したキャリアデザイン・授業の受け方)
第3回	図書館の活用法
第4回	グループワーク手法・発表手法
第5回	レポートの書き方(グループワーク)
第6回	レポートの書き方(発表)
第7回	レポートの書き方(講義・レポート)
第8回	キャリアアップ講座(租税教室)
第9回	挨拶・礼儀について(グループワーク)
第10回	挨拶・礼儀について(発表)
第11回	挨拶・礼儀について(講義・レポート)
第12回	環境美化について(グループワーク)
第13回	環境美化について(発表)
第14回	環境美化について(講義・レポート)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

話し合いの準備(資料収集)、発表準備をしておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 ■レポート ■出席

発表20%、レポート60%、出席(グループワーク時、発表時の公欠以外の理由での欠席)20%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

授業時に指示する。

科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	企画・運営能力、コミュニケーション能力、ケア・コミュニケーション検定				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

社会人・医療人としての基本的能力である「コミュニケーション能力」「企画・運営能力」について学び、実践の場で活用できることを目的とする。

【到達目標】

- ① イベントの企画に関わることができる。
- ② イベントの運営に関わることができる。
- ③ コミュニケーションに関する基礎知識を説明することができる。
- ④ 自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。
- ⑤ 医療従事者としての基本的コミュニケーションを実践できる。

■授業の概要

基礎演習Ⅱでは、コミュニケーションと企画・運営に関して、グループワークなどの演習を通して社会人・医療人としての基本的能力を身につけていく。また、授業後半にケア・コミュニケーション検定を受験する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	企画・運営について(グループワーク・発表)
第3回	企画・運営について(講義)、群馬医療フェスタ企画(実践) レポート
第4回	ひととコミュニケーション
第5回	コミュニケーションにおける身体機能の重要性、身体図式と身体像
第6回	感覚・運動情報とコミュニケーション
第7回	コミュニケーションにおける態勢
第8回	コミュニケーションと人間関係
第9回	非言語的・言語的コミュニケーション
第10回	様々な人との出会いとコミュニケーション
第11回	セルフ・カウンセリング
第12回	医療従事者としての関係づくり
第13回	ひとと接するための心得
第14回	ケア・コミュニケーション検定受験
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

ケア・コミュニケーション検定受験料 4500円
グループワークが多くなるため欠席しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■ケア・コミュニケーション検定 50%、■レポート 50%

■教科書

基礎演習テキスト

■参考書

ケア・コミュニケーション～ あなたの心遣いがみんなの支えになります ～. 株式会社ウイネット
http://www.wenet.co.jp/product/html/products/detail.php?product_id=173
 山根寛 他著:ひとと集団・場 第2版. 三輪書店, 2007
 諏訪茂樹著:援助者のためのコミュニケーションと人間関係第2版. 建帛社, 1997
 辛島千恵子著:広汎性発達障害の作業療法 根拠と実践. 三輪書店, 2010

科目名	専門演習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	担任・阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	質問力、問題発見能力、問題解決能力				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

社会人・医療人としての基本となる「問題発見能力」「問題解決能力」、それらの基礎となる「質問力」を養い論理的な思考を基に行動できることを目的とする。

■授業の概要

専門演習Ⅰでは、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題発見能力」「問題解決能力」をグループワークを通して身につけていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	論理的思考とは
第3回	質問力とは、質問カトレーニング①
第4回	質問カトレーニング②
第5回	問題とは
第6回	問題発見の4P
第7回	問題解決能力とは
第8回	ゼロベース思考・仮説思考
第9回	MECE
第10回	ロジックツリー
第11回	課題分析シート
第12回	意思決定ツール
第13回	演習
第14回	演習
第15回	発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

グループワークが多いので休まないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■レポート50%、■発表30%、■出席（演習、発表時の公欠以外の出欠）20%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	専門演習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任・北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	就職活動、自己分析、将来設計				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

これまで基礎演習・専門演習で身につけてきたことを総合し、専門職として誇りを持って就労できることを目的とする。

【到達目標】

- ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。
- ②社会人としてのマナーを身につける。
- ③将来像を描けるようになる。

■授業の概要

専門演習Ⅱでは、目前に迫る就職における基本的な知識を学ぶ。そして、大学4年間を振り返り自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/学長講話および建学の精神について
第2回	就職活動の流れ・卒業生からのアドバイス
第3回	自己分析
第4回	自己分析
第5回	自己分析発表
第6回	就職活動におけるマナー講座メイクアップ(外部講師)
第7回	就職活動におけるマナー講座 身だしなみ・所作
第8回	就職活動を成功させるための情報収集
第9回	将来設計立案
第10回	将来設計発表
第11回	会社の研究方法(会社の見方・選び方)
第12回	自己PR法～履歴書の書き方・面接の受け方・会社訪問法～
第13回	卒業生からのメッセージ(就職編)
第14回	卒業生からのメッセージ(国家試験編)
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業時に指示する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート70%、発表30%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	ボランティア活動I	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

[到達目標]

- ①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。
- ②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。
- ③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。本学・本学部における位置づけと目的について。グループディスカッション。
第2回	グループディスカッションと発表。
第3回	ボランティア参加に向けたオリエンテーション。
第4回	高齢者体験
第5回	車椅子体験
第6回	講話：ボランティア活動の実践
第7回	前期振り返り：依頼ボランティア参加状況 共有・ディスカッション
第8回	行事ボランティア 参加準備
第9回	後期 依頼ボランティア
第10回	あそか会 参加準備
第11回	地域貢献ボランティア：クリスマス会 企画・準備
第12回	地域貢献ボランティア：クリスマス会 企画・準備・実施
第13回	地域貢献ボランティア：クリスマス会 企画・準備・実施
第14回	1年間のボランティア活動を振り返っての発表
第15回	1年間のボランティア活動を振り返っての発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に係る情報]

A4クリアファイルを用意

[受講のルール]

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ70%、ボランティア参加状況・講義参加態度・授業内発表30%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

科目名	ボランティア活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	担任	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		基礎科目「総合科学」			
キーワード	汎用的技能、態度・志向性、ボランティア、コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療従事者としての基本的態度を身につけ実践する。自ら企画してボランティアへ参加し、様々な体験を通して自分自身を振り返る。

〔到達目標〕

- ①ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。
- ②2年間のボランティア活動を通して、自分自身の課題を認識し、その具体的な取り組み方法を検討することができる。
- ③各自が興味ある領域でボランティア活動へ参加し、その理解を深めることができる。

■授業の概要

医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。2年次でのボランティア活動計画について。グループディスカッション。
第2回	2年次、ボランティア参加計画
第3回	群リハフェスタの企画準備
第4回	群リハフェスタの企画準備
第5回	群リハフェスタの企画準備・実施
第6回	群リハフェスタの企画準備・実施・反省
第7回	前期振り返り： ボランティア参加状況の発表 共有・ディスカッション
第8回	行事ボランティア（障害者スポーツ大会など） 参加準備
第9回	後期 ボランティア活動計画
第10回	講話：ボランティア活動
第11回	ボランティア活動報告 まとめ・準備準備
第12回	ボランティア活動報告 まとめ・準備準備
第13回	2年間のボランティア活動を振り返っての発表
第14回	2年間のボランティア活動を振り返っての発表
第15回	2年間のボランティア活動を振り返っての発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に係る情報〕

A4クリアファイルを用意

〔受講のルール〕

この科目は、ボランティア活動を通して自分自身がどの様に成長したか自分でまとめていく作業があります。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

ポートフォリオ70%、ボランティア参加状況・講義参加態度・授業内発表30%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006

2) 專門基礎科目

科目名	解剖学I	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「解剖学」			
キーワード	骨格系の構造と分類、関節の構造と分類				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。
- ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。
- ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。
- ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。
- ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。
- ⑥骨の連結の種類と構造を説明することができる。
- ⑦脊柱と胸郭の連結を説明することができる。
- ⑧四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語、全身骨格
第2回	骨格系-1 上肢の骨について
第3回	骨格系-2 骨盤の構成について
第4回	骨格系-3 下肢の骨について
第5回	骨格系-4 椎骨の基本型と脊柱の構造について
第6回	骨格系-5 胸郭の構造について
第7回	骨格系-6 頭部の各骨について
第8回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結について
第9回	筋系-2 体幹の筋について
第10回	筋系-3 脊柱と胸郭の連結について
第11回	筋系-4 上肢の筋について
第12回	筋系-5 上肢の骨格の連結と運動について
第13回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結と運動について
第14回	筋系-7 下肢の筋について
第15回	筋系-8 下肢の連結と運動について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。
- ・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話やスマートフォンの使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著）医学教育出版社

■参考書

- ・カラー人体解剖学-構造と機能：ミクロからマクロまで F.H. マティーニ（著）西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著）南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著）医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen（著）南江堂

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の 知識と双方向性の理解が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に 係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「解剖学」			
キーワード	筋系の構造と分類、関節の構造と分類、神経系の構造と分類				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経のうち、体性神経(脳神経、脊髄神経)の構成と分布先が説明することができる。
- ③末梢神経のうち、自律神経(交感神経、副交感神経)の構成と分布先が説明することができる。
- ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、神経系および筋系との関わりについて
第2回	脳と脊髄-1 中枢神経系の全体的な構造について
第3回	脳と脊髄-2 大脳と間脳の構造について
第4回	脳と脊髄-3 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について
第5回	脳と脊髄-4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について
第6回	脊髄神経-1 脊髄神経の構成とその枝について
第7回	脊髄神経-2 頸神経叢の構成とその枝、支配筋について
第8回	脊髄神経-3 腕神経叢の構成とその枝、支配筋について
第9回	脊髄神経-4 腕神経叢の構成とその枝、支配筋について
第10回	脊髄神経-5 肋間神経の構成とその枝、支配筋について
第11回	脊髄神経-6 腰神経叢の構成とその枝、支配筋について
第12回	脊髄神経-7 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋について
第13回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋について
第14回	脳神経 脳神経の経路と機能・線維構成、支配筋について
第15回	自律神経 交感神経と副交感神経、支配臓器について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・授業資料を配付しますので、解剖トレーニングノートの該当箇所に貼り付けること。
- ・予習復習に十分な時間を割くこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。
- ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話やスマートフォンの使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には出席状況および課題提出状況が良好であることが前提となる。

■教科書

- ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院
- ・解剖トレーニングノート 竹内 修二(著)医学教育出版社

■参考書

- ・カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで F.H. マティーニ(著)西村書店
- ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter(著)南江堂
- ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄(著)医学書院
- ・ネッター解剖生理学アトラス John T.Hansen(著)南江堂

科目名	解剖学実習	担当教員 (単位認定者)	多田 真和 栗原 卓也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「解剖学実習」			
キーワード	脳神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、平衡聴覚器				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

解剖学は、生理学、生化学および運動学等の基礎専門科目、整形外科や神経内科学等の専門科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目等のすべての科目の基礎的知識であり必須のものである。

[到達目標]

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できるようになる。
- ②器官系別に理解した知識を有機的にまとめ上げ、自分のものとするができるようになる。
- ③人体の構造を、自らの手で描けるようになる。また説明することができるようになる。

■授業の概要

「解剖学」では「骨格系」、「筋系」および「神経系」を中心に授業が進められる。「解剖学実習」では、人体の他の構成単位である「呼吸器系」、「循環器系」、「消化器系」、「泌尿器系」、「内分泌系」および「平衡聴覚器」について学んでゆく。授業では、パワーポイントやビデオ画像を多用し、視覚的に理解しやすいように配慮していく。また、学年末には、実際の人体の解剖標本を目の当たりにすることで、授業で学んだ知識を立体的かつ有機的に理解を深められるようにしている。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/呼吸器系(1)
第2回	循環器系(1)
第3回	脳神経1: 中枢神経の機能、大脳半球基底核の位置関係
第4回	脳神経2: 中枢神経の血管系、脳脊髄液の循環
第5回	脳神経3: 脳神経、末梢神経、自律神経について
第6回	脳神経4: 画像診断(CT、MRI)への応用解剖
第7回	循環器系(2)
第8回	循環器系(3)
第9回	消化器系(1)
第10回	消化器系(2)
第11回	消化器系(3)
第12回	泌尿器系
第13回	内分泌系(1)
第14回	内分泌系(2)
第15回	平衡聴覚器

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

授業に臨むにあたり、該当分野の予習を必ず行うこと。

[受講のルール]

将来の医療従事者として、相手から信頼感が得られるような態度および姿勢で授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書の該当分野は前もって熟読し、自分が理解しにくい部分を明確にして授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】医学書院

■参考書

授業中に適宜ご紹介してゆく。

科目名	生理学I	担当教員 (単位認定者)	牧 陽子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「生理学」			
キーワード	生理学I				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経・運動・感覚の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 神経・運動・感覚の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります

第1回	科目オリエンテーション
第2回	第2章 血液 A-G : 血液成分・血液細胞の生成と分化、血液凝固と線溶現象について学ぶ。
第3回	第2章 血液・免疫 (H) : 免疫機能について学ぶ。
第4回	第3章 循環 A-C : 循環の調節を学ぶ。
第5回	第3章 循環 D-H : 心臓の拍動の自動性と心拍出量、心臓の刺激伝導系に関して学ぶ。
第6回	第4章 呼吸 : 呼吸運動・ガス交換とガスの運搬・呼吸中枢に関して学ぶ。
第7回	第5章 消化と吸収 A-F : 口腔内消化・嚥下運動と嚥下反射中枢・胃内消化・腸内消化吸収を学ぶ。
第8回	第6章 腎臓と排泄 : 尿の生成に関わる器官の機能、排尿中枢を含む排尿機構を学ぶ。
第9回	第8章 内分泌 A-B : ホルモン基礎(ビタミンの差異)、視床下部-脳下垂体系に関して学ぶ。
第10回	第8章 内分泌 C-E : 甲状腺・副甲状腺・膵臓に関して学ぶ。
第11回	第8章 内分泌 F-J : 副腎・性腺・松果体に関して学ぶ。
第12回	第9章 生殖 : 性染色体と減数分裂の基本、受精と妊娠に関して学ぶ。
第13回	第15章 代謝と体温 : 糖・蛋白・脂肪代謝、及び代謝率(基礎・エネルギー代謝率)を学ぶ。
第14回	第16章 運動生理 : 運動における生体の生理的变化を学ぶ。
第15回	予備日 : 前期のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・出席時間厳守
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

わからない部分は授業内に解決するよう努力すること。

質問は授業時間内に随時受け付ける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

関連資料を授業内で配布

科目名	生理学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牧 陽子	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「生理学」			
キーワード	生理学Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経・運動・感覚の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 神経・運動・感覚の基礎を解剖図・概念図を用いて簡潔に説明出来るようになる。
- ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。
- ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります

第1回	科目オリエンテーション
第2回	第1章 細胞と内部環境 : 分子生物学の基礎を学ぶ。
第3回	第11章 神経系 : 神経・筋接合部の伝達様式、及び受容器・感覚神経伝達様式の相同・差異を学ぶ。
第4回	第12章 抹消神経系 : 脊髄神経・自律神経(交感・副交感神経系)の解剖と機能を学ぶ
第5回	第13章 中枢神経系 A-D : 脊髄・延髄・橋・中脳・脳幹網様体の構造・機能を学ぶ。
第6回	第13章 中枢神経系 J : 大脳の解剖及び機能局在を学ぶ。
第7回	第13章 中枢神経系 F, G : 小脳・大脳基底核の運動調節機能/高次機能・認知機能との関連を学ぶ。
第8回	第13章 中枢神経系 J : 大脳の解剖及び機能局在を学ぶ。
第9回	第13章 中枢神経系 K : 高次機能の記憶・言語に関して学ぶ。
第10回	第13章 中枢神経系 L-N : 大脳半球優位性、睡眠に関して学ぶ。
第11回	第14章 感覚 A-C : 感覚の基本的性質を抑え、体性感覚・内臓感覚を学ぶ。
第12回	第14章 感覚 D : 視覚に関する解剖と中枢における視覚処理・知覚を学ぶ。
第13回	第14章 感覚 E-H : 聴覚に関する解剖と、中枢における聴覚・平衡感覚処理を学ぶ。
第14回	第10章 筋の収縮 : 筋の種類及び、神経筋運動単位、随意運動・筋緊張の機序を学ぶ。
第15回	全体のまとめ 予備日とし、理解の不十分な部分の質問を受け付ける。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習は必ず行うこと。

〔受講のルール〕

・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・出席時間厳守

・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

わからない部分は授業内に解決するよう努力すること。

質問は授業時間内に随時受け付ける。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100% (詳細な評価基準は授業シラバス参照)

総合評価は筆記試験が60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業時に指示する。

科目名	生理学実習	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る実習		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	心電図、血圧計、呼吸機能、尿検査、体温				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。

【到達目標】

- 1、人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。(知識)
- 2、実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。(技能)
- 3、お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。(態度)

■授業の概要

実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行う。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習する。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/血圧測定の意義と方法について学ぶ。
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。(実習報告書提出)
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第8回	消化と吸収について学ぶ。消化管の運動(嚥下、蠕動運動、排便)について学ぶ。
第9回	エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。
第10回	体組成測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第11回	エネルギー消費について学ぶ。骨、筋肉、関節のネットワークについての基礎を学ぶ
第12回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第13回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。(実習報告書提出)
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。(実習報告書提出)
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。(実習報告書提出)

■受講生に関わる情報および受講のルール

実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書(レポート)を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

授業提出レポート30% レポート試験70%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 生理学 第3版

■参考書

その都度指示する。

科目名	運動学I	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「運動学」			
キーワード	運動学、上肢、骨・関節の構造と運動、筋作用				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生活場面での身体運動や動作を構造-機能的見方で理解・説明することができることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①関節の構造・運動方向を説明することができる。
- ②各関節の形状分類や特性を言うことができる。
- ③上肢帯の各関節名と機能、筋の働きを説明することができる。

■授業の概要

作業療法士は、対象者の生活をリハビリする仕事といわれている。生活とは、様々な姿勢で行う動作や活動の繰り返しで成り立っている。この授業では、ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体の構造・機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。それをもとに、上肢の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎に学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、運動学の定義・目的、身体各部・関節の名称、基本肢位
第2回	骨・関節の構造と機能について
第3回	上肢の関節運動について
第4回	下肢・体幹の関節運動について
第5回	筋の構造と機能について
第6回	運動力学の基礎：運動とエネルギー代謝
第7回	上肢の機能と役割
第8回	肘関節と前腕の構造と運動
第9回	肘関節と前腕の筋作用
第10回	手関節と手指の構造と運動
第11回	手関節と手指の筋作用
第12回	上肢帯の構造と運動
第13回	肩甲骨と肩関節
第14回	肩関節の筋作用
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・行うことが多数あるため、予習復習は必ず行うこと。
- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書は必ず確認し、理解をして授業に臨む事。わからない部分を授業にて解決するよう努力する事。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

■評価方法

- 筆記試験100% 総合評価は筆記試験にて60%を超えていることが前提となる。

■教科書

- ①伊藤元, 高橋正明編: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012
- ②野村巖編: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第3版, 医学書院, 2012

■参考書

中村隆一・齋藤宏: 基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社

科目名	運動学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「運動学」			
キーワード	運動学、下肢、体幹、骨・関節の構造と運動、筋作用、歩行				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

生活場面での身体運動や動作を構造-機能的見方で理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①下肢・体幹の構造、運動、筋の働きと呼吸筋の働きを説明することができる。
- ②姿勢の種類と安定に関係する要因を列挙し、説明することができる。
- ③歩行周期と歩行分析を運動学用語で説明することができる。また、運動処方について説明することができる。

■授業の概要

この授業では「運動学Ⅰ」で学んだ、身体の構造と機能、身体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識をもとに、下肢・体幹の機能解剖と運動を学ぶ事を目的とする。また、姿勢や歩行の基礎知識を学び、姿勢・動作の分析ポイントを学ぶ事を目的とする。授業の内容は、「解剖学」「生理学」及び「運動学Ⅰ」で学んだ事を基礎に学ぶ。更にこの授業で学んだ事は、「ひとと作業活動」での作業分析の基礎となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、姿勢の種類について
第2回	姿勢の安定性について
第3回	体幹(脊柱)の構造と頸部・胸部・腰部の運動及び筋活動
第4回	下肢の構造と役割、骨盤の運動と筋活動
第5回	股関節の構造と運動
第6回	股関節の筋作用
第7回	膝関節の構造と運動
第8回	膝関節の筋作用
第9回	足関節・足部の構造と運動
第10回	足関節・足部の筋作用
第11回	呼吸運動、顔面・頭部の運動
第12回	歩行周期・運動学分析
第13回	歩行周期・運動学分析
第14回	運動の中樞神経機構、運動制御と運動学習
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・行うことが多数あるため、予習復習は必ず行うこと。
- ・積極的に授業に臨むこと。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書は必ず確認し、理解をして授業に臨む事。わからない部分を授業にて解決するよう努力する事。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約

■評価方法

- 筆記試験100% 総合評価は筆記試験にて60%を超えていることが前提となる。

■教科書

- ①伊藤元,高橋正明編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学.医学書院,2012
- ②野村巖編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学.第3版,医学書院,2012

■参考書

中村隆一・齋藤宏:基礎運動学.第6版,医歯薬出版株式会社

科目名	運動学実習	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学I/II、一般臨床医学、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	姿勢・姿勢分析・筋の作用・歩行観察				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

姿勢や動作を、作業療法士としての視点から観察・分析する基礎を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①各肢位・姿勢を専門用語で表現することができる。
- ②各肢位の安定性や動作性を比較することができる。
- ③動作における主動筋・拮抗筋・共同筋・固定筋の活動を筋電図で理解することができる。
- ④歩行周期を理解し、歩行の特徴を専門用語で表現することができる。
- ⑤歩行観察から筋活動・床反力を理解し、説明することができる。

■授業の概要

人が生活をしていく上で欠かせない姿勢を、作業療法士としての視点から観察し、分析する基礎知識を身につける。また、姿勢から上肢の操作性や各動作における安定性・筋活動を分析する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/重心と支持基底面・重心と重心線、支持基底面を復習し理解を深める。構えと体位について復習し、構えを専門用語で表現する。
第2回	身体指標と重心線:身体指標を確認し、理想的な重心線を理解する。また、姿勢特徴をとらえ専門用語で表現する。
第3回	姿勢観察(臥位) ①:背臥位・側臥位・腹臥位の身体指標を確認し姿勢観察を行う。
第4回	姿勢観察(臥位) ②:背臥位・側臥位・腹臥位の特徴を理解し重心や支持基底面の変化を比較する。
第5回	姿勢観察(座位) ①:座位での身体指標を確認し姿勢観察を行う。
第6回	姿勢観察(座位) ②:座位での骨盤に対する体幹の動きを確認し重心や支持基底面の変化を比較する。
第7回	姿勢観察(立位):立位での身体指標を確認し姿勢観察を行う。
第8回	姿勢観察のまとめ
第9回	筋の収縮様式①:筋の収縮様式を復習し立ち上がり運動で体験する。
第10回	筋の収縮様式②:様々な動作における筋の収縮様式を推測する。
第11回	肢位と最大筋力:肢位の変化による筋力の違いを体験し、筋力と筋長の関係について理解する。また、機能的肢位の意義を理解する。
第12回	筋の作用①:動作における筋の作用(動筋、拮抗筋、共同筋、固定筋)について理解し、筋電図を用いて確認する。
第13回	筋の作用②:動作における筋の作用(動筋、拮抗筋、共同筋、固定筋)について理解し、筋電図を用いて確認する。
第14回	歩行観察①:正常歩行の観察を行い、歩行周期や各関節角度を確認する。歩行の特徴を専門用語で表現する。
第15回	歩行観察②:歩行時に活動している筋活動を推測し、その機能を理解する。また歩行周期における床反力を理解できる。

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・実際に体を動かすことが多いため、学校のジャージを用意しておくこと。

・メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

〔受講のルール〕

・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。

・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。

・そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。

・授業の流れや雰囲気や迷惑行為、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:筆記試験100%

■教科書

伊東元,高橋正明編:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学.医学書院,2012

■参考書

中村隆一・齋藤宏:基礎運動学.第6版,医歯薬出版株式会社

中村隆一 編著:臨床運動学.第3版,医歯薬出版株式会社

科目名	人間発達学	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
	カリキュラム上の位置づけ	専門基礎科目「人体の構造と機能及び心身の発達」			
キーワード	人間発達学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能および社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の年齢や状況に応じた対応が出来るようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。
- ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することが出来る。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することが出来る。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することが出来る。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を正しく入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟していく。発達を理解することはリハビリテーション専門職を目指すものとして重要であり、対象者のおかれている状況や目標を適切に把握するために応用されなければならない。本講義では発達過程および発達課題について神経系の発達を軸に学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、ヒトの成長と発達、発達を支える脳神経と感覚器について
第2回	胎児期から誕生、原始反射について
第3回	乳幼児期の運動発達
第4回	乳幼児期の認知、社会性の発達
第5回	学童期の発達
第6回	青年期～成人期の発達
第7回	高齢期の発達
第8回	育ちを支える社会機構

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・毎回、講義開始時に小テスト（確認テスト）を実施する。小テストは評価の対象となるため欠席しないこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーすること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを実施する。前回講義を受けた内容を復習しておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）70%、小テスト30%
総合評価は筆記試験60%を超えていることが前提となる。

■教科書

福田恵美子：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 2版. 中外医学社, 2009

■参考書

中村隆一 他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版, 2003

科目名	病理学概論	担当教員 (単位認定者)	前島 俊孝	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係わる必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	病因、病態				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。
- ・基本的な疾患の病態について説明できる。

■授業の概要

細胞障害、循環障害、先天異常、炎症・免疫・感染症、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション
第2回	病理学と解剖学
第3回	病因
第4回	細胞障害
第5回	循環障害
第6回	循環障害
第7回	先天異常
第8回	炎症
第9回	免疫異常・アレルギー
第10回	感染症
第11回	腫瘍
第12回	腫瘍
第13回	腫瘍
第14回	代謝異常
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・春休みに解剖学全般の復習をして、病理学概論の講義に望んで欲しい。
- ・机の隣同士2人で相談し、病理学と解剖学の教科書を1冊ずつ用意すること。
- ・授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りと相談するなどして何らかの答えを導き出すように。
- ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

特に予習の必要はないが、授業で扱った内容について、必ずその週のうちに教科書を読み復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)80%、レポート20%

■教科書

新クイックマスター 病理学(堤 寛 監修、医学芸術社)

■参考書

解剖学の教科書(病理学概論の講義でも使用する)

科目名	臨床心理学	担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち」			
キーワード	アセスメント、精神障害、クライアント中心療法、精神分析、行動・認知行動療法、集団精神療法など				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

支援を必要とする人にかかわる職業を目指す者として、人が生きていく上で出会う心理的問題への見方、対処法を、臨床心理学各派の知見から学んでいく。

〔到達目標〕

- ① 様々なパーソナリティ理論を通して、人を多様な視点から理解する基礎知識を得る。
- ② 代表的な心理検査について背景にある考え方を含めて説明できる。
- ③ 臨床心理学各派の理論・技法の特徴について、具体的に説明できる。
- ④ 学んだ理論をもとにして、臨床事例を多角的に見る視点を獲得する。
- ⑤ リハビリ現場で出会う可能性がある患者の心理についてイメージを広げて理解することができる。

■授業の概要

様々な考え方に基づく臨床心理学各派の歴史、理論、技法の解説を中心に学習する。国家試験問題に対処できる基礎知識を習得するとともに、臨床心理学を通して、患者の心理面の理解やコミュニケーションの重要性について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション：臨床心理学とは何か
第2回	心の問題を理解する アセスメントの目的と方法 面接法・観察法
第3回	検査法① 質問紙法と投影法
第4回	検査法② 作業検査法、知能検査
第5回	問題を理解する 異常心理学とは何か DSMと臨床心理各理論モデル 精神障害の診断分類
第6回	問題に介入する 統合的視点 ロジャーズとクライアント中心療法
第7回	フロイト理論と精神分析 フロイト以後（ウニコット等）
第8回	ユング理論と分析心理学
第9回	行動療法
第10回	認知行動療法
第11回	家族療法・コミュニティ心理学
第12回	ナラティブ・セラピー
第13回	森田療法、内観療法
第14回	遊戯療法、箱庭療法
第15回	自律訓練法、SST 他

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・授業理解のために前期の心理学を履修していることが望ましい。

〔受講のルール〕

- ・シヤトルカードにて出欠を確認する。シヤトルカードは授業開始20分以内までは受取可能とする（それ以後の受講は欠席扱いとするので注意）。授業終了後に必ず提出をすること（提出がない場合は欠席扱い）。
- ・演習も取り入れた授業を行う。無気力な態度やいい加減な取組は、事例を扱う授業として許容できない。実際に心に問題を抱えた人と向き合う気持ちで臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

・教科書を中心にした内容だが、演習もできるだけ取り入れるので、積極的な受講態度で臨むこと。

■オフィスアワー

基本的に授業前後の休憩時間とする

■評価方法

- ・総合評価は、授業ごとに提出するシヤトルカード10%、受講態度等平常点10%、期末に行う試験80%
- ・シヤトルカードについては、1行コメント「おもしろかった」「よく理解できた」など、授業内容に触れられないものは減点対象とする。

■教科書

よくわかる臨床心理学（改訂新版）（2009） 下山晴彦編著 ミネルヴァ書房

■参考書

やさしく学べる心理療法の基礎（2011） 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編著 東京大学出版会 他適宜指示をする

科目名	一般臨床医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	生活習慣病、がん、感染症、生殖、移植				

■授業の目的・到達目標

到達目標:

その病気がなぜ起こり、体の中ではどのような異常が起こっているのか、そしてそれを解決するためには、どのような方法をとればよいのかが、簡潔にかつ的確に述べられることを目標とする。

期待される学習効果:

過去に出題された、臨床医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達する。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する、病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	医学とは?医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)、生命の基本構造(細胞、組織、血液)
第2回	生命維持のしくみ1:循環器(心臓、血管)
第3回	生活習慣病1:動脈硬化のメカニズム(高血圧症、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)
第4回	生活習慣病2:動脈硬化の末路(脳血管障害)
第5回	生活習慣病3:動脈硬化の末路(狭心症、心筋梗塞)
第6回	生活習慣病4:生活習慣病のまとめ、小テスト①
第7回	生命維持のしくみ2:呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)
第8回	呼吸器の障害:炎症、閉塞性肺疾患、たばこの問題
第9回	細胞の暴走=がん:がんとは?がんの問題点、がんの治療法
第10回	生命維持のしくみ3:消化器(消化管、腹腔内臓器)
第11回	消化器の障害:消化管の疾患、肝炎、
第12回	生命維持のしくみ4:生体防御、免疫、
第13回	感染症:微生物学の基礎知識、日和見感染症、MRSA、結核、性行為感染症、AIDS
第14回	次世代につなぐ命1:生殖(妊娠、出産、不妊症)、小テスト②
第15回	次世代につなぐ命2:臓器移植、幹細胞移植、ES細胞、iPS細胞

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

テキストはなく、授業時に配布する資料がテキストとなる。このため、KeyWord集に基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。この作業ができない者は、将来、患者さんからの情報を収集できないであろう。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を記載してゆくこと。復習が重要となる。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の大前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者は、不合格となる。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業中に適宜推薦、指定する。

科目名	リハビリテーション医学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修 社会福祉主事任用資格指定科目		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	廃用症候群、運動器リハ、脳神経リハ、心臓リハ、呼吸器リハ				

■授業の目的・到達目標

第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられることを目的とする。

到達目標は、過去に出題された、リハビリテーション医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達することである。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的などころから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、総論1:リハビリテーション医学の歴史、理念、位置付け、急性期、回復期、維持期、ADL評価
第2回	総論2:リハビリテーション医療経済(健康保険制度、介護保険制度、身体障害者手帳)
第3回	総論3:廃用症候群(概念、病態、防止方法)
第4回	運動器リハビリテーション1:骨折の病態、治癒機序、後療法(リハビリテーション)
第5回	運動器リハビリテーション2:関節疾患(変形性関節症、関節リウマチ)の病態と治療
第6回	運動器リハビリテーション3:痛みに対するリハビリテーション(腰痛、頸肩腕痛、CRPS)
第7回	運動器リハビリテーション4:外傷、スポーツ障害、手術後のリハビリテーションの注意点と実際。
第8回	脳神経リハビリテーション1:脳血管障害の病態、小テスト①
第9回	脳神経リハビリテーション2:脳血管障害の急性期治療
第10回	脳神経リハビリテーション3:脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション
第11回	脳神経リハビリテーション4:頭部外傷の病態とリハビリテーション
第12回	脳神経リハビリテーション5:高次脳機能障害の病態とリハビリテーション、摂食嚥下障害の病態とリハビリテーション
第13回	脳神経リハビリテーション6:神経変性疾患の病態とそのリハビリテーション(パーキンソン病を中心に)、小テスト②
第14回	内科領域のリハビリテーション1(呼吸器リハビリテーション、心臓リハビリテーション)
第15回	内科領域のリハビリテーション2(生活習慣病に対するリハビリテーション)、精神科領域のリハビリテーション(うつ病)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

第1回の授業で配布するKeywordに従って、教科書で重要点を予習しておくこと。A4のノートの左側にKeywordを短冊状に切って貼り付け、右側のページに指定内容を記載しておく。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

評価配分は、期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	内科・老年医学 I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	内科診断学、症候学、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患				

■授業の目的・到達目標

目的は、目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、内科学領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学について、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、内科学の概念、リハビリテーションとの関わり、症候学I
第2回	症候学II
第3回	症候学III
第4回	循環器疾患 I
第5回	循環器疾患 II
第6回	循環器疾患 III
第7回	循環器疾患 IV、小テスト①
第8回	呼吸器疾患 I
第9回	呼吸器疾患 II
第10回	呼吸器疾患 III
第11回	呼吸器疾患 IV、小テスト②
第12回	消化管疾患 I
第13回	消化管疾患 II
第14回	肝胆膵疾患 I
第15回	肝胆膵疾患 II、小テスト③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅の問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、総合評価の前提条件である。その上で、学期中に3回行なう小テストの点数を20% X3=60%、期末テストを40%に換算した点数をもって、総合評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第2版 大成 浄志 執筆 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	内科・老年医学 II	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	血液疾患、内分泌代謝疾患、腎泌尿器疾患、膠原病、アレルギー疾患、感染症、皮膚科学、老年病				

■授業の目的・到達目標

目的は、目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、内科学領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

臨床医学の根幹をなす内科学を、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。後半では、加齢に伴う生体の変化、高齢者特有の疾患の病態生理を重要点に絞り学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	血液、造血管疾患
第2回	代謝性疾患 I
第3回	代謝性疾患 II
第4回	内分泌疾患 I
第5回	内分泌疾患 II
第6回	腎、泌尿器疾患 I
第7回	腎、泌尿器疾患 II、小テスト①
第8回	膠原病、アレルギー疾患、免疫不全 I
第9回	膠原病、アレルギー疾患、免疫不全 II
第10回	感染症疾患 I
第11回	感染症疾患 II
第12回	中毒および環境要因による疾患
第13回	皮膚疾患、小テスト②
第14回	加齢と老化、高齢者疾患 I
第15回	高齢者疾患 II、高齢者をとりまく環境

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、総合評価前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20%×2=40%、期末テストを40%に換算した点数をもって、総合評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 内科学 第2版 大成 浄志 執筆 医学書院
標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 老年学 第3版 大内 尉義 編集 医学書院

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	整形外科学I	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	骨疾患、骨折、関節疾患、変形性関節症、関節リウマチ、脊椎疾患、脊髄損傷				

■授業の目的・到達目標

目的は、筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常(痛みや機能障害)を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。到達目標は、整形外科領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、骨疾患Ⅰ：骨の発生、成長、構造、骨粗鬆症
第2回	骨疾患Ⅱ：骨折総論(分類、症状、診断、治療過程、治療)
第3回	骨疾患Ⅲ：骨折各論1(体幹、上肢の骨折の病態、治療、合併症)
第4回	骨疾患Ⅳ：骨折各論2(下肢の骨折の病態、治療、合併症)
第5回	骨疾患、骨折の総復習、小テスト①
第6回	関節疾患Ⅰ：関節の構造、関節の先天性疾患
第7回	関節疾患Ⅱ：変形性関節症
第8回	関節疾患Ⅲ：関節リウマチ、痛風、関節炎
第9回	関節疾患Ⅳ：関節の外傷性疾患(捻挫、脱臼、関節内損傷)
第10回	関節疾患の総復習、小テスト②
第11回	脊椎脊髄疾患Ⅰ：頸椎疾患
第12回	脊椎脊髄疾患Ⅱ：腰椎疾患
第13回	脊椎脊髄疾患Ⅲ：脊髄損傷1
第14回	脊椎脊髄疾患Ⅳ：脊髄損傷2
第15回	脊椎脊髄疾患の総復習、小テスト③

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、総合評価前提条件である。その上で、学期中に3回行なう小テストの点数を20%×3=60%、期末テストを40%に換算した点数をもって、総合評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第11版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	整形外科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	末梢神経疾患、神経、筋疾患、骨軟部腫瘍、四肢切断、義肢装具、スポーツ外傷、熱傷				

■授業の目的・到達目標

目的は、筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常(痛みや機能障害)を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。到達目標は、整形外科領域の国家試験問題を、自信をもってその正答と理由を述べられるようになることである。

■授業の概要

運動器(筋、骨格、神経系)の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	末梢神経損傷 I
第2回	末梢神経損傷 II
第3回	神経、筋疾患(解剖、生理、脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィー)
第4回	骨軟部腫瘍(転移性骨腫瘍、骨肉腫)
第5回	四肢の循環障害と壊死性疾患
第6回	切断および離断 I(四肢切断の原因、部位、手術の留意点)、小テスト1
第7回	切断および離断 II(義肢、装具の実際、留意点)
第8回	スポーツ外傷 I(総論)
第9回	スポーツ外傷 II(各論)
第10回	熱傷(診断、治療、後療法)
第11回	上肢疾患の総復習(肩、肘関節)、問題演習、小テスト2
第12回	手の外科、問題演習
第13回	下肢疾患の総復習(股、膝、足関節)、問題演習
第14回	脊椎脊髄疾患の総復習、問題演習
第15回	徒手検査の実習(横文字キーワードの確認)

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験で、60%以上の得点を得る事が、総合評価前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を20%×2=40%、期末テストを60%に換算した点数をもって、総評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準整形外科学 第11版 中村利孝 他編 医学書院
1年次で使用した、リハビリテーション医学(医歯薬出版)も適宜使用する

■参考書

授業中に適宜紹介する

科目名	神経内科学I	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	神経学的診断と評価				

■授業の目的・到達目標

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	障害とリハビリテーションプログラム
第2回	中枢神経系の解剖
第3回	中枢神経系の機能
第4回	神経学的診断と評価I
第5回	神経学的診断と評価II、神経学的検査法I
第6回	神経学的検査法II
第7回	意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神
第8回	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮
第9回	錐体外路徴候、不随意運動、運動失調
第10回	感覚障害、失語症I
第11回	失語症II
第12回	失認
第13回	失行
第14回	記憶障害、認知症
第15回	注意障害、遂行機能障害

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されているので、教科書を忘れないようにすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は、進歩する。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第3版 編集 川平和美 医学書院

■参考書

なし

科目名	神経内科学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	神宮 俊哉	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾患と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	脳血管障害、脊髄疾患				

■授業の目的・到達目標

将来、臨床現場で患者さんを診るときに役立つ知識を身につけるとともに、国家試験に合格するに足る知識を習得すること。

■授業の概要

習得すべき内容を教科書を中心に進める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	構音障害、嚥下障害
第2回	脳神経外科領域の疾患、脳血管障害Ⅰ
第3回	脳血管障害Ⅱ
第4回	脳血管障害Ⅲ
第5回	脳血管障害Ⅳ
第6回	脳血管障害Ⅴ
第7回	認知症
第8回	脳腫瘍、外傷性脳損傷
第9回	脊髄疾患Ⅰ
第10回	脊髄疾患Ⅱ、変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患Ⅰ
第11回	錐体外路の変性疾患Ⅱ、末梢神経障害
第12回	筋疾患
第13回	感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患
第14回	小児疾患
第15回	神経疾患に多い合併症

■受講生に関わる情報および受講のルール

教科書で十分な内容が網羅されているので、教科書を忘れないようにすること。

■授業時間外学習にかかわる情報

医学は、進歩する。新聞などのメディアから最新の情報を手に入れること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

期末試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学第3版 編集 川平和美 医学書院

■参考書

なし

科目名	精神医学	担当教員 (単位認定者)	武田 滋利	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」			
キーワード	精神障害 ライフサイクル メンタルヘルス 自殺 脆弱性-ストレスモデル ICD-10 DSM-IV-TR インフォームド・コンセント 薬物療法 精神療法 リエゾン精神医学 多職種連携 リハビリテーション				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。
- ②現代社会とストレス・メンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。
- ③“脆弱性-ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。
- ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。
- ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療法の一般的枠組みについて理解・説明することができる。
- ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。
- ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。
- ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。

■授業の概要

理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、患者様が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/精神医学とは/精神障害の成因と分類
第2回	精神機能の障害と精神症状
第3回	精神障害の診断と評価
第4回	脳器質性精神障害
第5回	症状性精神障害/精神作用物質による精神および行動の障害
第6回	てんかん
第7回	統合失調症およびその関連障害
第8回	気分(感情)障害
第9回	神経症性障害/生理的障害及び身体的要因に関連した障害
第10回	成人の人格(パーソナリティ)・行動・性の障害
第11回	精神遅滞/心理的発達の障害
第12回	リエゾン精神医学/心身医学/ライフサイクルにおける精神医学
第13回	精神機能の治療とリハビリテーション
第14回	精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション/社会・文化とメンタルヘルス
第15回	授業の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。

〔受講のルール〕

携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。

■授業時間外学習にかかわる情報

より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100%で判断。

■教科書

上野武治 編：標準理学療法・作業療法学 精神医学. 医学書院, 2010

■参考書

上島国利 立山万里 編：精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012

科目名	小児科学	担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」			
キーワード	成長、発育、発達、新生児、未熟児、先天異常、小児の神経筋疾患				

■授業の目的・到達目標

- 1: 成長、発育、発達の状態が、正確に評価できる事。
- 2: 先天異常と遺伝病の概要と各疾患の特徴が説明できること。
- 3: 神経、筋、骨格系、精神科領域の小児疾患の概要、特徴が説明できること。
- 4: 小児の内科的疾患の概要が説明できること。

■授業の概要

物言わぬ新生児、乳児、障害を持つ幼児、親の期待に応えようとしてつぶれる学童など、将来の諸君の前には、様々な子供たちが、助けを求めて現われる。そして、その背後には、子供の将来に大いなる不安を抱えた親がいる。目の前に子供に起こっている事を把握し、現状を正確に評価、その子の将来の為に何をなすべきか、さらにはその計画を、子供そして親に、的確に説明し、了解を得る能力が必要とされる。これらのテクニックを中心に、授業を進めてゆく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、小児科学概論 I: 小児の成長、発育、発達
第2回	小児科学概論 II: 栄養、摂食、小児保健
第3回	診断と治療の概要: 小児に対する、診断、検査、治療の概要
第4回	新生児、未熟児疾患 I: 新生児の評価と問題の把握、未熟児の病態
第5回	新生児、未熟児疾患 II: 新生児、周産期異常、新生児の中樞神経疾患
第6回	先天異常と遺伝 I: 先天異常と遺伝のメカニズム
第7回	先天異常と遺伝 II: 染色体異常、先天奇形、先天代謝異常、各疾患の特徴
第8回	神経、筋、骨格系疾患 I: 中枢神経疾患、てんかん、の病態と特徴、発達遅滞を伴う疾患の特徴、小テスト1
第9回	神経、筋、骨格系疾患 II: 脊髄、末梢神経疾患、筋疾患、骨関節疾患の病態と特徴
第10回	呼吸器疾患: 心血管系の発生と出生前後の循環動態、先天性及び後天性心疾患の病態、循環器疾患: 呼吸器の発生と機能発達、呼吸器疾患の病態と症状、検査、治療
第11回	感染症: 小児感染症の症状、特徴、診断と治療、予防接種、ワクチン
第12回	消化器疾患: 消化器の発生、機能発達と消化器疾患の病態、内分泌疾患: 内分泌疾患、糖代謝異常の病態
第13回	血液疾患: 造血組織の発生、血液成分とその利用、血液疾患各論、免疫、アレルギー疾患: 免疫の仕組みとその異常、アレルギー疾患の病態、自己免疫疾患の特徴
第14回	腎、泌尿器、生殖器疾患: 腎機能の発達と疾患の病態、生殖器疾患の病態、小テスト2 腫瘍、感覚器疾患: 小児に発生する悪性腫瘍、眼科、耳鼻科的疾患の症状と捉え方
第15回	心身症、神経症: 心身症、神経症の症状、疾患の背景にあるもの 重度心身障害児: 重度心身障害児とは? 障害の問題、療育の体制

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。

チェックシート以外の重要点も、随時強調するので、神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中!

■授業時間外学習にかかわる情報

授業で配布するチェックシートに従って、要点を整理してゆくこと。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の作業の妥当性を確認し復習を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験による、期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を40%、期末テストの点数に60%の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しないので、欠席のないよう。日頃の健康管理も重要となる。

■教科書

標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第2版 編集 富田 豊 医学書院
(第9講 神経、筋、骨格系疾患IIにおいては、1年次で使用したりハビリテーション医学のテキストも使用する。)

■参考書

授業中に適宜紹介する。

科目名	リハビリテーション入門	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	QOL、ノーマライゼーション、ICIDH、ICF				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

医療分野でのリハビリテーションの理念を学び、現代社会におけるリハビリテーションのニーズ、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につけ、チーム医療の中での作業療法士の役割を理解する。

〔到達目標〕

- ①リハビリテーションについて簡潔に説明することが出来る。
- ②リハビリテーションの諸段階について説明できる。
- ③WHO分類について理解し、説明することが出来る。
- ④リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性と概要を説明することが出来る。
- ⑤地域リハビリテーション、QOLについて理解し、説明することが出来る。

■授業の概要

高齢化社会を迎え、地域に根ざしたリハビリテーションは医療と保健、福祉サービスをつなぐ重要な役割を担っている。本講義ではWHO分類に基づく障害の考え方、現代社会におけるリハビリテーション医療の目的と目標を学び、チーム医療における作業療法士の役割を確認する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーションの理念、社会復帰と社会参加について
第2回	医療、保健、社会福祉とリハビリテーションの関わり方
第3回	リハビリテーションの諸段階
第4回	WHO分類、国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF)
第5回	国際生活機能分類の治療的活用について
第6回	リハビリテーションとチーム医療、理学療法士・作業療法士の役割について
第7回	障害別リハビリテーションの役割
第8回	地域リハビリテーションと医療、社会福祉、法律

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・毎回、講義開始時に小テスト(確認テスト)を実施する。小テストは評価の対象となるため欠席しないこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーすること。

〔受講のルール〕

- ・授業の流れや雰囲気等を乱す行為、常識を欠く行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎回授業の冒頭で小テストを実施する。前回講義を受けた内容を復習しておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述)70%、小テスト30%
総合評価は筆記試験60%を超えていることが前提となる。

■教科書

中村隆一 編:入門リハビリテーション概論 第7版. 医歯薬出版, 2009

■参考書

WHO:ICF 国際生活機能分類. 中央法規, 2002

科目名	保健医療福祉論	担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	対人援助技術				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。

[到達目標]

- ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。
- ②援助技術の原理原則について理解する。
- ③基本的な援助技法を身につける。

■授業の概要

講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション 自分のことを知ってもらう(プロフィール票の作成・提出)
第2回	障害者と自立・ビデオ視聴(感想文を提出)
第3回	対人援助技術の原則
第4回	コミュニケーションスキルを磨く・演習とビデオ視聴
第5回	コンセンサスについて
第6回	社会福祉制度(身近な問題から)①
第7回	社会福祉制度(身近な問題から)②
第8回	まとめ 対人援助技術の原則

■受講生に関わる情報および受講のルール

対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。

8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。

演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業中に配付された資料を必ず見直し、残しておくこと。後日それについてのレポートを課すこともある。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

100%筆記試験(レポート試験)による。ただし、宿題や授業中に課すレポートやミニテストの提出状況で加点・減点することがある。

■教科書

授業時に指示する

■参考書

授業時に指示する

科目名	公衆衛生学	担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門基礎科目「保健医療とリハビリテーションの理念」			
キーワード	健康 予防 人口動態 セルフケア ヘルスプロモーション 環境				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

公衆衛生の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持・増進し、人々に十分な発育を遂げさせ、肉体的・精神的能力を完全に発揮させることである。臨床医学が病気になる個人を対象にしているのに対し、公衆衛生学は個人、家族、地域社会及び国民の健康の総和を指標として、疾病のみならずすべての健康からの偏りの予防、コントロール、治療のみでなく、積極的な意味での健康の達成を目的としている。従って、単なる治療医学ではなく、予防医学さらには社会における医療制度施設など社会の健康水準を保持・増進するのに必要な社会医学も含まれる。

【到達目標】

- ①人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習するとともに、最新データを自らを読み解き、日本が抱える課題・問題等を発見することができる。
- ②専門医療職に従事することを念頭に、クライアントに対して公衆衛生学の領域に関して適切なアドバイスをすることができる。

■授業の概要

人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/生活単位、家庭生活の基本機能、生活の場と健康について学ぶ
第2回	家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立、人間の集団としての働きを学ぶ
第3回	公衆衛生の概念、健康と環境について学ぶ
第4回	疫学的方法による健康の理解について学ぶ
第5回	人口動態と人口動態、疾病統計について学ぶ
第6回	母子保健統計について学ぶ
第7回	地球環境、水・空気・土壌、食品管理及び家庭用品について学ぶ
第8回	ごみ、廃棄物、住環境について学ぶ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業時に指示する。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験100%

■教科書

みるみる公衆衛生学最新版 医学評論社

■参考書

授業時に指示する。

3) 專門科目

科目名	作業療法入門	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法、PBL、ポートフォリオ、病院見学				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法を学ぶにあたり、知っておかなければならない基礎知識を自ら調べ、簡潔に説明できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①作業療法について簡潔に説明できる
- ②作業療法の過程を述べることができる。
- ③作業療法の分野、対象、実施場所について述べるができる。
- ④基本的な発表方法を身につける。
- ⑤レポートをまとめることができる。
- ⑥学習過程をポートフォリオにまとめ、成果を確認することができる。

■授業の概要

PBL学習により、自ら調べ、まとめ、発信する作業を通して作業療法士として知っておかなければならない基礎知識を身につける。また、見学等により作業療法の魅力を感じ、興味を持って学習する態度を養うことを目的とする授業である。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/作業療法の紹介、PBL・ポートフォリオ学習について
第2回	PBL課題1「母校の後輩に作業療法を紹介しよう」
第3回	PBL課題1「母校の後輩に作業療法を紹介しよう」
第4回	PBL課題1「母校の後輩に作業療法を紹介しよう」発表、レポート、ポートフォリオ
第5回	PBL課題2「親が脳梗塞で倒れた！作業療法は何をするの？」
第6回	PBL課題2「親が脳梗塞で倒れた！作業療法は何をするの？」
第7回	PBL課題2「親が脳梗塞で倒れた！作業療法は何をするの？」発表、レポート、ポートフォリオ
第8回	病院見学・病院見学発表〔病院見学後実施〕（レポート、ポートフォリオ提出）

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・発表や見学は出席が前提となるので、体調管理をしっかりとすること。A4クリアファイルを用意すること。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的にかかわること。学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験（■論述 ■客観） ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他

評価配分：筆記試験50%、レポート20%、発表10%、ポートフォリオ20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

発表時欠席は総合評価より-5点、見学時欠席は総合評価より-10点とする（詳細は第1回授業にて説明）。

■教科書

杉原素子編：作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論 協同医書出版

■参考書

鎌倉矩子：作業療法の世界 第2版 三輪書店

科目名	作業療法入門実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 作業療法入門、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業療法実践過程、コミュニケーション、医療従事者				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法入門で学んだ作業療法士として必要な知識や技能について、実際の現場を通してそれらを学ぶ。

〔到達目標〕

- ①作業療法士に必要な職業人・医療職としての基本的態度を実践することができる。
- ②見学を通して作業療法に興味を持ち、その実践過程を見学してくる。
- ③実際の臨床現場の見学を通し、作業療法の実践過程、業務内容、対象の特性などをまとめて報告することができる。

■授業の概要

作業療法士が働いている医療機関(身体機能障害領域を中心とした病院)での3日間の見学を通して、作業療法の実践過程や作業療法士の業務内容、作業療法の対象者などについて学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション。実習参加時の注意事項など。
第2回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第3回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第4回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第5回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第6回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第7回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第8回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第9回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第10回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第11回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第12回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第13回	学生は県内の各病院施設へ配置される。3日間の見学実習。
第14回	実習で学んだことをまとめ、個別に発表を行う
第15回	実習で学んだことをまとめ、個別に発表を行う

■受講生に関わる情報および受講のルール

見学先の病院や日時については、決定次第連絡する。OTSとしての立場をよく理解し、それにふさわしい身だしなみや態度で参加すること。実習に不適切な身だしなみや態度で望む場合は、その場で実習を取りやめさせるため、十分注意すること。

見学後、個別にセミナー発表を行う。

■授業時間外学習にかかわる情報

実習前にオリエンテーションを行う。実習の手引きをよく確認しておくこと。見学前に、見学先の病院について十分に事前学習を行っておくこと。また、実習中は日々の見学内容のまとめなども行う。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他、実習期間の前後は随時受け付け

■評価方法

レポート60%、セミナー発表40%

■教科書

特になし。適宜紹介する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	作業療法管理論	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	組織、リスク管理、情報管理、教育、倫理				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

組織人として、管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的、組織としての責任などの基本を身につける。

〔到達目標〕

- ・作業療法部門の管理運営方法の基本を説明できる。
- ・作業療法部門の役割・機能について説明できる。
- ・地域貢献の必要性について説明できる。
- ・作業療法部門としての質の確保の必要性について説明できる。
- ・組織構成の基本について説明できる。
- ・職業人としての責任について説明できる。
- ・職業人として必要な倫理、責任について説明できる。

■授業の概要

将来作業療法士となり、組織の中で働く場合、所属する部門の管理運営に携わり、責任を委ねられることも生じる。組織人として、管理運営の基本的な考え方、組織の在り方、組織の目的、組織としての責任などの基本を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/組織とは
第2回	組織とは
第3回	部門管理:リスク管理
第4回	部門管理:リスク管理
第5回	部門管理:情報管理
第6回	部門管理:情報管理
第7回	部門管理:教育
第8回	職業人としての倫理

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

グループによる発表を行うため、時間外での情報収集や資料作成などの準備に積極的ににかかわること。学習内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する) その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験100%

■教科書

杉原素子編:作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論.協同医書出版

■参考書

授業時に指示する。

科目名	ひとと作業	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 作業療法入門・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業分析 作業療法 作業活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法の基礎となる「作業」の意味の理解とそれを治療的に用いるための基本的な理論と実践方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①ひとの作業における作業の種類を理解する。
- ②作業選択時の注意点・留意点を説明することができる。
- ③作業・作業活動の治療的意味について学び、説明することができる。
- ④作業分析（一般的分析）の主要項目を説明できる。
- ⑤作業分析（一般的分析）の一覧に基づき、体験した作業活動を分析することができる。

■授業の概要

「作業」に対する作業療法の基本的視点と理論、作業分析について学ぶ。
また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/作業の定義(国語辞典、英和辞典を持っていくこと。電子辞書可)
第2回	作業の分類、ライフサイクルと作業
第3回	作業の使い方、健康と作業、環境と作業・レポート
第4回	作業の治療的な意味について学ぶ・考える(理論)
第5回	作業分析について考える学ぶ・考える(理論)
第6回	作業の治療的な意味・作業分析について考える・体験する(ミサンガ作り体験)
第7回	作業分析についてまとめる・発表する:レポート
第8回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

作業療法の基礎となる授業のため、予習復習をしっかりとすること。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、授業内提示課題20%、レポート20%
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛(著):ひとと作業・作業活動 第2版.三輪書店,2006
- ②杉原素子(編):作業療法全書 第1巻 作業療法概論 第3版.協同医書,2012

■参考書

吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう 作業科学入門.医歯薬出版株式会社,2008

科目名	ひとと作業活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 ひとと作業、運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業分析 作業療法 作業活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動について、その治療的適応について理解し、説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第3回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第4回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第5回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第6回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第7回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第8回	革細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第9回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第10回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第11回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第12回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第13回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第14回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第15回	織物:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、授業内提示課題20%、レポート20%
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛(著):ひとと作業・作業活動 第2版.三輪書店,2006
- ②伊東元(編):標準理学療法作業療法学 運動学.医学書院,2012

■参考書

岩瀬義昭(編):基礎作業学実習ガイド.協同医書出版,2005

科目名	ひとと作業活動Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻1年次必修科目 ひとと作業、運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業分析 作業療法 作業活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動について、その治療的適応について理解し、説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味を実際の作業体験を通して学ぶ。実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第17回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第18回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第19回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第20回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第21回	エコクラフト:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第22回	張り子:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第23回	張り子:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第24回	張り子:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第25回	張り子:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第26回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第27回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第28回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第29回	調理:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第30回	総括:各作業活動ごとの治療的適応について復習する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験(論述・客観)60%、授業内提示課題20%、レポート20%
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛(著):ひとと作業・作業活動 第2版.三輪書店,2006
- ②伊東元(編):標準理学療法作業療法学 運動学.医学書院,2012

■参考書

岩瀬義昭(編):基礎作業学実習ガイド.協同医書出版,2005

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと作業・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業分析 作業療法 作業活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動について、その治療的適応について理解し、説明することができる。
- ④これまで学んだことを活かし、治療的観点から作業計画を練ることができる。
- ⑤計画した作業が適切なものだったかフィードバックし、理解を深めることができる。

■授業の概要

ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第3回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第4回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第5回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第6回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第7回	木工：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第8回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第9回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第10回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第11回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第12回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第13回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第14回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する
第15回	陶芸：道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験（論述・客観）60%、授業内提示課題20%、レポート20%
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛（著）：ひとと作業・作業活動 第2版. 三輪書店, 2006
- ②伊東元（編）：標準理学療法作業療法学 運動学. 医学書院, 2012

■参考書

岩瀬義昭（編）：基礎作業学実習ガイド. 協同医書出版, 2005

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと作業・運動学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	作業 作業分析 作業療法 作業活動 集団活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

各種作業を通じて使用物品や作業の特性、作業療法への適応について学び、実践する。

〔到達目標〕

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動について、その治療的適応について理解し、説明することができる。
- ④これまで学んだことを活かし、治療的観点から作業計画を練ることができる。
- ⑤計画した作業が適切なものだったかフィードバックし、理解を深めることができる。

■授業の概要

ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	集団作業
第17回	集団作業
第18回	集団作業
第19回	集団作業
第20回	集団作業
第21回	集団作業
第22回	集団作業
第23回	集団作業
第24回	個別作業
第25回	個別作業
第26回	個別作業
第27回	個別作業
第28回	個別作業
第29回	個別作業
第30回	総括：各作業活動ごとの治療的適応について復習する

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

各種作業における作業工程や特性、治療的適応等について予習復習しておく。授業で作成する作品の材料費は各々の負担となる。

〔受講のルール〕

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

金曜日16～17時は随時（変更時は掲示する）。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験（論述・客観）60%、授業内提示課題20%、レポート20%
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛（著）：ひとと作業・作業活動 第2版. 三輪書店, 2006
- ②伊東元（編）：標準理学療法作業療法学 運動学. 医学書院, 2012

■参考書

岩瀬義昭（編）：基礎作業学実習ガイド. 協同医書出版, 2005

科目名	作業療法研究法	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目 作業療法入門	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	エビデンス、量的研究・質的研究、統計				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

研究に関する基本的な知識を習得し、作業療法における学術研究の必要性を理解する。

〔到達目標〕

- ①研究の種類(手法や目的)の違いと、それぞれの特性を理解できる。
- ②研究の一連の流れを理解するとともに、文献レビューを行うことができる。
- ③作業療法に関する具体的な研究計画を検討することができる。

■授業の概要

科学的研究の種類、取り組み方、文献検索の講義を通して、研究に必要な基本的知識と態度の習得を図る。研究的思考を持つことは質の高い作業療法の臨床実践を保证する一要素である。研究の必要性、意義、課題や質的研究と量的研究の違いを学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。「何のために研究をするのか」「作業療法と研究について」
第2回	作業療法における研究の種類について学ぶ。 「質的研究と量的研究」「EBPとNBP」について学ぶ。
第3回	研究の一連の流れについて学ぶ。 研究の倫理的義務や管理義務について学ぶ。
第4回	文献の検索と文献レビュー。 文献を批判的に読む。
第5回	総説やメタ・アナリシスについて学ぶ。 サーベイとフィールドワークについて学ぶ。
第6回	統計の基本 基本的な統計手法について学ぶ。RCTとエビデンスレベル。
第7回	各自興味のある分野で研究計画を立案・プレゼンテーション
第8回	各自興味のある分野で研究計画を立案・プレゼンテーション

■受講生に関わる情報および受講のルール

8回の講義受講だけでなく、次回講義までの予習や課題の実施が必須である。
毎回出席すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

詳細については初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。講義は予習や課題の実施を前提しているため、積極的にそれらに取り組むこと。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

筆記試験(論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分: 期末レポート30%、授業内発表70%

■教科書

鎌倉矩子ほか 著『作業療法士のための研究法入門』三輪書店 第1版

■参考書

渡辺宗孝ほか著 PT・OTのための統計学入門 三輪書店

科目名	作業療法セミナーⅠ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	文献講読、ディスカッション、発表、ポートフォリオ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

作業療法に関する文献を基に、ディスカッションを重ね理解を深めるとともに、卒業研究における研究テーマ立案のヒントとなることを目的とする。

【到達目標】

- ・論文を読むことができるようになる。
- ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。
- ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。

■授業の概要

A～Fの6班に分かれ、各教員ごとに提示された文献を読みディスカッション(問いと応答)を行う。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表する。そのため、準備で集めた資料等はすべてポートフォリオ化していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	北爪A班/阿部B班/山口C班/悴田D班/牛込E班/高坂F班
第3回	北爪A班/阿部B班/山口C班/悴田D班/牛込E班/高坂F班
第4回	北爪F班/阿部A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班
第5回	北爪F班/阿部A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班
第6回	北爪E班/阿部F班/山口A班/悴田B班/牛込C班/高坂D班
第7回	北爪E班/阿部F班/山口A班/悴田B班/牛込C班/高坂D班
第8回	北爪D班/阿部E班/山口F班/悴田A班/牛込B班/高坂C班
第9回	北爪D班/阿部E班/山口F班/悴田A班/牛込B班/高坂C班
第10回	北爪C班/阿部D班/山口E班/悴田F班/牛込A班/高坂B班
第11回	北爪C班/阿部D班/山口E班/悴田F班/牛込A班/高坂B班
第12回	北爪B班/阿部C班/山口D班/悴田E班/牛込F班/高坂A班
第13回	北爪B班/阿部C班/山口D班/悴田E班/牛込F班/高坂A班
第14回	発表:A・B・C班
第15回	発表:D・E・F班

■受講生に関わる情報および受講のルール

【受講生に関わる情報】

教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイル(厚めの物)を用意しておくこと。

【受講のルール】

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。

■授業時間外学習にかかわる情報

ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■各回での発言20% ■発表20% ■レポート40% ■ポートフォリオ20%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	作業療法セミナーⅡ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「基礎作業療法学」			
キーワード	文献講読、ディスカッション、発表、ポートフォリオ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

作業療法に関する文献を自ら提示し、ディスカッションを重ね理解を深める。

【到達目標】

- ・興味ある論文を見つけだすことができるようになる。
- ・自分の意見を論理立てて発言できるようになる。
- ・他人の意見を受け入れ自分の考えを再構築できるようになる。
- ・グループのファシリテーターとしてディスカッションを運営できるようになる。

■授業の概要

A～Fの6班に分かれ、学生により提示された文献を読みディスカッション（問いと応答）を行う。ディスカッションの司会進行は提示者とする。最後に、班ごとにディスカッションで得られた考え・発見を言語化し発表する。そのため、準備で集めた資料等はすべてポートフォリオ化していく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	北爪A班/阿部B班/山口C班/悴田D班/牛込E班/高坂F班
第3回	北爪A班/阿部B班/山口C班/悴田D班/牛込E班/高坂F班
第4回	北爪F班/阿部A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班
第5回	北爪F班/阿部A班/山口B班/悴田C班/牛込D班/高坂E班
第6回	北爪E班/阿部F班/山口A班/悴田B班/牛込C班/高坂D班
第7回	北爪E班/阿部F班/山口A班/悴田B班/牛込C班/高坂D班
第8回	北爪D班/阿部E班/山口F班/悴田A班/牛込B班/高坂C班
第9回	北爪D班/阿部E班/山口F班/悴田A班/牛込B班/高坂C班
第10回	北爪C班/阿部D班/山口E班/悴田F班/牛込A班/高坂B班
第11回	北爪C班/阿部D班/山口E班/悴田F班/牛込A班/高坂B班
第12回	北爪B班/阿部C班/山口D班/悴田E班/牛込F班/高坂A班
第13回	北爪B班/阿部C班/山口D班/悴田E班/牛込F班/高坂A班
第14回	発表:A・B・C班
第15回	発表:D・E・F班

■受講生に関わる情報および受講のルール

【受講生に関わる情報】

教室指定をするので確認しておくこと。ポートフォリオ作成するためA4クリアファイル（厚めの物）を用意しておくこと。

【受講のルール】

間違っている、正しくなくても発言すること。他者の発言を糾弾し否定することは許されない。

■授業時間外学習にかかわる情報

ディスカッションには十分な準備が必要である。そのため、必ず配布された文献を読み、関連する資料を集めておくこと。それらはすべてポートフォリオに収める。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■各回での発言20% ■発表20% ■レポート40% ■ポートフォリオ20%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	作業療法評価法Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也 牛込 祐樹	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	評価プロセス、検査技法				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法評価の基本的な考え方・枠組み・検査項目を学び、実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①評価の意味・評価の対象・評価の手段を理解できる。
- ②基本的な検査手技を自己学習により正確に行えるようになる。
- ③それぞれの検査の目的や利用法についての基本的知識を得る。

■授業の概要

作業療法を実施するにあたり、対象者が本人なりの生活を送るために必要な課題や目標を見出すことが必要となる。それらの課題や目標を見出す過程が評価である。作業療法における評価の流れを学び、ついで各検査項目について説明していく。検査項目としては、生理機能評価、形態計測、知覚検査、反射、関節可動域検査、MMT筋緊張・姿勢反射検査、協調性検査を行う。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション/作業療法評価の流れ
第2回	生理機能評価：意識、脈拍、血圧、呼吸、形態計測
第3回	反射：腱反射、病的反射
第4回	関節可動域検査①
第5回	関節可動域検査②
第6回	関節可動域検査③
第7回	MMT①
第8回	MMT②
第9回	MMT③
第10回	MMT④
第11回	知覚検査：表在・深部覚①
第12回	知覚検査：表在・深部覚②
第13回	脳神経検査
第14回	筋緊張・姿勢反射検査
第15回	協調性検査

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報・受講のルール〕

- ・予習復習は必ず行い積極的に授業に臨むこと。
- ・白衣着用。授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書は必ず確認し、理解をして授業に臨むこと。わからない部分を授業にて解決するよう努力すること。各種手技は再学習し習得すること。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験70% ■実技試験30% 総合評価は筆記試験、実技試験ともに60%を超えていることが前提となる。

■教科書

標準作業療法学専門分野 作業療法評価学第2版. 医学書院, 2011

■参考書

授業時に指示する。

科目名	作業療法評価法Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 作業療法入門、解剖学、リハビリテーション医学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	トップダウン、ボトムアップ、評価、STEF、MFT、SIAS、TUG、COPM、AMPS、JCS				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、基本的評価技法の知識を習得するとともに、様々な対象者に実践するための基本的技能が修得できる。

〔到達目標〕

- ①作業療法評価の基本的な基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学ぶ。
- ②各検査法の目的や利用方法についての基本的知識を得る。
- ③各検査手技を自己学習により正確に行うことができるようになる。

■授業の概要

作業療法の実践には、対象者が生活を送るために必要な課題や目標を見いだすことが必要となる。その過程が作業療法評価である。本科目では、その基本的な枠組みや検査項目を学ぶとともに、実践できる技能を修得する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション。作業療法実践過程における「評価」の位置づけについて、再確認。
第2回	情報収集、面接
第3回	脳神経、協調性の検査
第4回	脳卒中機能評価法SIAS、脳卒中上肢機能検査MFT
第5回	簡易上肢機能検査:STEF
第6回	脊髄損傷者に対する検査法
第7回	介護予防:TUG、片脚立位、ファンクショナルリーチなど
第8回	コース立方体組み合わせテスト
第9回	トップダウンアプローチとボトムアップアプローチ
第10回	作業遂行の評価:COPM
第11回	作業遂行技能の評価:AMPS
第12回	COPMやAMPSの活用
第13回	精神機能の評価:意欲、思考
第14回	気分・不安・うつ検査、意識検査、JCS・GCS
第15回	作業療法における評価・評価のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい受講態度で臨むこと。

実習主体の講義であるため、主体的に参加するとともに、休まずに参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

各講義は予習を前提に進める。また、受講だけでは技術の修得は難しい。時間外で学生同士の実技練習を行うこと。詳細については、講義の中で説明を行う。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:筆記試験100%

■教科書

岩崎テル子ほか編:標準作業療法学・専門分野『作業療法評価学』医学書院

澤俊二編:作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス.医歯薬出版

■参考書

日本作業療法士協会監修:作業療法学全書改訂第3版 作業療法評価学.協同医書出版

科目	作業療法評価法Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目 生理学、解剖学、リハビリテーション医学、内科・老年医学、神経内科学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	高次脳機能障害、認知機能、認知症				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、認知機能障害に対する評価の基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候の基礎知識を説明できる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な評価方法を説明できる。
- ③認知症について、原因となる代表的な疾患について理解することができる。

■授業の概要

認知機能障害に伴う生活障害を学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション 認知機能の障害 高次脳機能障害:総論 認知機能障害が日常生活に及ぼす影響:高次脳機能障害者の暮らしぶり
第2回	認知機能障害(高次脳機能障害)を持つ人の暮らしぶり、生活障害の評価
第3回	各論:各症候とその評価:意識障害/注意障害について かなひろい、TMT
第4回	各論:各症候とその評価:半側空間無視について BIT:行動性無視検査
第5回	各論:各症候とその評価:失認について VPTA:標準高次視覚検査
第6回	各論:各症候とその評価:失語・失読・失書について SLTA:標準失語症検査
第7回	各論:各症候とその評価:ゲルストマン症候群について
第8回	各論:各症候とその評価:失行症・行為の障害について SPTA:標準高次動作検査
第9回	各論:各症候とその評価:記憶について ベントン視覚記憶検査ほか
第10回	各論:各症候とその評価:前頭葉機能障害、遂行機能障害について BADS、WCST
第11回	各論:各症候とその評価:病識の低下、行動と感情の障害について
第12回	知的機能:全般的認知機能:HDS-R、MMSE
第13回	知的機能:ウェクスラー成人知能検査 WAIS-III
第14回	認知症の生活障害の評価:アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、正常圧水頭症など 各疾患の評価・鑑別のポイント、対応のポイントについて
第15回	本科目のまとめを行う

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。15回を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習と復習を前提に進める。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:筆記試験80%、授業内提出課題・小テスト20%(総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提)

■教科書

淵雅子 編 作業療法学全書 作業治療学5『高次脳機能障害障害』第3版

■参考書

石合純夫 著『高次脳機能障害』(医歯薬出版株式会社)

本田哲三 編『高次脳機能障害のリハビリテーション-実践的アプローチ-』第2版(医学書院)

鈴木孝治ほか編『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④(医歯薬出版社)

『高次脳機能障害を有する人の暮らしを支える』作業療法ジャーナル増刊号 Vol.40 No.7 2006(三輪書店)

その他、随時講義の中で紹介する

科目名	作業療法評価法特論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目 リハビリテーション入門、作業療法評価法Ⅰ・Ⅱの知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	ケーススタディー、ICF、COPM、AMPS				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要となる作業療法評価について、ケーススタディーを通して理解を深めることができる。

〔到達目標〕

- ① ICFを用いて障害を構造的に捉えることができる。
- ② 作業遂行技能を評価するCOPMやAMPSを通し、作業療法独自の視点を学び、理解することができる。
- ③ 作業療法士としての視点で「評価」を捉えることができる。

■授業の概要

作業療法における『作業療法評価』について、視点やその位置づけについてケーススタディーを通して学ぶ。また、ICFを通して障害を構造的に捉える。COPMやAMPSを通して作業の遂行能力について客観的に捉える方法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。ICFやCOPM、AMPSについての復習。
第2回	ICFを用いて障害を構造的に捉える。
第3回	作業療法士独自の作業・作業遂行技能をみる視点について、人間作業モデル、COPMやAMPSを通して学ぶ。
第4回	作業療法士独自の作業・作業遂行技能をみる視点について、人間作業モデル、COPMやAMPSを通して学ぶ。
第5回	ケーススタディー：身体機能に問題を抱えた事例
第6回	ケーススタディー：身体機能に問題を抱えた事例
第7回	ケーススタディー：認知面に問題を抱えた事例
第8回	ケーススタディー：認知面に問題を抱えた事例
第9回	ケーススタディー：高齢障害者の事例
第10回	ケーススタディー：高齢障害者の事例
第11回	ケーススタディー：発達・精神機能に問題を抱えた事例
第12回	ケーススタディー：発達・精神機能に問題を抱えた事例
第13回	作業療法過程における作業療法評価の位置づけについて、再度確認をする。
第14回	障害を構造的に捉えるとともに、問題点の抽出と目標や治療計画の立案までのプロセスを理解する。
第15回	本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習や課題の実施を前提に講義を進める。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

筆記試験(論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分：期末レポート60%、授業内提出課題40%

■教科書

澤俊二編：作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス. 医歯薬出版
杉原素子 編：作業療法学全書「作業療法概論」第3版
椿原彰夫著：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論. 診断と治療社

■参考書

授業時に指示する。

科目名	作業療法評価法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法評価学」			
キーワード	情報収集 動作観察 動作分析 作業療法評価				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対象者の映像をもとに、動作観察・動作分析を行い、問題点を抽出し、記録できるようになることが目的である

〔到達目標〕

- ①作業療法評価の流れを説明することができる
- ②評価にあたり必要な情報を列挙し、収集方法をあげることができる
- ③動作観察から専門用語を用いて記録することができる
- ④ICFを用いて問題点・利点を列挙し、目標を設定し、指定した形式のレポートにまとめることができる

■授業の概要

ケースステディーをとおして、作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案までを学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/作業療法評価の流れについて
第2回	ケースノート、情報収集について
第3回	ケースステディー：動作分析、まとめ
第4回	ケースステディー：動作分析、まとめ
第5回	ケースステディー：動作分析、まとめ
第6回	ケースステディー：動作分析、まとめ
第7回	ケースステディー：動作分析、まとめ
第8回	ケースステディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第9回	ケースステディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第10回	ケースステディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第11回	ケースステディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第12回	ケースステディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第13回	ケースステディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第14回	ケースステディー：情報収集、動作分析、身体機能評価
第15回	ケース発表、まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・動画で動作分析を行った際は、評価結果と考察を毎回記録すること
- ・グループワークで授業は行うが、記録は各自行うこと

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑を及ぼしたり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験（論述 客観） ■レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分：レポート100%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

吉川ひろみ：作業療法が分かるCOPM・AMPSスターティングガイド。医学書院

科目名	身体機能作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学、解剖学、生理学、リハビリテーション医学、神経内科学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	脳血管疾患、片麻痺、痙縮、連合反応、共同運動、				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、脳血管疾患・頭部外傷に対する基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①脳血管疾患・頭部外傷に伴って生じる様々な臨床症状の知識を習得できる。
- ②脳血管疾患の対象者に対する作業療法の基本的な流れを理解できる。
- ③脳血管疾患の対象者に対する作業療法評価や介入について、モデルケースをもとに立案することができる。

■授業の概要

本科目では、複雑な運動障害、感覚障害、認知障害などの症状を呈する“脳血管疾患”に対する評価や治療方法を中心に、実技も交えながら学習する。また、基本的な作業療法評価から治療計画までの“流れ”と“考え方”についても学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。学ぶべき事項の確認、学習課題の抽出。脳血管障害について、基本的事項の復習。
第2回	脳血管疾患の病態、障害像について学ぶ。リスク管理についても学ぶ。共同運動や連合反応について理解する。
第3回	異常筋緊張や共同運動・連合反応について復習し、錐体路障害が日常生活に及ぼす影響について考える。
第4回	麻痺の回復過程や、予後について学ぶとともに、片麻痺機能や回復段階を評価する方法を学ぶ。
第5回	異常筋緊張や小脳性運動失調を中心とした不随意運動について、機序と基本的な評価・介入法について学ぶ。
第6回	脳血管障害の各病期における作業療法の流れや実施上の注意点、基本的方針を学ぶ(クリニカルパスを含む)。
第7回	具体的介入法・急性期：リスク管理やポジショニングなど
第8回	具体的介入法・亜急性期～回復期：基本動作やADLについて
第9回	具体的介入法・回復期：神経筋促進法、麻痺の回復段階に応じた作業活動について
第10回	具体的介入法・回復期：Activityを用いた運動促進、麻痺の回復段階に応じた作業活動①
第11回	具体的介入法・回復期：Activityを用いた運動促進、麻痺の回復段階に応じた作業活動②
第12回	具体的介入法・回復期：ADL/IADLについて。維持期：社会参加、社会資源利用について
第13回	脳外傷について：臨床像の特徴と作業療法介入のポイントを理解する
第14回	モデルケース：評価や治療計画の流れを考える
第15回	病期/重症度/ライフステージなど様々な要素に配慮した治療計画の立案について。本科目のまとめ。

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。

実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。

授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分：筆記試験80%、授業内提出課題・小テスト20% (総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提)

■教科書

岩崎テル子 編『標準作業療法学 身体機能作業療法学』医学書院

■参考書

菅原洋子 編『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』協同医書出版社

千田富義 編『リハ実践テクニック 脳卒中』メジカルビュー社

Ortrud Eggers 著『エガース・片麻痺の作業療法』協同医書出版

科目名	身体機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 運動学Ⅰ/Ⅱ、解剖学Ⅰ/Ⅱ、生理学Ⅰ/Ⅱ、リハビリテーション医学、整形外科学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	骨関節疾患、骨折、ROM、筋力増強練習、クリニカルパス				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、整形外科疾患に対する基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①整形外科疾患に伴って生じる臨床症状や、生活上の支障についての知識を習得できる。
- ②治療上使用する物理療法の基本についての知識を習得できる。
- ③関節可動域練習や筋力増強練習などの基本的な手技について、知識と実技を身につけることができる。

■授業の概要

本講義では身体機能に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術を学習する。特に、整形外科的疾患の中でも、比較的経験することの多い骨関節疾患を中心として、評価や治療計画立案、実際の介入方法について実技も交えながら概要を学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/骨関節疾患の基本的な知識についての確認
第2回	骨折に対するリハの流れと、OTの役割について学び、各病期の作業療法目標について考える。クリニカルパスも学ぶ。
第3回	関節可動域制限や筋力低下への介入方法について、実技も併せて学ぶ。
第4回	関節可動域制限や筋力低下への介入方法について、実技も併せて学ぶ。
第5回	関節可動域制限や筋力低下、疼痛/浮腫など、への介入方法について、実技も併せて学ぶ。
第6回	物理療法について(ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など)
第7回	物理療法について(ホットパック、パラフィン浴、過流浴、極超短波治療器、超音波治療器など)
第8回	治療①:上腕骨骨折を中心として治療手技など実践もふまえて学ぶ。
第9回	治療①:前腕骨骨折を中心として治療手技など実践もふまえて学ぶ。
第10回	治療①:下肢骨折に対するOTについて。人工関節置換術後のADL支援、過重負荷量に応じたADL指導。
第11回	末梢神経損傷・腕神経叢損傷に対する作業療法、知覚再教育について
第12回	末梢神経損傷・腕神経叢損傷に対する作業療法、知覚再教育について
第13回	肩関節周囲炎、変形性関節症、腰痛に対する作業療法について
第14回	身体機能に対する作業療法を実践するための基本的手技などのまとめをする。
第15回	本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

OTSとしてふさわしい授業態度で参加すること。

実技も含まれるため、実技の含まれる講義では学校指定ジャージなどを用意しておくこと。

授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。15回の講義で効率的に学習を進めるため、事前学習を前提としている。また、実技に関しては授業外の時間に各自で練習をしておくこと。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:筆記試験80%、授業内提出課題・小テスト20%(総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提)

■教科書

岩崎テル子 編『標準作業療法学 身体機能作業療法学』医学書院

■参考書

菅原洋子 編『作業療法全書 作業療法治療学1 身体障害』協同医書出版社 その他は、随時講義中に紹介

科目名	精神機能作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿 遠藤 真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	モラルトリートメント ノーマライゼーション 障害者自立支援法 ライフサイクル 生活課題 リカバリー 観察 面接 地域生活支援				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神障害リハビリテーションおよび作業療法の基本的な考え方や評価・治療・支援に関する基礎的な知識について理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①精神医療の歴史・精神保健医療福祉の流れと作業療法の関係について理解・説明することができる。
- ②ライフサイクルの各期における生活課題と着眼点について理解・説明できる。
- ③精神科領域における作業活動の手段・目的としての活用について理解・説明できる。
- ④精神科領域における作業療法評価(情報収集・観察・面接・集団・検査)やプログラム作成の原則について理解・説明することができる。
- ⑤精神疾患の病期や領域に応じた作業療法の関わりと地域移行・定着支援について理解・説明することができる。

■授業の概要

精神領域におけるリハビリテーションおよび作業療法についての基本的な視点、実際の作業療法評価や治療の原則など、対象者の治療に必要な基礎知識に関して学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ストレスとこころの病/ライフステージにおける精神的問題
第2回	精神障害リハビリテーション及び作業療法の歴史と現状・考え方:レポート
第3回	精神科作業療法における地域移行支援・定着支援について
第4回	精神領域における地域生活支援の仕組み
第5回	関連法規
第6回	精神障害に対する作業療法の基本的視点(ライフサイクルと生活課題):レポート
第7回	精神障害に対する作業療法の基本的視点(作業・作業活動を介した回復支援・生活支援)
第8回	精神障害に対する作業療法の基本的視点(基本的な方法としての作業面接)
第9回	精神領域における作業療法評価(情報収集・観察・面接)
第10回	精神領域における作業療法評価(集団・検査)
第11回	治療目標・個人プログラム設定の原則:レポート
第12回	作業療法の基本的実践論(治療構造と構成要素)
第13回	作業療法の基本的実践論(実践の場と内容)
第14回	作業療法の基本的実践論(病期に応じた作業療法の役割)
第15回	授業の振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習をしっかりとる。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験70% レポート30% 総合評価は筆記試験60%以上が前提となる。

■教科書

- ①日本作業療法士協会 監修:作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害,2010
- ②岩崎テル子他 編:作業療法評価学.医学書院,2009
- ③小林夏子編:精神機能作業療法学.医学書院,2009

■参考書

香山明美他:生活を支援する 精神障害作業療法-急性期から地域実践まで-.医歯薬出版,2008

科目名	精神機能作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿 遠藤 真史	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	転移 逆転移 回復過程 心理教育 家族支援 多職種連携 on the job training place-then-train 統合失調症 気分(感情)障害 ICF				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

精神科作業療法で対象となる各疾患の評価や目標の設定・治療・支援方法等、一般的な枠組みを理解・説明できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①精神科作業療法における治療・援助の構造や治療理論について理解・説明することができる。
- ②各疾患における精神機能作業療法評価、目標・治療計画の設定を理解・説明・実施できる。
- ③精神疾患を持つ方の生活障害を理解・説明することができる。
- ④精神科病院における長期入院者の現状と退院支援のあり方を理解・説明することができる。
- ⑤演習を通じて精神疾患を持つ方の地域生活支援・就労支援における作業療法の実践および、ケアマネジメントの展開について理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた精神疾患における評価～目標設定までを学び、演習を通して実践する。また、幅広いライフステージや回復過程に応じた精神科作業療法の実践および地域生活支援の視点・実践について学習をする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第2回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第3回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害:レポート
第4回	気分(感情)障害
第5回	精神作用物質使用による精神および行動の障害
第6回	成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害
第7回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
第8回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群/てんかん:レポート
第9回	精神障害者の生活障害
第10回	長期入院者の作業療法
第11回	退院支援の考え方と実際
第12回	精神障害者の職業評価と就労支援について
第13回	司法精神医療における作業療法
第14回	事例を通して作業療法評価・目標設定・計画立案に関する発表:レポート
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習をしっかりとる。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験70% レポート30% 総合評価は筆記試験60%以上が前提となる。

■教科書

- ①日本作業療法士協会 監修:作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害,2010
- ②岩崎テル子他 編:作業療法評価学.医学書院,2009
- ③小林夏子編:精神機能作業療法学.医学書院,2009

■参考書

- ①香山明美他:生活を支援する 精神障害作業療法-急性期から地域実践まで-.医歯薬出版,2008
- ②小林夏子 編:標準作業療法学 精神機能作業療法学.医学書院,2009

科目名	発達過程作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達過程作業療法学Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達過程における作業療法対象疾患について学び、作業療法の目的と方法を理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 発達の諸段階について理解し、各発達段階における作業療法の概要について説明できる。
- ② 発達過程作業療法の対象疾患について理解し、臨床像、評価について説明できる。
- ③ 発達過程作業療法について、評価に基づいた治療を説明することが出来る。

■授業の概要

発達過程作業療法学では、特に乳幼児期から青年期までを対象とした作業療法について学ぶ。対象児の可能性を広げるために、発達途上にある児について生物学的視点と心理・社会的視点から疾患別に学び、家庭生活や教育環境などで生かすことの出来る適切な援助方法を具体的に学習することを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、発達障害に対する作業療法の理念
第2回	発達過程における障害の概要
第3回	発達過程の基礎知識と治療への応用
第4回	発達過程作業療法の評価と治療の流れ
第5回	疾患別作業療法：脳性まひ児の発達と障害特性
第6回	疾患別作業療法：脳性まひ児の評価・治療原理
第7回	疾患別作業療法：重症心身障害児の障害特性と治療原則
第8回	疾患別作業療法：神経筋疾患の障害特性と治療原理
第9回	疾患別作業療法：骨形成不全の障害特性と治療原理
第10回	疾患別作業療法：知的障害の特性と治療原理
第11回	疾患別作業療法：学習障害・ADHDの障害特性と治療原理
第12回	疾患別作業療法：広汎性発達障害の特性と治療原理
第13回	疾患別作業療法：高機能広汎性発達障害の特性と治療原理
第14回	疾患別作業療法：感覚障害・内部障害の特性と治療原理
第15回	地域における発達支援・支援制度

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

授業で配布する資料は保管しないため、出席者からコピーをとること。

〔受講のルール〕

授業の流れや雰囲気をお乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書をあらかじめ読み、授業に臨むこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験(客観・論述) 100%

■教科書

田村良子編：作業療法学全書 改訂第3版 第6巻 作業療法治療学3発達障害. 協同医書, 2010

■参考書

Nancie R Finnie 著：脳性まひ児の家庭療育原著第3版. 医歯薬出版, 1999

Alfred L. Scherzer 著：脳性まひ児の早期治療 第2版. 医学書院, 2003

辛島千恵子著：広汎性発達障害の作業療法 根拠と実践. 三輪書店, 2010

科目名	発達過程作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	発達検査、評価、治療プログラム				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

発達過程における作業療法について、各疾患に適切な検査、検査方法および評価方法について学び、対象児の評価から治療までの流れと目標について理解し実践できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①発達過程作業療法で使用する検査バッテリーについて理解し実施することが出来る。
- ②各検査バッテリーから得られた結果を評価し作業療法で取り組む内容を抽出することが出来る。
- ③作業療法の目的を達成させるための治療プログラムを提案することが出来る。
- ④発達過程作業療法について対象児の将来像までを見据えた生活上の提案をすることが出来る。

■授業の概要

発達過程作業療法学の対象者に行われる、各種の検査バッテリーの概要および実施方法の注意点について理解する。検査については、場面設定、実施方法、実施、評価について学び、各疾患における評価の実際と作業療法実施過程について学習する。発達過程作業療法の対象となる「こども」の生活を踏まえ、対象者の将来を支える軸となる作業療法のあり方を理解する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、発達過程における作業療法評価
第2回	発達スクリーニング検査の概要
第3回	発達検査の実際：日本版デンバー・遠城寺・グッドイナフ
第4回	発達検査の実際：グッドイナフ人物画知能検査
第5回	発達検査の実際：日本版フロスティック視知覚検査
第6回	発達検査の実際：JMAP、感覚統合理論①
第7回	発達検査の実際：JMAP、感覚統合理論②
第8回	発達検査の実際：WeeFIM、ADL
第9回	発達検査の解釈と疾患①
第10回	発達検査の解釈と疾患②
第11回	作業療法の実際：脳性まひ
第12回	作業療法の実際：神経筋疾患
第13回	作業療法の実際：学習障害・注意欠陥多動性障害・広汎性発達障害
第14回	作業療法の実際：子どもの障害と生活①
第15回	作業療法の実際：子どもの障害と生活②

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・白衣着用が必要な場合は事前に連絡する。
- ・検査の予習、復習を十分に行うこと。

〔受講のルール〕

授業概要を必ず確認し授業に臨むこと。

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるような常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

発達過程作業療法学Ⅰの履修内容を復習しておくこと。
各検査バッテリー実施については各自再学習し習得すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

田村良子編：作業療法学全書 改訂第3版 第6巻 作業療法治療学3発達障害・協同医書

■参考書

随時紹介する。

科目名	高齢期作業療法学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子 高坂 駿	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高齢期 認知症 高齢期の疾患				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

加齢とともに起こる身体的変化・精神的変化・生活の変化などを学び、様々な高齢者に対する作業療法について理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢者を取り巻く社会の現状を説明することができる
- ②高齢期の身体・疾患の特徴を説明する事ができる
- ③高齢期の作業療法実践の基本的枠組みを説明できる
- ④認知症および特徴的疾患の作業療法アプローチを説明することができる

■授業の概要

高齢者の身体・精神・生活などについて学び、老年期障害分野で作業療法士が果たす役割を学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/高齢社会について
第2回	高齢期の一般的特徴・疾患について
第3回	高齢期の生活の変化・役割の変化について
第4回	高齢期作業療法の過程について
第5回	認知症の定義と分類、症状について
第6回	認知症の薬物療法について
第7回	認知症におけるコミュニケーションについて
第8回	認知症における作業療法について
第9回	認知症に関係する社会資源
第10回	認知症の作業療法の実際
第11回	虚弱高齢者・寝たきり高齢者の作業療法の実際
第12回	整形疾患の作業療法の実際
第13回	ターミナル
第14回	健康な高齢者の作業療法
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講のルール〕

- ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や迷惑行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験100%

■教科書

松房利憲・小川恵子編:標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学. 第2版, 医学書院
小川敬之編:認知症の作業療法 エビデンスとナラティブの接点に向けて. 医歯薬出版株式会社

■参考書

村田和香編:作業療法学全書 第7巻 作業療法治療学4 老年期. 改訂第3版, 協同医書出版社

科目名	高齢期作業療法学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	生活行為向上マネジメント、意味ある作業				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

「生活行為向上マネジメント」を活用できるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①高齢者について理解を深め、説明することができる。
- ②生活行為の自立に向けたマネジメントについて説明できる。
- ③生活行為向上マネジメントプログラムを立てることができる。

■授業の概要

本講義で取り上げる「生活行為向上マネジメント」を活用することで、利用者本人を中心にご家族や関係職種などと情報を共有し、利用者が医療制度から介護保険へ、より良い生活の獲得・意味ある作業の遂行につなげられるようになることを目的とする。

「生活行為向上マネジメント」は老年期作業療法領域以外においても有効な連携ツールである。よって、他科目(他領域)においても必修となる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	科目オリエンテーション、高齢者の生きてきた時代を探る・高齢者の趣味・興味・生きがいを探る①
第2回	高齢者の生きてきた時代を探る・高齢者の趣味・興味・生きがいを探る② レポート
第3回	生活行為の自立に向けたマネジメント:すべての人によい作業を
第4回	生活行為の自立に向けたマネジメント:生活行為向上マネジメントとは
第5回	生活行為の自立に向けたマネジメント:マネジメントツールの使い方①
第6回	生活行為の自立に向けたマネジメント:マネジメントツールの使い方②
第7回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case1
第8回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case1
第9回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case2
第10回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case2
第11回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case3
第12回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case3
第13回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case4
第14回	生活行為の自立に向けたマネジメント:case4
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・グループワークが中心となる

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(■論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験80%、レポート20%、総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提

■教科書

社団法人日本作業療法士協会監:「作業」の捉え方と評価・支援技術. 医歯薬出版

■参考書

吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう 作業科学入門. 医歯薬出版

科目名	ひとと暮らしI	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	ADL、IADL、評価、脳血管障害、ADL練習				

■授業の目的・到達目標

[授業の目的]

作業療法士として必要なADL・IADLを評価する力と介入する手法を身につけることを目的とする。

[到達目標]

- ①代表的なADL・IADL評価を説明し実施できる。
- ②ADL各項目の観察ポイントを挙げるができる。
- ③脳血管障害における代表的なADL介入を説明することができる。
- ④簡単な動作分析をまとめることができる。

■授業の概要

ひとが暮らしていく上で基礎となる食事動作や排泄動作などのADLはなにも作業療法士だけが関係するものではない。では、作業療法の専門性や役割とは何か?そのことを明らかにするため、評価や介入方法を実際に体験しながら学んでいく。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/ADL・IADLとは
第2回	ADLの評価:Barthel Index,FIM
第3回	ADLの評価:FIM、その他
第4回	評価各論:起居・移動動作
第5回	評価各論:更衣動作
第6回	評価各論:食事動作・整容動作
第7回	評価各論:排泄動作・入浴動作
第8回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:床上動作
第9回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:移乗動作
第10回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:更衣動作
第11回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:食事動作
第12回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:排泄動作
第13回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:入浴動作
第14回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:整容動作
第15回	障害別ADL練習:脳血管障害片麻痺:IADL動作

■受講生に関わる情報および受講のルール

[受講生に関わる情報]

- ・実際に体を動かすことが多いため、学校ジャージを用意しておくこと。
- ・メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。

[受講のルール]

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験100%

■教科書

伊藤利之編:新版 日常生活活動(ADL)-評価と支援の実際-。医歯薬出版,2010

■参考書

酒井ひとみ編集:作業療法全書第11巻 改訂第3版 作業療法技術学3 日常生活活動。協同医書,2010

科目名	ひとと暮らしⅡ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	2 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目 ひとと暮らしⅠの知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	住宅改修、福祉用具、自助具、関節リウマチ、脊髄損傷、職業関連活動				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

ADLやIADLを改善・向上するために必要な環境整備（住宅改修・福祉用具・自助具）についての知識を身につける。また、障害別の介入方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ・基本的な住宅の計測ができる。
- ・住宅改修プランを立案できる。
- ・福祉用具の選定に関するポイントを説明できる。
- ・自助具を作成することができる。
- ・障害別ADL練習を説明することができる。

■授業の概要

暮らしを営む上で環境を考慮し、整えることは必要不可欠なことである。障害を持って自分らしい豊かな暮らしを営めるよう作業療法士として行える支援の手法を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	住宅改修①
第2回	住宅改修②
第3回	住宅改修③
第4回	住宅改修④
第5回	福祉用具①車いす、移乗用具、ベッド
第6回	福祉用具②リフト
第7回	福祉用具③コミュニケーションエイド
第8回	自助具①
第9回	障害別ADL練習：関節リウマチ①
第10回	障害別ADL練習：関節リウマチ②
第11回	障害別ADL練習：脊髄損傷①
第12回	障害別ADL練習：脊髄損傷②
第13回	障害別ADL練習：パーキンソン病など
第14回	自助具② 自助具作成&ポスター発表
第15回	職業関連活動

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・実際に体を動かすことが多いため、学校ジャージを用意しておくこと。メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。3mくらいの巻尺メジャー、USB。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験（■論述 ■客観） ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■自助具作成&ポスター発表

評価配分：筆記試験70%、レポート15%、自助具作成&ポスター発表15%

総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

伊藤利之編：新版 日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－. 医歯薬出版, 2010

■参考書

授業時に指示する。

科目名	義肢装具学	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	義肢・装具・スプリント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

義肢・装具・スプリントの種類について学び、代表的なスプリント作成により、対象疾患、適性について学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

- ①義手・義足の種類及び各パーツの名称を言うことができる
- ②上肢・下肢・体幹の装具の種類と対象疾患を言うことができる。
- ③スプリントの種類と対象疾患、治療目的を言うことができる。
- ④代表的なスプリントを作成し、対象者に合わせた修正を行うことができる。

■授業の概要

作業療法で対象となる各種装具・スプリントと、国家試験で出題される各種義肢・装具の名称及びその特徴と対象疾患について学びます。また、代表的なスプリントの作成から、その特徴や治療目的を理解し、フィッティングなどの技術も学びます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション/義肢・装具・スプリントの定義、構造について
第2回	義手の分類、名称、構造、機能について
第3回	義手の操作法、調整法について 筋電義手の構造について
第4回	義足について
第5回	装具総論/上肢装具の種類、対象疾患について
第6回	下肢装具・体幹装具の種類、対象疾患について
第7回	義肢・装具のまとめ
第8回	スプリント総論
第9回	スプリント作成：リングスプリント
第10回	スプリント作成：型紙について
第11回	スプリント作成：短対立スプリント
第12回	スプリント作成：コックアップスプリント
第13回	スプリント作成：コックアップスプリント
第14回	適合評価について
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

- ・各種義肢・装具を装着することが多く、また後半はスプリント作成も行うため、作業のしやすい服装を心がけること
- ・スプリント作成ではタオルを各自用意する
- ・1年次で学習した解剖学・運動学が基礎になるため、各自復習しておくこと

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験 (□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他(作品)
評価配分: 筆記試験80%、授業内作成課題(作品)20%

■教科書

古川宏: 作業療法学全書 作業療法技術学1 義肢装具学. 改訂第3版, 協同医書出版

■参考書

山口淳: 写真で見る基本スプリントの作り方. 医歯薬出版株式会社

科目名	作業療法治療学Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	作業、人間作業モデル				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法で一般的に行われる治療としての「作業」について学び、実践へ向けての考察が出来るようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①治療としての「作業」の意味について説明できる。
- ②作業療法評価と治療のプロセスを説明できる。
- ③作業療法で一般的に用いる治療方法について説明できる。
- ④作業療法の目的に沿った治療法について説明できる。

■授業の概要

作業療法はその治療あるいは支援として「作業」を用いる。ひとは一生を過ごす中で日常生活や学習、趣味、仕事の場において、いわゆる「作業」を行う。個人の考えや主張は動作を実現する手や全身を使って表現され、それは作業となって他者の目に触れ、その人らしさが社会での自らの存在を証明する。本講義では作業療法士がその対象となる方に提供する治療としての「作業」について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	「作業」とは
第3回	治療としての「作業」
第4回	作業療法における治療の目的
第5回	対象者の生活に寄り添う治療とは
第6回	作業療法における治療①運動生理学的アプローチ
第7回	作業療法における治療②神経生理学的アプローチ
第8回	作業療法における治療③感覚統合理論に基づくアプローチ
第9回	人間作業モデルについて
第10回	作業活動の治療的応用①日常生活活動における治療
第11回	作業活動の治療的応用②日常生活活動における治療
第12回	作業活動の治療的応用③趣味活動と治療
第13回	作業療法における集団活用
第14回	作業療法における対象者の目標と予後について
第15回	対象者への作業療法と社会生活

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・白衣着用が必要な場合は事前に連絡する。
- ・検査の予習、復習を十分に行うこと。
- ・授業で配布する資料の予備は保管しません。出席者からコピーすること。

〔受講のルール〕

授業概要を必ず確認し授業に臨むこと。

授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になるような常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解しておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

筆記試験（客観・論述）100%

■教科書

澤俊二他編：作業療法評価のエッセンス。医歯薬出版、2010

■参考書

鎌倉矩子著：作業療法の世界 作業療法を知りたい・考えたい人のために 第2版。三輪書店、2001

吉川ひろみ：「作業」って何だろう。医歯薬出版、2008

岩崎テル子編：標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版。医学書院、2005

杉原素子編：作業療法学全書改訂第3版第1巻 作業療法概論。協同医書

科目名	作業療法治療学Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定 科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	関節リウマチ、神経・筋疾患、内部障害				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

関節リウマチ、神経筋疾患、内部障害について概要を理解し、作業療法評価と治療を実践できることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①関節リウマチ、神経・筋疾患、内部障害の主な種類と各々の病態像、分類、特徴的症狀を理解できる。
- ②関節リウマチ、神経・筋疾患、内部障害に必要な検査・評価を理解し、実践できる。
- ③関節リウマチ、神経・筋疾患、内部障害の特性を考慮した、治療、援助、指導を提案することができる。

■授業の概要

関節リウマチ、神経・筋疾患、内部障害の特性を考慮して、機能的練習、補装具の使用、代償的方法の選択など検討することが大切である。そのために病因・病態を理解し、作業療法評価を選択・実施できるようにする。また、対象者の状態に合わせた治療を選択し、実践できるようにする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/関節リウマチの病理と評価
第2回	関節リウマチの治療・援助・指導・ケーススタディ
第3回	関節リウマチの治療・援助・指導・ケーススタディ
第4回	関節リウマチの治療・援助・指導・ケーススタディ
第5回	パーキンソン病の病理と評価・治療・援助・指導
第6回	パーキンソン病の病理と評価・治療・援助・指導
第7回	パーキンソン病の病理と評価・治療・援助・指導
第8回	脊髄小脳変性症の病理と評価・治療・援助・指導
第9回	脊髄小脳変性症の病理と評価・治療・援助・指導
第10回	筋萎縮性側索硬化症の病理と評価・治療・援助・指導
第11回	筋萎縮性側索硬化症の病理と評価・治療・援助・指導
第12回	ギランバレー症候群とその他の神経筋疾患の病理と評価・治療・援助・指導
第13回	ギランバレー症候群とその他の神経筋疾患の病理と評価・治療・援助・指導
第14回	内部障害の病理と評価・治療・援助・指導
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

講義のはじめに小テストを実施する。小テストは評価の対象となるため休まないこと。積極的に授業に参加し、各自予習・復習を行うこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書は必ず確認し、理解をして授業に臨む事。わからない部分を授業にて解決するよう努力する事。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験80% ■その他(小テスト)20%

成績配分:筆記テスト80%、小テスト20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

- ①標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版.医学書院,2011
- ②標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第2版.医学書院,2011

■参考書

授業時に指示する。

科目名	作業療法治療学Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿 遠藤 真史	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目 主に臨床心理学、精神医学の知識が必要となる。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	生活支援 地域生活移行支援 司法精神医療 社会資源 障害者自立支援法 成年後見制度 マネジメント 治療構造論				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

これまでに学んだ精神障害リハビリテーションの基礎知識や各疾患の特徴、評価方法等を統合し、応用的に精神障害リハビリテーションを進めるための考え方や具体的方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①各疾患における作業療法の目的と課題について理解・説明できる。
- ②各疾患における作業療法の基本的な援助方法や援助過程を理解・説明できる。
- ③実践事例を通して、各疾患における作業療法実施上の留意点を理解・説明できる。
- ④各疾患における作業療法終結時・フォローアップ時のポイントについて理解・説明することができる。
- ⑤精神疾患を持つ方が地域生活支援の仕組みと実際を理解・説明することができる。

■授業の概要

ICFに基づいた実践的なリハビリテーションの考え方と治療・支援の実際を学ぶ。その人にとっての生活障害とは何か、地域で生活を続けるための方法を事例をもとに考え、評価、治療・支援計画を立てる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/精神科作業療法に関する理論・モデル・技法
第2回	精神障害リハビリテーションにおける社会資源：レポート
第3回	精神障害者の地域生活支援の仕組み
第4回	精神障害者の地域生活支援の実践
第5回	司法精神医療における作業療法：レポート
第6回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第7回	統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
第8回	気分(感情)障害
第9回	成人の人格(パーソナリティ)及び行動障害
第10回	精神作用物質使用による精神および行動の障害
第11回	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
第12回	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群/てんかん
第13回	実践事例を通じた評価・治療・指導・支援内容のまとめ
第14回	実践事例を通じた評価・治療・指導・支援内容の発表：レポート
第15回	学んだことの振り返り

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・予習復習をしっかりとる。

〔受講のルール〕

- ・講義は欠席のないようにする。
- ・授業内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をする。
- ・授業中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止。

■授業時間外学習にかかわる情報

毎授業配布する、コマ・シラバスの内容を基に教科書や配布資料で予習復習すること。分からない箇所はそのままにせず、次回の授業で解決するよう質問や自分で調べたことなどをまとめておく。

■オフィスアワー

水曜日16～17時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約。

■評価方法

筆記試験70% レポート30% 総合評価は筆記試験60%以上が前提となる。

■教科書

- ①日本作業療法士協会 監修：作業療法学全書 改訂第3版 作業療法治療学2 精神障害,2010
- ②小林夏子 編：標準作業療法学 精神機能作業療法学 医学書院,2009

■参考書

- ①香山明美他：生活を支援する 精神障害作業療法-急性期から地域実践まで- 医歯薬出版,2008

科目名	作業療法技術論Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	姿勢、動作分析、キーポイント、行為				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

対象者の行動や動作を作業療法的視点により評価、分析する方法を学び、観察から得られる対象者の利点や問題点を抽出することを学習する。

〔到達目標〕

- ①観察から対象者の姿勢や基本動作および行為動作について分析することが出来る。
- ②分析した内容をわかりやすく説明することが出来る。
- ③対象者の日常生活上の問題点と分析内容を照らし合わせ治療の方向性を説明することが出来る。

■授業の概要

作業療法の対象者は、生活の中で行為として様々な状態を示し、常に問題提起している。作業療法士は観察によりその行為から多くの問題点や利点を見つけ出し、対象者の主訴を解決するための方法を提供する。本講義では、観察技法と分析方法をより深く学び、対象者や家族のニーズに応える方法を身につける。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション
第2回	基本的動作の観察と分析
第3回	動作分析と作業分析
第4回	作業課題と工程
第5回	動作と環境との関わり
第6回	ICFに基づく作業分析の解釈と作業療法の目的
第7回	観察による作業分析①
第8回	作業分析に基づく評価と作業療法プログラム立案①
第9回	観察による作業分析②
第10回	作業分析に基づく評価と作業療法プログラム立案②
第11回	観察による作業分析③
第12回	作業分析に基づく評価と作業療法プログラム立案③
第13回	AMPSについて
第14回	作業療法検査時に見られる動作・作業観察
第15回	作業分析と作業療法ゴール

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・白衣着用が必要な場合は事前に連絡する。

〔受講のルール〕

授業概要を必ず確認し授業に臨むこと。

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になるような常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業概要に記載されている文献は、事前に必ず確認し、理解すること。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート100%

■教科書

指定しない

■参考書

中村隆一 他著：基礎運動学第6版。医歯薬出版、2003

吉川ひろみ著：作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド。医学書院、2008

科目名	作業療法技術論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次時選択科目 リハビリテーション 医学、内科・老年医学、神経内科学の知識を必要とする。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	COPD、虚血性心疾患、心不全、糖尿病、ターミナル				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、内部障害を合併する対象者に対する基本的な知識や技術について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①内部障害を代表する各疾患の基礎知識を習得する。
- ②内部障害を合併する患者の臨床的特徴を理解し、作業療法実施上の注意点を知る。
- ③内部障害を合併する対象者への作業療法の基本的な流れを理解できる。

■授業の概要

内部障害について、具体的な各疾患の障害像を復習し、それらに対する作業療法の流れを学ぶ。
また、がんや難病患者、高齢者のターミナルにおける作業療法士の役割について考える。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。 COPD、虚血性心疾患と心不全、糖尿病についての基礎知識について復習すべき項目を知る。
第2回	COPDなど呼吸疾患患者へのリスク管理やADL指導について学ぶ。
第3回	COPDなど呼吸疾患患者へのリスク管理やADL指導について学ぶ。
第4回	虚血性心疾患や心不全などの循環器疾患のリスク管理やADL指導について学ぶ。
第5回	虚血性心疾患や心不全などの循環器疾患のリスク管理やADL指導について学ぶ。
第6回	糖尿病など、内分泌・代謝性疾患について、リスク管理やADL指導について学ぶ。
第7回	糖尿病など、内分泌・代謝性疾患について、リスク管理やADL指導について学ぶ。
第8回	呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌/代謝性疾患それぞれにおける、作業療法の役割について考える(ディスカッション)。
第9回	呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌/代謝性疾患それぞれにおける、作業療法の役割について考える(ディスカッション)。
第10回	ROM練習、筋緊張の軽減、様々な筋力増強練習の方法など、より実践的な身体機能に対する実技を学ぶ
第11回	ROM練習、筋緊張の軽減、様々な筋力増強練習の方法など、より実践的な身体機能に対する実技を学ぶ
第12回	ターミナルケアについて
第13回	癌治療などターミナルケアにおける作業療法の役割
第14回	高齢者、難病患者などターミナルケアにおける作業療法の役割(ディスカッション)
第15回	本科目のまとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。
積極的に授業に臨むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。内部障害を合併する患者は、今後も増え続けることが予測される。
関連する社会的な問題も含めて理解するため、新聞やニュースなどにも着目して欲しい。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験80%、授業内提出課題・小テスト20%(総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提)

■教科書

岩崎テル子 編『標準作業療法学 身体機能作業療法学』医学書院 第2版

■参考書

菅原洋子 編『作業療法全書 作業治療学 身体障害』協同医書出版
その他、随時講義の中で紹介する

科目名	作業療法技術論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	牛込 祐樹	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定 科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法技術論」			
キーワード	臨床技術、OSCE、コミュニケーション、評価、介助				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

臨床場면을想定して、より実践的なコミュニケーション・評価・介助を行えることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①臨床場면을想定して、実践的なコミュニケーション、面接を行うことができる。
- ②リスク管理に配慮しながら、適切な準備・説明を行いながら、評価を実施できる。
- ③リスク管理に配慮しながら、適切な準備・説明を行いながら、介助を実施できる。

■授業の概要

臨床場面では、対象者に対して適切なオリエンテーション・フィードバック・声かけ等がなされ、作業療法評価・治療・介助を実施する必要がある。そのことが対象者との信頼関係を構築する上で重要となる。実際の臨床場면을想定して、リスク管理に配慮しながらより実践的な評価や介助を行えるように学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/臨床場면을想定しての実践的な面接、バイタルチェック
第2回	臨床場면을想定しての実践的な面接、バイタルチェック
第3回	臨床場면을想定しての実践的な起き上がり、立ち上がり、移乗動作
第4回	臨床場면을想定しての実践的な起き上がり、立ち上がり、移乗動作
第5回	臨床場면을想定しての実践的な関節可動域測定、徒手筋力検査
第6回	臨床場면을想定しての実践的な関節可動域測定、徒手筋力検査
第7回	臨床場면을想定しての実践的な反射、感覚検査
第8回	臨床場면을想定しての実践的な反射、感覚検査
第9回	臨床場면을想定しての実践的なトイレ動作
第10回	臨床場면을想定しての実践的なトイレ動作
第11回	臨床場면을想定しての実践的な更衣動作
第12回	臨床場면을想定しての実践的な更衣動作
第13回	臨床場면을想定しての実践的な歩行、車椅子駆動
第14回	臨床場면을想定しての実践的な歩行、車椅子駆動
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

積極的に授業に参加し、各自予習・復習を行うこと。
実技を行う時があります。動きやすい服装で参加すること。

■授業時間外学習にかかわる情報

教科書は文献は必ず確認し、理解をして授業に臨む事。わからない部分を授業にて解決するよう努力する事。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約

■評価方法

■筆記試験60% ■レポート40%

成績配分:筆記テスト60%、レポート40% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

- ①標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第2版.医学書院,2011
- ②標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学 第2版.医学書院,2011

■参考書

PT・OTのためのOSCE 臨床力が身につく実践テキスト 第1版.金原出版株式会社,2011

科目名	作業療法特論I	担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	記録、問題抽出、目標設定、治療プログラム立案				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

観察・評価・評価の統合と解釈・治療プログラム立案・治療の実際までの作業療法の一連の流れについて実施できるようにすることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①観察・検査結果より評価のまとめを記載することが出来る。
- ②評価のまとめから問題点を導くための解釈を記載することが出来る。
- ③評価の解釈から問題点の抽出、目標設定を導くことが出来る。
- ④目標設定より治療プログラムを立案することが出来る。

■授業の概要

作業療法評価から得た各種の情報を、対象者の背景に基づいてまとめることは、作業療法士に求められる能力である。対象者の生活の質を高め、具体的な目標に向かって対応するためには、他職種への理解も進められなければならない。本講義では作業療法の評価と治療について、適切に記載し、明確な作業療法の提供が出来るように学習する。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション、ICF、作業療法の流れについて
第2回	臨床における記録および報告
第3回	面接および観察からの評価、記録
第4回	各検査バッテリーからの評価、記録
第5回	動作及び作業分析からの評価、記録
第6回	評価のまとめ方
第7回	問題点抽出の流れ
第8回	作業療法ゴール設定の方法
第9回	目標設定から治療プログラム立案までの記録方法
第10回	治療実施の方法と記載方法
第11回	疾患別記録方法について①
第12回	疾患別記録方法について②
第13回	疾患別記録方法について③
第14回	疾患別記録方法について④
第15回	臨床実習ノートの記載上の留意点について

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・記録方法の予習、復習を十分に行うこと。

〔受講のルール〕

授業概要を必ず確認し授業に臨むこと。

授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になるような常識を欠く行為（私語、携帯電話の使用など）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業計画に記載されている文献に必ず目を通しておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

レポート100%

■教科書

指定しない

■参考書

市川和子編：標準作業療法学専門分野 臨床実習とケーススタディ. 医学書院, 2005
 菊池恵美子編：OT 臨床実習ルートマップ. メジカルビュー, 2011

科目名	作業療法特論Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次選択科目 リハビリテーション医学、解剖学、生理学、神経内科学の知識を必要とする。作業療法評価法Ⅲの授業内容と対応。	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	高次脳機能障害、認知症、社会資源、成年後見制度				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法士として必要な、認知機能障害に対する基本的な介入手法について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①高次脳機能障害の代表的な各症候への基本的な介入手法について説明できる。
- ②認知機能障害を有する患者の臨床的特徴を理解し、適切な対応法について説明できる。
- ③高次脳機能障害をはじめとする認知機能障害患者に対する社会復帰支援について、社会資源とともに理解することができる。

■授業の概要

認知機能障害に伴う生活障害を学ぶ。具体的には高次脳機能障害の各症候や認知症に対する作業療法について学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション。高次脳機能障害者の暮らしぶり。認知機能障害をどの様に捉えるか(DSM-5など)
第2回	認知症患者の暮らしぶり。これらから、認知機能障害のある者が生活する上で抱える困難について考える。
第3回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方①：注意・記憶について
第4回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方②：失認・半側空間無視について
第5回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方③：失語・失書など言語障害について
第6回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方④：失行・行為の障害について
第7回	高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方⑤：前頭葉症状、行動と感情の障害について
第8回	課題作成について
第9回	認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方① 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入
第10回	認知症に対するリハビリテーション：基本的考え方② 認知症の行動・心理症状への介入、家族指導
第11回	認知機能障害のある方への社会資源① 基本的な制度 各自調べてまとめる
第12回	認知機能障害のある方への社会資源② 就労関係
第13回	認知機能障害のある方への社会資源③ 成年後見制度 権利擁護に関わる制度
第14回	認知機能障害のある方への社会資源④ 群馬県内の実情 支援拠点機関・認知症疾患医療センターなど
第15回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

授業概要を確認し、講義を受けるにあたり、最低限必要となる知識(2年次までの知識)は、各自復習しておくこと。15回を通しての理解が必要である。積極的に授業に臨むこと。神経内科学と作業療法評価法Ⅲとを関連づけて学ぶこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。予習と復習を前提に進める。

■オフィスアワー

水曜日16時半～17時半は随時 その他の曜日においては要予約

■評価方法

筆記試験(論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分：期末レポート60%、授業内課題40%

■教科書

浏雅子 編 作業療法学全書 作業治療学5『高次脳機能障害』第3版

■参考書

石合純夫 著『高次脳機能障害』(医歯薬出版株式会社)
 本田哲三 編『高次脳機能障害のリハビリテーション-実践的アプローチ-』第2版(医学書院)
 鈴木孝治ほか編『高次脳機能障害マエストロシリーズ』①～④(医歯薬出版社)
 『高次脳機能障害を有する人の暮らしを支える』作業療法ジャーナル増刊号 Vol.40 No.7 2006(三輪書店)
 その他、随時講義の中で紹介する

科目名	作業療法特論Ⅲ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	パーキンソン病 脊髄小脳変性症 筋萎縮性側索硬化症 ギランバレー症候群 関節リウマチ				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

神経内科疾患の評価と治療を学ぶことを目的とする。また、関節リウマチのケーススタディーにて評価・問題点抽出・目標設定・プログラム立案を学ぶ。

〔到達目標〕

- ①神経内科疾患の主な種類と病態像、特徴的症狀、禁忌事項を言うことができる
- ②神経内科疾患の評価に必要な検査・観察項目を列挙することができる
- ③ケーススタディーより、評価に必要な検査・観察項目を挙げ、情報収集することができる
- ④ケーススタディーより、ケースの問題点抽出、目標設定、プログラム立案をレポートにまとめることができる

■授業の概要

身体障害領域で対象となる神経内科疾患の作業療法について学びます。また、ケーススタディーでは評価から治療プログラム立案までを学び、レポートにてまとめます。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/パーキンソン病の病理と評価について
第2回	パーキンソン病の評価の実際
第3回	パーキンソン病の治療・援助・支援
第4回	脊髄小脳変性症の評価と治療・援助・指導
第5回	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療・援助・指導
第6回	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療・援助・指導
第7回	多発性硬化症、ギランバレー症候群の評価と治療・援助・指導
第8回	関節リウマチの評価と治療・援助・指導
第9回	ケーススタディー：関節リウマチ 情報収集と評価計画について
第10回	ケーススタディー：関節リウマチ 動作分析とADL評価について
第11回	ケーススタディー：関節リウマチ 動作分析とADL評価について
第12回	ケーススタディー：関節リウマチ 動作分析とADL評価について
第13回	ケーススタディー：関節リウマチ 目標設定とプログラム立案について
第14回	ケース発表
第15回	ケース発表 まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

- ・ケーススタディーでは各自ケースノートを作成し、授業終了後にまとめること。
- ・問題点抽出はICFを使用するため、復習しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験
評価配分：レポート60%、筆記試験40%

■教科書

川平和美：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第3版，医学書院
生田宗博：作業療法学全書 作業療法評価学 改訂第3版，協同医書出版社

■参考書

授業時に指示する。

科目名	作業療法特論Ⅳ	担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次選択科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る選択		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「作業療法治療学」			
キーワード	住宅改修、プランニング、パワーポイント				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

住宅改修のプランニングができるようになることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①住宅改修の手順を示すことができる。
- ②家屋を計測し、図示できる。
- ③基本的な改修方法を示すことができる。
- ④基本的な改修プランを立案することができる。

■授業の概要

障害を持っても住み慣れた地域や家で暮らす、ということはノーマライゼーションの観点から言っても実現されなければならない事項である。その具体的施策の一つが「住宅改修」であり、作業療法士にとって極めて重要な事項でもある。その住宅改修において具体的なプランを立案できるようになることを目的とする。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/福祉住環境のイメージをつかむ
第2回	住宅改修と福祉用具
第3回	実際に計測し、パワーポイントを使用して見取り図を作成する
第4回	パワーポイントを使用して見取り図を作成する。課題発表
第5回	住宅改修の実際:アプローチ・廊下・居室
第6回	住宅改修の実際:トイレ・浴室
第7回	課題制作
第8回	課題制作
第9回	課題制作
第10回	課題制作
第11回	課題制作
第12回	課題制作
第13回	課題ポスター発表
第14回	課題ポスター発表
第15回	課題ポスター発表 住宅改修提案書(レポート)提出

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・専用のUSBを用意しておくこと。デジカメよりパソコンにデータを取り込める環境を用意しておくこと。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明する。

■オフィスアワー

水曜日16時～17時は随時(変更時は掲示する)その他の曜日においては要予約

■評価方法

筆記試験(論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 ポスター発表
評価配分:レポート50%、ポスター発表50%

■教科書

金沢善智著:利用者から学ぶ 福祉住環境整備. 三輪書店,2007

■参考書

木之瀬隆編:作業療法学全書改訂第3版 第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備

科目名	地域作業療法入門I	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (15)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	地域・医療保険・社会保障・自立				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法に関わる社会保障制度について、各法律の定義、内容を理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ①地域リハビリテーションの定義を説明することができる
- ②社会保障制度のしくみについて説明することができる
- ③作業療法に関わる関連法規の概要と規定施設について説明することができる

■授業の概要

地域リハビリテーションに関わる様々な制度、支援、他職種との連携について学ぶ。地域作業療法の実践に必要な基礎知識（主に社会保障制度と社会福祉関連）を学ぶ。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/地域リハビリテーション・作業療法とは。日本の社会保障制度について。
第2回	医療保険制度について
第3回	診療報酬について：リハビリテーションに関わる診療報酬
第4回	長寿医療制度について
第5回	児童福祉法・知的障害者福祉法について
第6回	身体障害者福祉法について
第7回	精神保健福祉法・障害者雇用促進法について
第8回	自立支援法について まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・関連法規を学ぶため、内容は多岐にわたり、また専門用語も多数覚える必要がある。毎回の授業後、資料の整理を兼ねたまとめをしておくこと。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験（■論述 ■客観） □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分：筆記試験100%

■教科書

特に指定しない

■参考書

中村隆一：入門リハビリテーション概論. 第7版, 医歯薬出版株式会社

科目名	地域作業療法入門Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	介護保険 連携 介護老人保健施設				

■授業の目的・到達目標

〔授業の目的〕

作業療法に関わる介護保険について理解し、介護老人保健施設での作業療法について学ぶ事を目的とする。

〔到達目標〕

- ①介護保険制度の概要・対象者・サービス内容を説明することができる
- ②地域リハビリテーションに関わる他職種の役割を説明することができる
- ③介護老人保健施設での作業療法士の業務内容を説明することができる

■授業の概要

高齢者に対する地域リハビリテーション・作業療法に関わる制度や支援、他職種との連携について学ぶ。介護保険を学び、対象者を取り巻く環境や生活上の不便、援助することについてグループで考え、まとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	科目オリエンテーション/介護保険導入の背景、保険者について
第2回	被保険者、財源構成について
第3回	介護認定の流れについて
第4回	介護プラン・支援プランについて/課題
第5回	課題発表 まとめ
第6回	他職種との連携について
第7回	介護老人保健施設での作業療法の実際(グループワーク)
第8回	まとめ

■受講生に関わる情報および受講のルール

〔受講生に関わる情報〕

・介護保険における専門用語を整理し、まとめておくこと。

〔受講のルール〕

- ・シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。
- ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守と対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めないことがあるので注意すること。
- ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為(私語、携帯電話の使用)は厳禁。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習の内容については科目オリエンテーションにて説明します。

■オフィスアワー

火曜日以外

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分: 筆記試験100%

■教科書

特に指定しない

■参考書

長谷憲明: よくわかる 新しい介護保険のしくみ.

科目名	地域作業療法実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	高坂 駿	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	生活支援 就労支援 家族支援 ケアマネジメント 自立支援法 社会資源 ACT 生活保護				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

精神障害リハビリテーションに関わる病院・施設および業務に参加・見学し、地域における作業療法士の役割、業務内容等について学ぶ。

〔到達目標〕

- ①病院や施設を利用している患者様とコミュニケーションを取ることができる。
- ②病院や施設の環境等に応じたリスク管理に留意することができる。
- ③病院や施設が地域でどのような役割を担っているか理解・説明できる。
- ④病院や施設が他機関とどのように連携し、患者様の地域生活を支えているかを理解・説明することができる。

■実習履修資格者

特になし。

■実習時期及び実習日数・時間

3日間の実習。実習終了後、実習先で学んだ情報を整理し、発表する。
実習時期・実習先については決定次第連絡する。

■実習上の注意

実習中は動きやすい運動着と上履きを用意する。その他、注意事項に関しては随時説明する。

■評価方法

実習への参加が評価の前提となる。
実習先評価60%、レジュメ・レポート・デイリーノートなどの提出物30%、学内での発表10%

科目名	地域作業療法実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	悴田 敦子	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻2年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「地域作業療法学」			
キーワード	介護老人保健施設 コミュニケーション				

■授業の目的・到達目標

〔目的〕

介護老人保健施設を見学し、施設・対象者・作業療法士を含む施設職員の役割を学び、実習をとおして自己のコミュニケーションについて考えることを目的とする。

〔到達目標〕

- ①介護老人保健施設の概要、リハビリテーションの概要・目的を説明することができる
- ②作業療法士及び施設職員の役割、対象者について説明することができる
- ③対象者及び施設職員と積極的なコミュニケーションをはかることができる
- ④実習内容を指定の書式に沿って記録し、報告することができる

■実習履修資格者

特になし。

■実習時期及び実習日数・時間

3日間の実習。

実習終了後、学んだ情報をまとめ発表する。
実習先及び日程については決定次第連絡する。

■実習上の注意

実習中は各施設指定の服装をする。
交通手段については決定次第、各自手続きをとること。

■評価方法

実習への参加が評価の前提となる。

実習先評価60%、レジュメ・レポート・デイリーノートなどの提出物30%、学内での発表10%

科目名	臨床評価実習指導 I	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床評価実習指導 I				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

実習前オリエンテーションでは実習準備を、実習報告会では担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ①実習前オリエンテーションで、施設の概要、実習の目的、必要な書類をまとめることができる
- ②実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる
- ③実習報告会で積極的な質問をすることができる
- ④実習報告会で得られた新たな知見を取り入れ、症例報告としてまとめることができる。

■授業の概要

臨床評価実習 I の実習前オリエンテーション、実習報告会を行い、症例報告をまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	実習前オリエンテーション①
第2回	実習前オリエンテーション②
第3回	実習報告会①
第4回	実習報告会②
第5回	実習報告会③
第6回	実習報告会④
第7回	実習報告会⑤
第8回	実習報告会⑥
第9回	実習報告会⑦
第10回	実習報告会⑧
第11回	実習報告会⑨
第12回	実習報告会⑩
第13回	実習報告会⑪
第14回	実習報告会⑫
第15回	実習報告会⑬

■受講生に関わる情報および受講のルール

【受講生に関わる情報】

報告会では発表用レジュメを用意しておくこと。

【受講のルール】

報告会では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分しておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 20% ■質問 20% ■レポート 60%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	臨床評価実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床評価実習指導Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

実習前オリエンテーションでは実習準備を、実習報告会では担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ①実習前オリエンテーションで、施設の概要、実習の目的、必要な書類をまとめることができる
- ②実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる
- ③実習報告会で積極的な質問をすることができる
- ④実習報告会で得られた新たな知見を取り入れ、症例報告としてまとめることができる。

■授業の概要

臨床評価実習Ⅱの実習前オリエンテーション、実習報告会を行い、症例報告をまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。授業時間外学習の詳細は第1回授業にて配布します。

第1回	実習前オリエンテーション①
第2回	実習前オリエンテーション②
第3回	実習報告会①
第4回	実習報告会②
第5回	実習報告会③
第6回	実習報告会④
第7回	実習報告会⑤
第8回	実習報告会⑥
第9回	実習報告会⑦
第10回	実習報告会⑧
第11回	実習報告会⑨
第12回	実習報告会⑩
第13回	実習報告会⑪
第14回	実習報告会⑫
第15回	実習報告会⑬

■受講生に関わる情報および受講のルール

【受講生に関わる情報】

報告会では発表用レジュメを用意しておくこと。

【受講のルール】

報告会では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 20% ■質問 20% ■レポート 60%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	臨床評価実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	3 (135)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床評価実習Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

臨床現場でしか体験できないことを経験することを目的とする。

【到達目標】

- ①評価計画を立案し、実施することができる
- ②評価結果をまとめ、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案を行うことができる
- ③実習内容を記録し、書面・口頭でスーパーバイザーに報告することができる

■実習履修資格者

3年次臨床評価実習Ⅰ開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

12月初旬～3週間

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること

■評価方法

臨床実習の手引き参照

科目名	臨床評価実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	3 (135)
履修要件	作業療法専攻3年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床評価実習Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

臨床現場でしか体験できないことを経験することを目的とする。

【到達目標】

- ①評価計画を立案し、実施することができる
- ②評価結果をまとめ、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案を行うことができる
- ③実習内容を記録し、書面・口頭でスーパーバイザーに報告することができる

■実習履修資格者

3年次臨床評価実習開始までに1年～3年後期までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

1月中旬～3週間

■実習上の注意

臨床実習の手引きを熟読すること

■評価方法

科目名	臨床総合実習指導 I	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習指導 I				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

実習前オリエンテーションでは実習準備を、実習報告会では担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ①実習前オリエンテーションで、施設の概要、実習の目的、必要な書類をまとめることができる
- ②実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる
- ③実習報告会で積極的な質問をすることができる
- ④実習報告会で得られた新たな知見を取り入れ、症例報告としてまとめることができる。

■授業の概要

臨床総合実習 I の実習前オリエンテーション、実習報告会を行い、症例報告をまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	実習前オリエンテーション①
第2回	実習前オリエンテーション②
第3回	実習報告会①
第4回	実習報告会②
第5回	実習報告会③
第6回	実習報告会④
第7回	実習報告会⑤
第8回	実習報告会⑥
第9回	実習報告会⑦
第10回	実習報告会⑧
第11回	実習報告会⑨
第12回	実習報告会⑩
第13回	実習報告会⑪
第14回	実習報告会⑫
第15回	実習報告会⑬

■受講生に関わる情報および受講のルール

【受講生に関わる情報】

報告会では発表用レジュメを用意しておくこと。

【受講のルール】

報告会では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 20% ■質問 20% ■レポート 60%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	臨床総合実習指導Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	1 (30)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習指導Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

実習前オリエンテーションでは実習準備を、実習報告会では担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- ①実習前オリエンテーションで、施設の概要、実習の目的、必要な書類をまとめることができる
- ②実習報告会で使用するレジュメを作成し、発表することができる
- ③実習報告会で積極的な質問をすることができる
- ④実習報告会で得られた新たな知見を取り入れ、症例報告としてまとめることができる。

■授業の概要

臨床総合実習Ⅱの実習前オリエンテーション、実習報告会を行い、症例報告をまとめる。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	実習前オリエンテーション①
第2回	実習前オリエンテーション②
第3回	実習報告会①
第4回	実習報告会②
第5回	実習報告会③
第6回	実習報告会④
第7回	実習報告会⑤
第8回	実習報告会⑥
第9回	実習報告会⑦
第10回	実習報告会⑧
第11回	実習報告会⑨
第12回	実習報告会⑩
第13回	実習報告会⑪
第14回	実習報告会⑫
第15回	実習報告会⑬

■受講生に関わる情報および受講のルール

【受講生に関わる情報】

報告会では発表用レジュメを用意しておくこと。

【受講のルール】

報告会では有益なディスカッションが行えるよう発表者・聞き手ともに準備を十分にしておくこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

授業時に指示する。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

■発表 20% ■質問 20% ■レポート 60%

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	臨床総合実習Ⅰ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	8 (360)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習Ⅰ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

実習施設でスーパーバイザーの指導のもと、対象者の評価、問題点抽出、作業療法目標設定、作業療法プログラム立案・実施、再評価まで行う。

【到達目標】

- ①評価計画を立案し、実施することができる
- ②評価結果をまとめ、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案を行うことができる
- ③計画に基づき作業療法プログラムを実施することができる
- ④作業療法再評価を行い、作業療法プログラムの効果・改善点等を考察することができる
- ⑤実習内容を記録し、書面・口頭でスーパーバイザーに報告することができる

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

6月初旬～8週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること

■評価方法

臨床実習手引き参照

科目名	臨床総合実習Ⅱ	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	6 (270)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	作業療法国家試験受験資格に係る必修		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「臨床実習」			
キーワード	臨床総合実習Ⅱ				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

実習施設でスーパーバイザーの指導のもと、対象者の評価、問題点抽出、作業療法目標設定、作業療法プログラム立案・実施、再評価まで行う。

【到達目標】

- ①評価計画を立案し、実施することができる
- ②評価結果をまとめ、問題点の抽出、作業療法目標の設定、作業療法プログラムの立案を行うことができる
- ③計画に基づき作業療法プログラムを実施することができる
- ④作業療法再評価を行い、作業療法プログラムの効果・改善点等を考察することができる
- ⑤実習内容を記録し、書面・口頭でスーパーバイザーに報告することができる

■実習履修資格者

1年～3年次までに開講されるすべての科目（選択科目は選択の範囲において）の単位修得が必要となる。

■実習時期及び実習日数・時間

9月末～6週間

■実習上の注意

臨床実習手引きを熟読すること

■評価方法

臨床実習手引き参照

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	卒業テーマ、研究計画、研究活動、口頭試問、卒業研究発表				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

さまざまな文献、資料、実践などを手がかりに、自身の研究テーマについて考察を深め、その集大成を図ることを目標とする。

【到達目標】

- ①最終的に「卒業論文」として成果発表することができる。
- ②自主的・計画的にものごとを遂行する「段取り力」を習得する。

■授業の概要

臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第1回	オリエンテーション
第2回	研究テーマの検討
第3回	卒業研究計画の立案
第4回	研究のまとめ方及び論文の書き方指導
第5回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第6回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第7回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第8回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第9回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第10回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第11回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第12回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第13回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第14回	各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動(個別指導)
第15回	中間発表

■受講生に関わる情報および受講のルール

卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自の研究及び執筆活動は、本時間外での取り組みが基本となることをふまえておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。

科目名	卒業研究	担当教員 (単位認定者)	作業療法専攻教員分担	単位数 (時間数)	2 (60)
履修要件	作業療法専攻4年次必修科目	免許等指定科目	一覧表参照		
カリキュラム上の位置づけ		専門科目「卒業研究」			
キーワード	卒業テーマ、研究計画、研究活動、口頭試問、卒業研究発表				

■授業の目的・到達目標

【授業の目的】

さまざまな文献、資料、実践などを手がかりに、自身の研究テーマについて考察を深め、その集大成を図ることを目標とする。

【到達目標】

- ①最終的に「卒業論文」として成果発表することができる。
- ②自主的・計画的にものごとを遂行する「段取り力」を習得する。

■授業の概要

臨床実習等をふまえ、興味ある研究テーマを絞り、そのまとめへのアプローチの手法を各自検討する。個々の調査・研究及びディスカッションを通じて考察を深め、卒業研究としてのまとめを図れるよう、各自が取り組む。

■授業計画

※下記予定は、受講生の関心や理解の程度により多少の変更があります。

第16回	中間発表
第17回	中間発表
第18回	完成に向けての研究活動の継続と執筆(個別指導)
第19回	完成に向けての研究活動の継続と執筆(個別指導)
第20回	完成に向けての研究活動の継続と執筆(個別指導)
第21回	完成に向けての研究活動の継続と執筆(個別指導)
第22回	完成に向けての研究活動の継続と執筆(個別指導)
第23回	口頭試問
第24回	卒業研究発表会
第25回	卒業研究発表会
第26回	卒業研究発表会
第27回	卒業研究発表会
第28回	卒業研究発表会
第29回	卒業研究発表会
第30回	卒業研究発表会

■受講生に関わる情報および受講のルール

卒業研究のテーマ決定、調査・自身の取り組み、論文執筆等、全ての取り組みにおいて、自ら進んで必要な情報を集め、行動し、調整を図り、自主的に取り組むこと。

■授業時間外学習にかかわる情報

各自の研究及び執筆活動は、本時間外での取り組みが基本となることを踏まえておくこと。

■オフィスアワー

なし

■評価方法

「卒業研究に関わる課題探求能力」と「卒業研究に関わる発表能力・質疑応答能力・技術文書作成能力」で評価し、この合計を卒業研究の成績とする。

■教科書

授業時に指示する。

■参考書

授業時に指示する。